

## ご挨拶

私たち浜松商工会議所青年部（浜松Y E G）は、地域を支える青年経済人として豊かで住みよい郷土づくりを目指し、諸活動を展開しております。その一つとして1985年の設立より毎年提言活動を行っております。

今年度は平成最後の提言として、また新年号となる新たな時代への道標の一步となるべく、「Maker 都市浜松 100年後に繋げる ヒト・モノ・伝統・etc.」をテーマに青年経済人の視点から調査研究を重ねて参りました。

先達が大切に育て守られてきた私たちが愛する街「浜松」。経済的打撃を受けたリーマンショックから10年が経過し景気拡大も見られるものの、昨今では人口減少や高齢化による諸問題に直面し、新たな課題解決に向き合っているのも現状です。私たちはY E Gの綱領に「新しい文化的創造をもって、豊かで住みよい郷土づくりに貢献する」とあるように、新たな創造、発想の転換を行いながら今見えている多くの課題に真摯に向き合い、歴史を振り返りながら今ある豊富な資源を最大限に活かし、更に明るく豊かな地域の未来へと繋いで行かなければなりません。

今年度も提言委員会による浜松の明るい未来を創造した渾身の提言書がここに完成いたしました。長文となりますが最後までお目通しいただきましたら幸いです。また本提言が我がまち浜松の経済的発展の支えとなり、延いては市民の皆様が豊かな生活を送るための一助となれば幸いです。

結びに本提言書作成にあたり多大なるご支援ご協力を賜りました全ての皆様に感謝と御礼を申し上げご挨拶とさせていただきます。



浜松商工会議所青年部  
会長 塚本明寿

# 浜松商工会議所青年部 平成30年度 提言書

## 目 次

|                                    |                         |    |
|------------------------------------|-------------------------|----|
| ■ ご挨拶                              | ・・・・・・・・                | 1  |
| ■ 提言背景                             | ・・・・・・・・                | 3  |
| ■ 提言 1                             |                         |    |
| 繋×【誇】～100年後に繋げる made in 浜松～        |                         |    |
| 浜松 BP コネクト構想                       | ・・・・・・・・                | 6  |
| ■ 提言 2                             |                         |    |
| 繋×【育】～100年後に繋げる 公園が育む郷土愛～          |                         |    |
| 浜松 Park 構想                         | ・・・・・・・・                | 22 |
| ■ 提言 3                             |                         |    |
| 繋×【実】～100年後に繋げる 『農』maker 都市浜松～     |                         |    |
| 浜松「リノベジ」デザイン                       | ・・・・・・・・                | 34 |
| ■ 提言 4                             |                         |    |
| 繋×【継】～100年後に繋げる 「浜松中小企業プレミアムサポート」～ |                         |    |
| 産学官で連携・共創して浜松全体で中小企業の現在・未来を繋ぐサポート  | ・・・・                    | 47 |
| ■ まとめ                              | ・・・・・・・・                | 62 |
| ■ 資料編                              | ・・・・・・・・                | 64 |
| (提言1) 資料1-1 調査記録「産業に関する展示・学習施設」    |                         |    |
| 資料1-2 提言視察記録「広島 BOX、MOBIO」         |                         |    |
| 資料1-3 調査記録「浜松商工会議所会員企業」            |                         |    |
| (提言2) 資料2-1 提言視察記録「てらやまプレーパーク、広島市」 |                         |    |
| 資料2-2 調査記録「羽根木常設プレーパーク、井の頭公園」      |                         |    |
| 資料2-3 調査記録「浜松公園課、アセットマネジメント推進課」    |                         |    |
| (提言3) 資料3-1 提言視察記録「広島市農林水産振興センター」  |                         |    |
| 資料3-2 調査記録「浜松市農林水産課」               |                         |    |
| 資料3-3 調査記録「JA とぴあ浜松営農指導課」          |                         |    |
| 資料3-4 調査記録「プロダクトリング㈱」              |                         |    |
| 資料3-5 調査記録「セルリ農家」                  |                         |    |
| (提言4) 資料4-1 調査記録「浜松商工会議所」          | 資料4-2 調査記録「経済産業省、中小企業庁」 |    |
| 資料4-3 調査記録「日本商工会議所」                | 資料4-4 調査記録「浜松市産業振興課」    |    |
| 資料4-5 調査記録「静岡大学情報学部」               | 資料4-6 調査記録「福岡大学」        |    |
| 資料4-7 提言視察記録「大阪イノベーションハブ」          |                         |    |
| 資料4-8 調査記録「文部科学省」                  |                         |    |
| (提言5) 資料5-1 アンケート記録「社会人に対する意識調査」   |                         |    |
| 資料5-2 アンケート記録「学生に対する意識調査」          |                         |    |
| 資料5-3 アンケート記録「商工会議所会員企業に対する意識調査」   |                         |    |
| ■ あとがき                             | ・・・・・・・・                | 95 |

## 提言背景

# 『Maker 都市浜松』

100年後に繋げる ヒト・モノ・伝統・etc.

## 提言背景

- ・ 提言委員会として新たな一歩
- ・ 浜松市はどんな都市なのか？
- ・ Maker 都市浜松 100年後に繋げる ヒト・モノ・伝統・etc.
- ・ 繋げていく
- ・ 提言の4つの柱

## 提言委員会として新たな一歩

今年度の浜松商工会議所青年部は、塚本会長の下「実りある明日へ、繋げよう浜松 YEG」をスローガンとしてスタートを切りました。

本年度、提言委員会は政策委員会から名前が変わり、新たな一歩をスタートしました。理由としては、政策提言から政策という文字を取ることで提言先を限定することなく、いろいろな場所に提言を伝えられるようにしたいという塚本会長の思いがあり、新たな形で伝統の提言委員会がスタートしました。

## 浜松市はどんな都市なのか

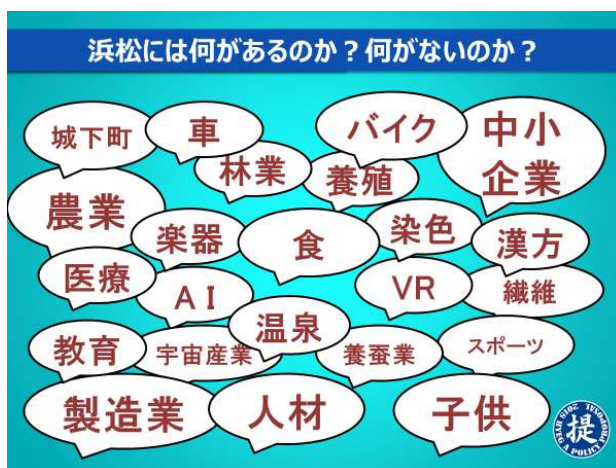
さて、本年度新たな提言を作成するにあたり、まず提言とは何のために行うのかという部分から考えました。商工会議所青年部の綱領、指針、そして本年度スローガンを再度読み直し、改めて提言とは我々の地元「浜松市」が、これからさらに素敵な街になってほしいという想いから行うものだと定義しました。

そこで、我々の地元浜松市はどんな都市なのかを改めて考えるために、例会内においてブレインストーミングなどを行い、様々な意見を出し合いました。



(写真-1)例会風景

ブレインストーミング形式のディスカッションを採用。



(写真-2)

ブレストから導かれた過去現在未来の浜松の産業。

歴史をひも解くと、江戸時代末期から繊維業が盛んになり、それに伴う工業の発展があり今に至ります。工業の発展によりメーカーとそれを支える協力会社も発展していき、政令指定都市の中における人口比率に対する企業数において有数の都市となっています。

結果、我々提言委員会として、浜松とは過去も現在も未来もモノを生み出す都市であると定義付けました。



## 繋げていく

提言テーマを決定するにあたり、我々青年部メンバーの本年度の指針となるスローガン「実りある明日へ 繋げよう浜松 YEG」は非常に重要なキーワードとなりました。

浜松商工会議所青年部では、30年以上にわたり政策提言および全体事業を行っており、ここでは他の都市にはない溢れる魅力を市民にそして対外的にアピールしてきました。しかしながら、上記事業を行っている我々青年部メンバーがまず始めたことは、あらためて浜松市を知り、掘り返すことからでした。何故なら浜松市民である我々が浜松の魅力を知らず、知る場所や機会も十分ではなく、結果浜松の歴史・伝統・etc. に対する認識が不足していることに気づいたからです。

その反省から、浜松に対する多角的な提言を研究・検討し4つの柱を作り出すと共に、その柱全てを密接にリンクさせ、未来へ繋げる提言を目指しました。

## 本年度提言テーマ

### Maker 都市浜松 100年後に繋げる

### ヒト・モノ・伝統・etc.

前述の通り浜松市の姿を定義づけましたが、それに加えて、提言を作成する上で、特効薬のようにすぐ効く処方箋は持続性にどうしても劣ります。そこで、長期的なスパンでの提言をするべきではと考え、100年後という未来に繋げたいものは何があるかについて委員会内で更に意見を出し合いました。

国内および浜松市の人口減少はすでに避けられないのが現状であり、それは誰もが認めているところです。ただそれを緩やかにしていく施策は打てるのではないかと、そしてその施策の根本をなすところは何なのかを考えたときに、やはり現在そして未来の浜松市民が一時的に市外に転出したとしても帰ってきてくれる理由を作ることだと思います。では、どんな理由があれば帰りたくなるのかを考えたときに出てきた答えとは、浜松市が他都市に比べ居心地が良い、誇れる都市だということを中心に理解していることだと定義づけました。

残念ながら、浜松の産業と企業は減少衰退傾向にあり、100年後に向け発展するための道のりは険しいのが現実です。しかしながら、100年後に繋げる施策は今回の後述する提言の4つの柱を実行することで、必ず発展の為の一助となると確信しています。

## 提言の4つの柱

提言1は浜松の産業企業と市民を繋げる提言を。

提言2は浜松の未来を担う子供たちと浜松市と産業企業とを繋げる提言を。

提言3は浜松の隠れた主要産業【農業】と市民を繋げる提言を。

提言4は浜松の産業企業同士、そして産官学を繋げる提言を。

# 提言1 繋×【誇】

～100年後に繋げる made in 浜松～

## 浜松 BP コネクト構想

繋げるために、伝えていく  
「B to B/B to C」+「B to P」

浜松 BP コネクト構想を提案し、『BP コネクトキューブ』『BP コネクトサイト』を構築、また、浜松の中心部に『産業ストリート』を創造する

ことで、企業の「想い」を市民に伝え、市民の「声」を企業に届ける。

市民が暮らしの中で「made in 浜松」を感じられる場を創出することで、

浜松の産業を100年後にまで繋げていく。

### 【提言項目】

- ① 浜松 BP コネクトキューブ
- ② 浜松 BP コネクトサイト
- ③ 浜松産業ストリート

# 「繋げるために、伝えていく」を提言する背景

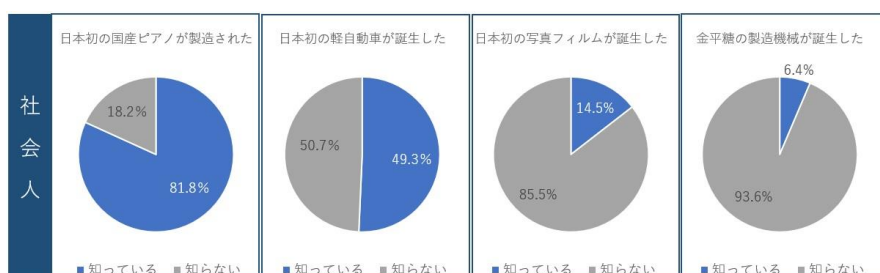
浜松市には戦後の経済発展に貢献してきた工業的技術や伝統産業が成長する過程で生まれた匠の技などの様々な背景を持つ技術があります。また、現在も全国的にも高い工業生産出荷額や農林水産資源があります。しかし、その事実を知らない若い世代が増えてきているのではないかと？その理由は、全国に誇れるほどの素晴らしい技術を肌で感じる「場（機会）」が存在していないのではないかと？このまま素晴らしいハママツイズムを絶やしてしまうのは「もったいない」。浜松の誇りとは何か、それはモノを生み出す産業であり、言い換えればモノづくり企業、そしてその歴史と技術そのものであります。この最も大事な「モノづくり企業を100年後に繋げる」ために必要なファクターこそ「伝える術」なのではないかと仮説を立てました。

## 浜松のモノづくりの歴史や認知度の現状

今回の提言にあたり、市民に対して浜松のモノづくりの歴史や知識を問う認知度調査をアンケート形式で実施しました。国勢調査や統計調査の消費や生産動向の指標は様々なものがありますが、市民に対し知識の生の認知度を測る調査は珍しい取り組みといえるのではないのでしょうか？以下の結果は、2018年10月に浜松市内で「学生150名」「社会人110名」計260名に対し、認知度調査を実施した結果です。

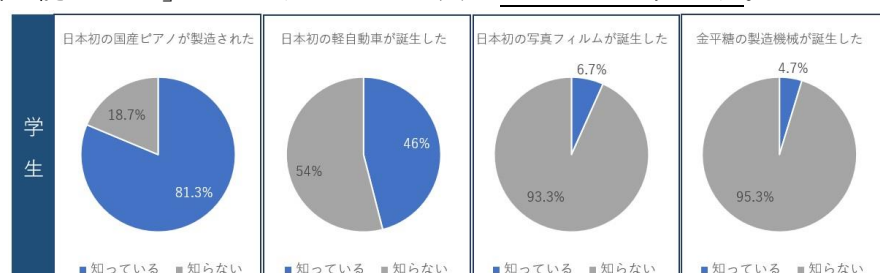
### 【社会人の結果】

「浜松で日本初の国産ピアノが製造された」ことを知っている人は 81.8%と高い。  
「浜松で日本初の軽自動車が生産した」ことを知っている人と知らない人は ほぼ半数。  
「浜松で日本初の写真フィルムが生産した」ことを知っている人は 極端に減り14.5%。  
「浜松で金平糖の製造機械が生産した」ことを知っている人は 僅か6.4%。



### 【学生の結果】

「浜松で日本初の国産ピアノが製造された」ことを知っている人は 81.3%と高い。  
「浜松で日本初の軽自動車が生産した」ことを知っている人は 46%と半数を割込む数値。  
「浜松で日本初の写真フィルムが生産した」ことを知っている人は 僅か6.7%。  
「浜松で金平糖の製造機械が生産した」ことを知っている人は たったの4.7%。



本アンケートは回答のし易さを考慮し、クローズドな質問形式および正直に認知度を回答いただけることを前提とした性善説に則った質問を行っています。つまり「知っているふり」をしようと思えばできてしまうアンケートであるということを先に示しておきます。

※アンケート内容は巻末資料「5－1」「5－2」を参照

この結果を「有名な産業は市民によく知られていて、そうでない産業はよく知られていない」という結論だけで済ませてしまってもよいのでしょうか？左から右に綺麗なまでに認知度が下がっていくこの結果に対し違和感を抱いた我々は、この4つの産業が市民に対して行っている産業PRという点に着目しました。

国産ピアノについては、浜松市はカワイ、ヤマハ、ローランド等の名高い楽器メーカーを抱えており、行政としても音楽の街を前面に打ち出しております。JR 浜松駅の新幹線コンコースにはカワイやヤマハのグランドピアノが置かれるなど県外からの来訪者へのPRも盛んです。軽自動車に関してはスズキの有名芸能人を使っただけのテレビコマーシャルの影響が挙げられます。これらは、現在も主力商品として浜松を拠点に製造され、日本国内はおろか世界へと輸出されている製品です。ところが、日本初の写真フィルムや金平糖の製造機械の誕生は「技術力であり」、現在浜松に生産シェアがあるわけではありません。もとより、写真フィルムや金平糖製造機が浜松で生まれたという事実を伝える場など到底ありません。浜松が誇る「匠の技術」や「高度な発明」を知らない浜松市民が増えています。今回は県外へのアンケート調査は実施していませんが、一見知っていると思っている人も、それらの知識は浜松市民としての知識ではなくTVコマーシャル、ネット、雑誌等の様々なプロモーションに影響された、いわば日本全国共通の知識であり全国調査を行ったとしても同程度のアンケート結果となったのかもしれませんが。

つまり、浜松のモノづくり企業を100年に繋げるための問題点は、浜松市民が「made in 浜松」を知らないこと。そして、浜松のモノづくり企業の持つ「made in 浜松」の誇りが市民に届いていない、そして認知されていないことに気づいていないことだと考えました。

よって、市民の生活の中に自然と「made in 浜松」を感じられる企業情報の発信や市民の声を企業側に伝え「made in 浜松」を共に育てる受信の場の創出に良策なアイデアがあれば「浜松の誇りであるモノづくり企業を100年後に繋げることができる」と考え、提言の一つ目の軸に設定しました。

# 浜松のモノづくり企業側の悩みと現状

市民側の浜松のモノづくりへの認知度は調査により浮き彫りになりましたが、技術を PR する側である浜松の企業や産業界は具体的にどう感じているのか？を明らかにすべく、浜松商工会議所会員企業 12 社へヒアリング調査を実施しました。ヒアリングの質問項目は以下の 10 項目です。

## 【ヒアリング質問】

1. 自社の強みを持っていますか？
2. 次世代に紹介できる（誇れる）強みはありますか？
3. その強みを発信する方法は何ですか？
4. その発信方法に満足していますか？
5. どんな発信方法があったら良いと感じますか？
6. 発信で得たい効果は何ですか？
7. 現在行っている発信による成果はどんなものがありますか？
8. 成果を出すために今考えていることはありますか？
9. 必要としている支援はありますか？
10. その支援による成果が浜松市に与える影響はどんなことが考えられますか？

下記より調査結果及び考察

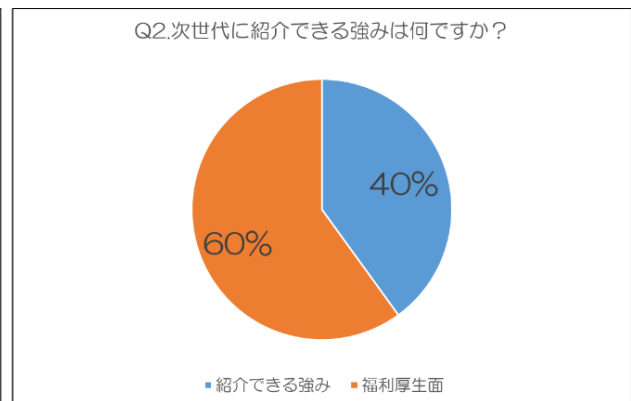
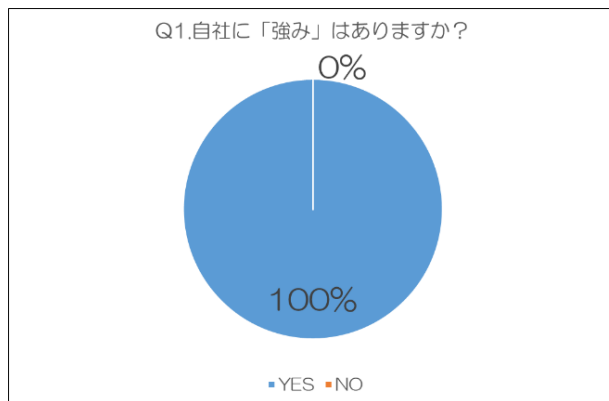
## 【Q1 より考察】

今回のヒアリング企業 12 社中、12 社すべての企業が自社の強みを認識している。強みの代表格として挙げられたのが「技術」「スピード」「社歴」「産業界のパイオニア」等であった。当然ながら、社長自身が自社の強みを理解できていない企業はそれ自体問題であるといえるが、今回のヒアリングではどの企業もはっきりと、そして明確に自社の強みを表現していた。

## 【Q2 より考察】

しかしながら、次世代に紹介できる強みとは？の質問に対しては先のはっきりとした強みの要素が薄れ、福利厚生面を主張する企業が多く見られた。自社の強く主張できる強みであるならば、次世代にその技術力等を前面に打ち出して紹介してもいいと思われるが、そのように主張したのは全体の 4 割の企業にとどまり、残りの 6 割は自社の強みを前面に出すことは無かった。

売り手市場の時代背景はあるものの、興味深い結果であった。



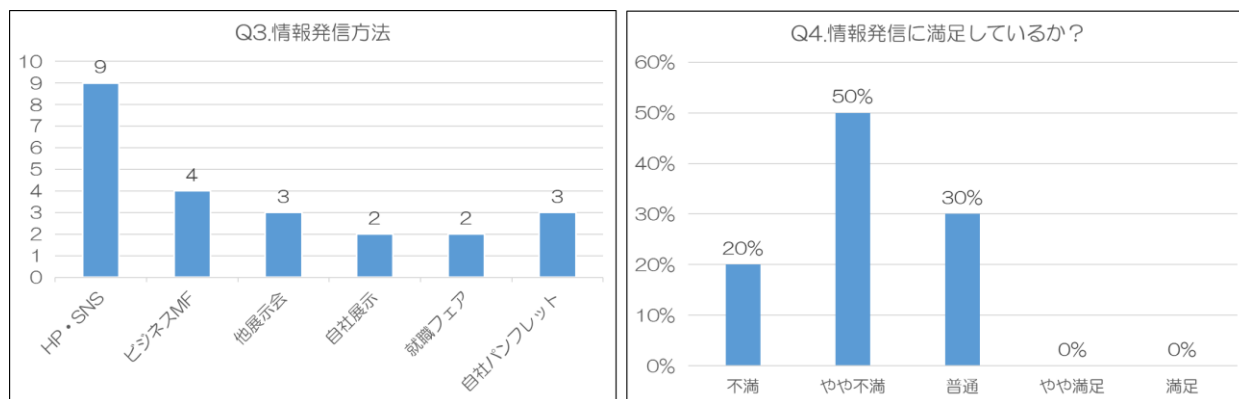
### 【Q3より考察】

自社の強みの情報発信方法として9割の企業が実施しているのがホームページ。自社商品の紹介という点では必要不可欠であり、無いことが不思議に思われるほどの情報化社会ではあるが、情報発信が一方方向であり、エンドユーザーの反応を得られないというデメリットが多分にある。反応を確認するために「フェイス to フェイス」が可能なビジネスフェアなどに出展する企業も何社かあった。また、採用に向けて就職フェアに参加したり、PRのために自社パンフレットを制作する企業もあった。

### 【Q4より考察】

その情報発信に関しての現状満足度については、不満＆やや不満と答えた割合が7割におよんだ。Q3考察でも述べたように、ホームページでの発信は一方方向の発信であり、商品受注やお問い合わせが無い限り閲覧者の興味関心度を図ることは困難である。もちろんグーグルアナリティクスのような分析ソフトを用いてアクセス解析をすることも1つの方法ではあるが、それは多くのアクセスがあって成り立つ分析であり、立派なホームページを作っても検索してもらえなければ見てもらうことすらできないのが現状である。

また、顧客の反応が確認できるビジネスフェアや採用の為の就職フェアにおいては、中小企業としては広報も人事も限られた人材でこなさなければならず、年中PRを続けることは現実的に不可能である。高い技術力を自社の強みであるというQ1の意見とは裏腹に、その思いが届かないことへの不満がQ4の結果になって表れているといえる。ヒアリングの中では「販路を変更する度にホームページもリニューアルしなくてはならない」「自社商品を紹介するサイトであって技術の紹介はできていない」といった意見や「技術力の高さをPRしても就職希望者が増えるわけではない」という意見もあった。自社の「強み」という特徴を広く表現せざるを得ないホームページであるが、あまり表現を広げてしまうと本当にリーチしたい相手に届かないという悩みも存在することが分かった。



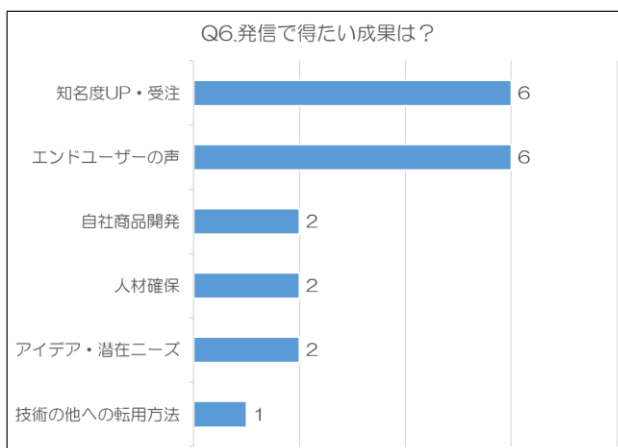
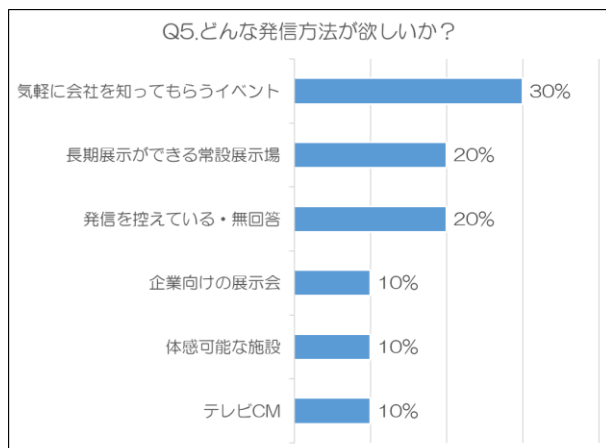
### 【Q5より考察】

では、企業はどんな情報発信方法を希望しているのだろうか？ヒアリングの結果、どの企業も「知ってもらいたい」という欲求がキーワードになっていることに気づく。イベント・常設展示場・企業向け展示会・体感施設などは、一見違いの在りそうな発信方法であるものの、どれもエンドユーザーに自社商品・技術を五感をもって認知してもらおうという点で共通しているところが面白い結果であった。そう回答している企業が全体の7割を占めている。発信を控えているという回答に関しては、人手不足により、製造が追いつかないためのものである。キーワードを繋げると「イベント性があり、企業にも消費者にも商品を身近に手に取って感じてもらえる常設可能な展示場」が仮に存在すれば、企業側の発信に対するニーズを満たすことになると思われる。

### 【Q6より考察】

発信で得たい成果としては、Q3およびQ4でも述べたが、エンドユーザーの声を拾いたいという言葉が各企業から聞くことができた。もちろん結果的に知名度UPや受注につなげたいことが本音であることは間違いないことだが、自社商品開発もアイデアも技術の転用に関しても、自社内での固定概念だけでは販路の拡大・商品認知の向上を図ることが難しいと考えている企業がそのほとんどであり、エンドユーザーの意見を取り入れたいと考えていることが結果から見て取れる。Q5と絡めて考えたならば、ただ商品を身近に感じ取ってもらえる常設展示場ということだけでなく、手に取ったエンドユーザーの反応が企業側にフィードバックされる「PRの場」を望んでいるヒアリング結果が得られた。



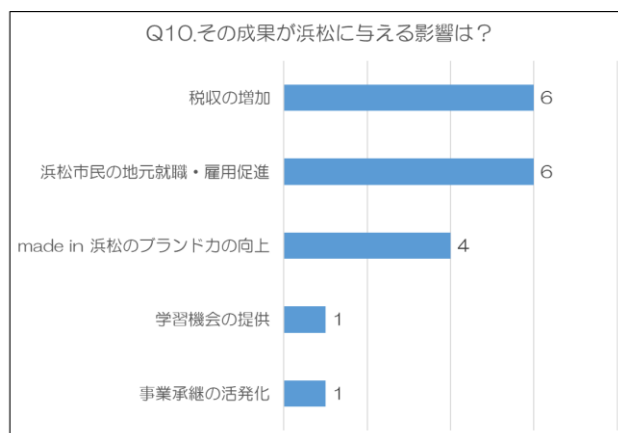
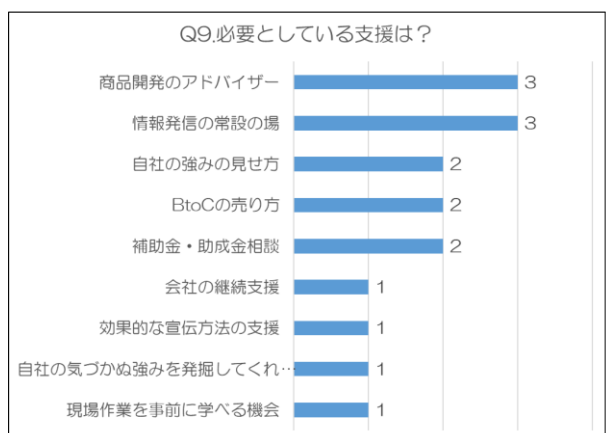


### 【Q9より考察】

必要としている支援に関しても「情報発信の常設の場」と答えた企業が3社あり、商品開発アドバイザーやデザイナーに関しても、自社商品の魅力を理解してもらった上でのデザイン支援であり、外部の知恵を借りたいという願いをヒアリングすることができた。経営コンサルティング的な支援よりもどれだけ企業や消費者とつながり認知してもらえるかの支援を望んでいる企業が多いことが分かった。ただ、望んではいるもののそれを満たすための手段を考える「時間」も「場所」も「人」も「お金」もないというのが現状である。現存する各支援機関による支援は必要不可欠なことであることは間違いないが、真に中小の企業が抱える問題、真に望むニーズとは、自社商品や技術をどれだけエンドユーザーに伝達できるかの1点にかかっているように感じた。

### 【Q10より考察】

最後の質問として、浜松に与える影響を尋ねてみたところ、どの企業も浜松が元気になり、雇用が促進され、ブランド力が向上すると信じ、願っている。今回のヒアリングにより、各企業の生の声を聴くことで改めて「商品を身近に手に取って感じてもらえる常設可能な展示場」の必要性を感じることができた。



企業ヒアリングの結果としては「自社の強みは把握しているが、発信方法やPRが具体的でない」「情報を発信する場がない」「常時発信する手段がない」という企業の悩みが導き出されました。

企業が求める情報発信とは、

#### ■ イベント性があり、企業にも消費者にも商

品を感じ取ってもらえる、常設可能な情報発信の場

#### ■ 消費者の生の声を聴けるような情報発信および受信の場

という特徴が導き出されました。

では、そういった企業側のニーズを満たしてくれる支援機関は浜松には無いのでしょうか？ 浜松地域には「浜松商工会議所」「浜松起業家カフェ」「日本貿易振興機構」「浜松地域イノベーション推進機構」「フォトンバレーセンター」などが存在し、多面的に経営相談や技術相談、販路拡大のサポートを受けることが可能です。「各商工会」や「金融機関」「浜松工業技術支援センター」なども存在し他都市と比べても企業のサポート体制が充実していると言えます。

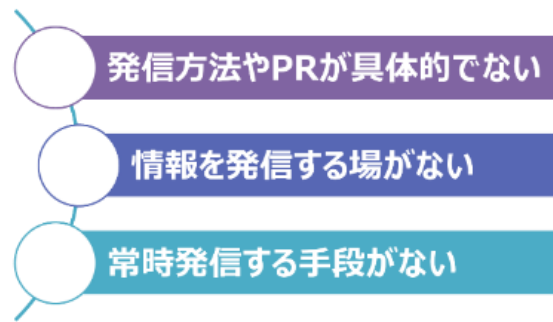
しかしながら、今回の企業ヒアリングの結果から得られた「イベント性があり、企業にも消費者にも商品を感じ取ってもらえる、常設可能な情報発信の場」の提供や「消費者の生の声を聴けるような情報発信および受信の場」の創出を行っている支援機関は存在しておらず、それらを実現するための支援を企業側に行うことこそ、企業側のニーズを満たすことにつながると考えました。

しかしながら、今回の企業ヒアリングの結果から得られた「イベント性があり、企業にも消費者にも商品を感じ取ってもらえる、常設可能な情報発信の場」の提供や「消費者の生の声を聴けるような情報発信および受信の場」の創出を行っている支援機関は存在しておらず、それらを実現するための支援を企業側に行うことこそ、企業側のニーズを満たすことにつながると考えました。

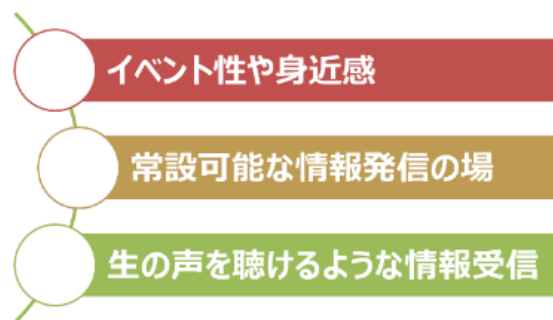
また、企業側のニーズを満たすだけでは100年後まで浜松の産業は繋がりません。これまでのビジネスモデルのBtoBやBtoC（消費者）という固定概念にとらわれず、利害関係者以外の多くの人と企業が直接繋がることで『産業の認知』に至るのではないかと考えるようになりました。

企業（Business）と市民（People）を繋ぎたい！それが実現できたなら、Maker都市浜松を100年後に繋げられる！そのように我々は考え、今回の提言の二つ目の軸に設定しました。

#### 情報発信のヒアリングの特徴



#### 企業が求める情報発信



## 市民や来訪者が気軽に地元産業技術を感じられる場

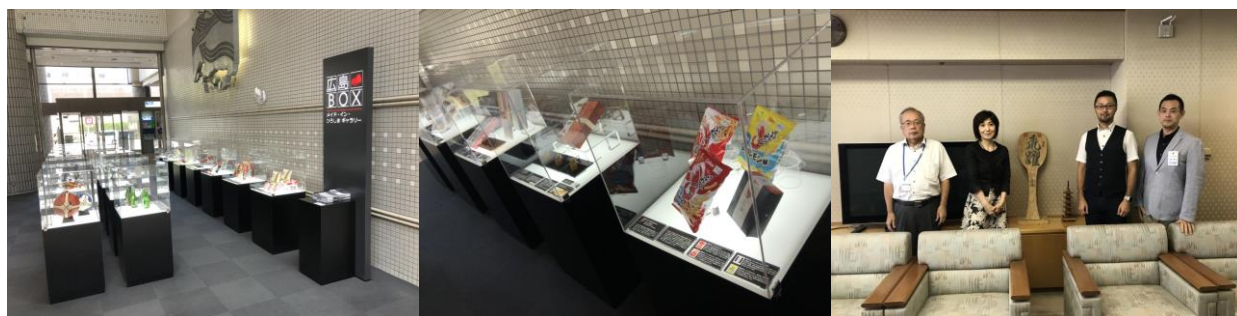
そこで企業の情報発信の実例について以下の2つの施設のベンチマーク調査を行いました。ベンチマークの目的としては「市民や市外からの来訪者が気軽に浜松の地元産業技術を肌で感じられるような施設であること」「地元産業をPR可能な常設の展示場であり、企業と市民がつながる場所であること」この二つをテーマに場所の選定を行いました。

### ■広島BOX～メイド・イン・ひろしまギャラリー

※視察概要は巻末資料「1－2」を参照

「広島BOX～メイド・イン・ひろしまギャラリー～」では、50センチ角のアクリルボックスの中に、広島県産の製品やモデルが、広島県の「宝」として展示されています。企業及び製品の特長や魅力を紹介するキャプションを配置し、来場者向けパンフレットを配付するとともに、テーマ別に年に4回程度、展示替えも行われています。

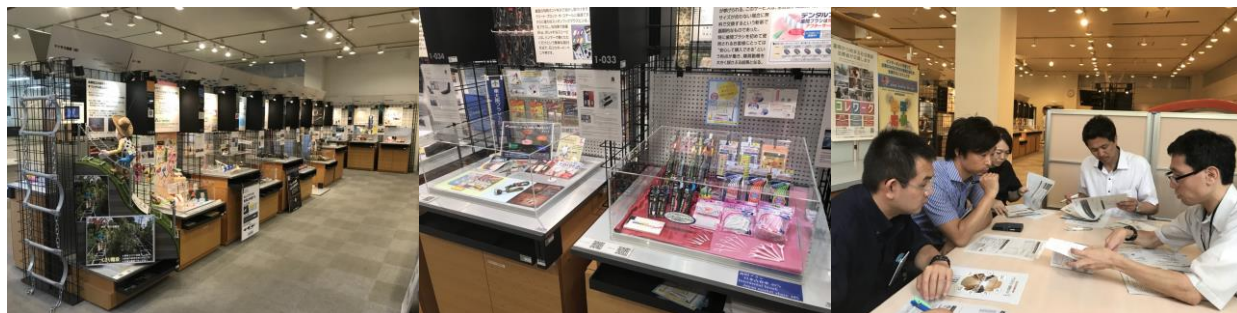
「広島BOX～メイド・イン・ひろしまギャラリー」を見る人に、広島県産品の一つ一つが持っている「ものづくり技術の粋」と「デザインの美」を感じてもらうための施策です。



### ■MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）

※視察概要は巻末資料「1－2」を参照

MOBIOは、技術力の高いものづくり企業が集積している大阪東部地域において、中小ものづくり企業のイノベーションの促進を目的として整備された、ものづくりに関する総合的な支援施設クリエイション・コア東大阪内にある、ものづくり企業の総合支援拠点です。施設の運営体制は、大阪府・大阪産業振興機構・(株)コンベンションリンケージの3社により運営されています。土地建物の所有は中小企業基盤整備機構、自主事業の実施や貸しホールや会議室の運営は東大阪市産業創造勤労者支援機構が実施しています。建物の2フロア部分の展示場には約200ブース中小企業の最新技術や製品が展示され、企業PRはもとより、販路拡大や受発注先の模索、他企業との交流に大いに役立っています。



以上の調査や視察等から我々は次の通り提言致します。

## 浜松 BP コネクト構想とは？

浜松 BP コネクト構想とは、企業（Business）と市民（People）を繋ぎたいという思いから生まれました。

簡単に説明すると、これまでのビジネスモデルの BtoB、BtoC という枠にとらわれず、利害関係者以外の市民と企業が直接繋がることで、

■製品や商品、そして企業自体の認知を高める。

■市民の声が直接、企業（モノづくりの現場）に届く。

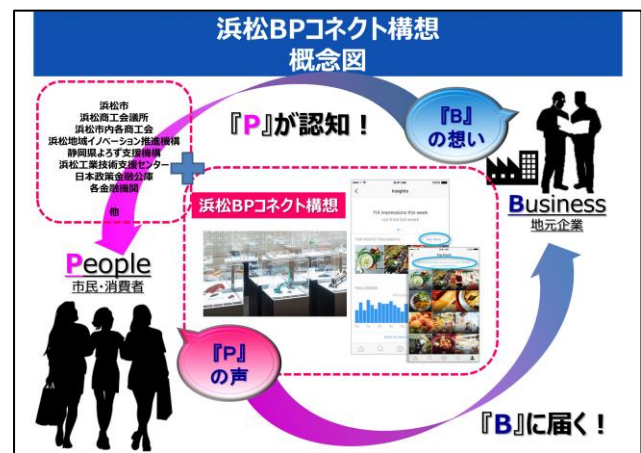
ことを可能とするシステム構築を意味しています。

先述の通り、浜松にも静岡県や浜松市そして民間支援団体等、素晴らしい支援機関が存在しています。そしてそれら支援機関が「浜松地域イノベーション推進機構」を中心に「地域産業ネットワーク会議」を組織し、一体的に支援する体制も整い始めています。「各金融機関」「起業家カフェ」など起業家達のスタートアップ支援も活発に行われ始めました。

しかし、その積極的な活動はどれも、各企業の Wants（今叶えたいコトへの支援）を満たすものとなっています。企業の抱える Needs（真に達成・解決したい欲求）に

応える働きかけが必要になります。また、各支援機関がネットワークを組むだけでなく、浜松市が中心となって一つに纏まる機関を浜松の産業界に発足することにより、さらに素晴らしい支援が供給できるのではと考えました。しかし、仮に現存の支援機関が連携を深めそれをグリップまたは、ガバナンスをかけることができたとしても、あくまで「B to B」もしくは「B to C」であり「産業と市民生活がリンクした取り組み」とはまだ言えません。「B to P（People）」の取り組みこそ「浜松の企業（特に中小企業）の魅力を紹介」でき「浜松の子供たちに浜松の素晴らしさを学ばせる」支援なのではと我々は考えました。

今回の提言調査で市民アンケートや企業ヒアリング、ベンチマークの結果から何が必要だったのか？何を導き出せたのか？そう「伝え&繋がる場」。グリップ機関は「伝え&伝える場」を提供（管理）しなくてははいけない！と考えました。



▲ 浜松BPコネクト構想概念図  
「Pの声をBに届ける！」



## 「伝え・繋がる場」とは？

我々は当初、産業博物館の整備を考えました。浜松にはたくさんの博物館や各企業の広報的な施設がいくつもありますが、浜松の産業の歴史を一か所で学べる場がないからです。しかしながら、そのような施設を作ってもその維持管理だけで余計なコストが必要となります。我々は大それた箱モノを作ることが目的ではないということに、提言調査を進めていく中で変わっていきました。

■市民が暮らしの中で「made in 浜松」を感じられる場

■企業が市民に近い位置で「made in 浜松」を表現でき、声を聴ける場

この2つを構築することで「made in 浜松」を市民に伝え、企業(Business)と市民(People)が繋がるのが、浜松 BP コネクト構想の最大の目的となります。

## 浜松BPコネクト構想 ①BPコネクトキューブ

BPコネクトキューブは「made in 浜松」を市民が体感できる情報発信ツールです。各辺500mmの立方体の中に各社・各産業の商品や技術など何でも自由に表現することが可能です。地元浜松ならではの商品を展示することはもちろん、浜松の持つ技術力の高さ(例えば、メッキやピアノ塗装の精巧さなど)を表現することもできます。この浜松の技術の高さを表現した宝石箱であるBPコネクトキューブが一定の歩行量が担保される中心市街地や官公庁施設、ショッピングセンターに複数台設置されることで、そこを歩く市民や来訪者に自然発生的にその技術力を伝えることが可能となります。産業の展示となると、博物館や地場産業館のような施設に展示されることがほとんどでした。また、大規模な商品展示となるとその為に多額な場所代や装飾代、宣伝費が必要となります。例えば、新型車両の実車展示や新型楽器の視聴試奏会などです。結果的に中小零細企業はその技術をPRしたくても費用対効果を考えると実現できません。このBPコネクトキューブは、そんな高い技術を持った中小零細企業のNeeds(真に達成・解決したい欲求)を満たすツールとなります。また、商品を展示するだけにとどまらず、体験型・体感型の展示としていくことも「伝える」という点では重要な仕掛けとなります。例えば「近くを通ると餃子のいい香りがする」「実際にその質感に触れて確かめることができる」「ゲーム感覚で挑戦することで商品技術を感じてもらう」などの仕掛けも、BPコネクトキューブは場所や仕様を選ばないため実現が可能となります。実際にそのような仕掛けは、佐渡金山展示資料館内の金塊を取り出すゲーム要素を取り入れた展示等に存在し、来館者を楽しませています。金の街をPRする展示物としてはその務めを十分に果たしているといえるのではないのでしょうか？そして、BPコネクトキューブのもう一つの利点は、スペースさえあればどこにでも設置が可能であるということです。かなりの数を並べて産業展のようなイベントとしても利用が可能ですし、数台で期間ごとに企業や商品を入れ替えたり、展示場所を選んで移設することも容易です。このように実際に在りそうで無かったモノがこのBPコネクトキューブであり、そのフレキシブルさが故にその可能性は無限に広がっていきます。昨今のICT技術をもってすれば、スマートフォンをかざせ

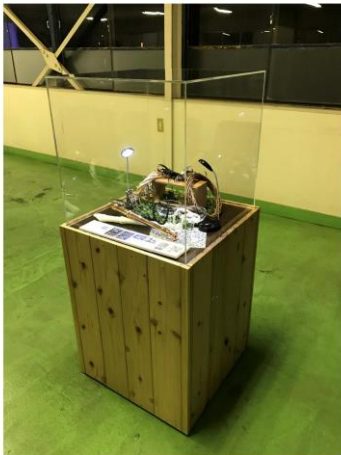
ばAR（仮想空間）を表現し、より詳細な商品情報や技術紹介をすることも可能ですし、VR技術でその製造工程を体験することも可能かもしれません。企業（Business）と市民（People）の繋がりにより、市民（People）がインフルエンサーとなり、商品PRの手助けをしてくれることもあるかもしれません。

そんな100年後に繋げるための最初の年をこのBPコネクトキューブが作ってくれると我々は信じています。

## 浜松BPコネクト構想

### ①BPコネクトキューブ

「made in 浜松」を実際に体感できる情報発信ツール



▲産業フェアが恒常的に行われ、市民が生活の中で産業に触れる機会の創出

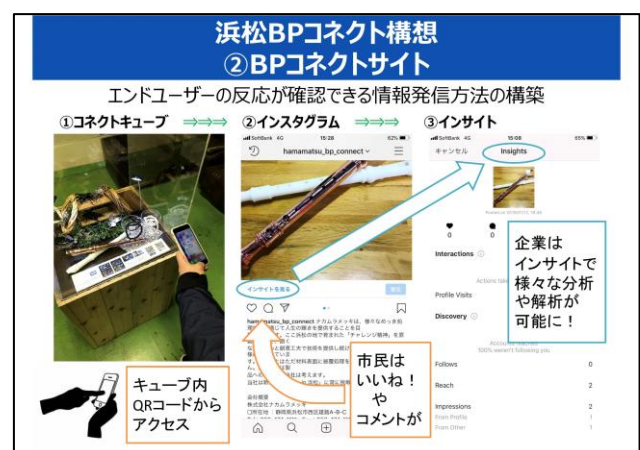


▲佐渡の金塊を取り出す体験型産業展示の例

## 浜松 BP コネクト構想 ②BP コネクトサイト

BP コネクトキューブを浜松市内の様々な場所に設置し『市民が暮らしの中で「made in 浜松」を感じられる場』を創ることができたとしても、我々が目指す『企業が市民に近い位置で「made in 浜松」を表現でき、声を聴ける場』を創り上げられたことにはなりません。BP コネクトサイトは、端的に説明しますと、市民が情報を発信し。企業が反応を確認できるサイトとなります。BP コネクトキューブを見て「この企業の考え方は面白い」、「この商品が気に入った」「生産者に聞いてみたいことがある」など様々な関心を抱いた市民は、企業側にレスポンスを示すことができます。

ここで重要になる点が「レスポンスを示すことができる」という点です。先の企業へのヒアリング調査でも述べましたが、各企業は情報発信方法としてホームページ等を既に有しています。しかしながら、ホームページでは広く分かりやすく自社商品を紹介しなければならないがために、本来表現したい自社の技術力などコアな部分は表現し難いことが現状です。その為、問合せの項目をサ



▲インスタグラムを利用した消費者の声を企業が聴ける仕組み。【BPコネクトサイト】

イト内につくり、メールで問い合わせを受け付ける形式をとらざるを得ません。入る問い合わせは「実際に商品を欲する人からの質問」や「クレーム」が主であり、閲覧者の興味関心度合を図るものではありません。

企業側の本音は、エンドユーザーの生の声を聴きたいわけであり、商品や技術に対してのエンドユーザーの反応が欲しいのです。その反応が企業側にとって自信にもつながり、また新たな商品開発にもつながるのです。それを達成してくれる仕組みが『BP コネクトサイト』です。

BP コネクトサイトの特徴は以下の4点です。

■BP コネクトキューブには生産者の企業紹介・商品紹介と共に QR コードを設置

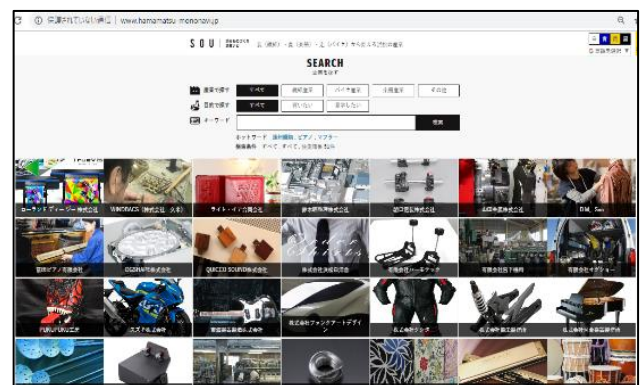
■BP コネクトキューブに興味を持った人は QR コードから BP コネクトサイトにアクセス

■展示物や企業ページへの感想や、こんなものが欲しい！などの消費者側の想いを発信可能

■企業は幅広い消費者の考えを知ることができ、商品開発や販売に活かすことが可能

BP コネクトサイトは「Instagram」と「Facebook」を利用しています。先述のレスポンスがここで生きてきます。ホームページの問い合わせフォームに問い合わせ内容をつらつらと記述するのには消費者としてもなかなか労力が必要となります。しかし『いいね！』をするくらいの反応は容易です。集まった『いいね！』はインサイト情報で分析や解析も可能となります。また、企業側は他社の反応が良い（『いいね！』数が多い）記事から学び、自社の広告宣伝方法を高めることにもつながります。「made in 浜松」企業同士がつながり、共に切磋琢磨することで、記事の内容はどんどん良いものになっていきます。BP コネクトサイトの活用と発展は、BP コネクトキューブという『市民が暮らしの中で「made in 浜松」を感じられる場』を『企業が市民に近い位置で「made in 浜松」を表現でき声を聴ける場』へと変化させることに繋がります。

現在、浜松市産業振興課で運営がされている浜松市ものづくりナビ「SOU」というホームページサイトがあります。「浜松ものづくり企業ナビ SOU」は、浜松市が運営する地域産業分野（主に繊維・楽器・バイク）の企業情報を集約したホームページです。浜松市内における地域産業企業個々の魅力、強みを集約して見える化し、地域内外に向けて継続的に情報発信することで、モノづくりのまち浜松をPRするとともに各分野における浜松のブランド力を



▲浜松市産業振興課が発信している  
浜松ものづくりナビ「SOU」

高めることを目的としたサイトです。繊維・楽器・バイク産業に関連し、原則浜松市内に本社がある企業または店舗は取材と掲載が無料で可能となります。こんな素敵な取り組みをホームページ内だけで止めてしまってはもったいないと我々は感じました。この「SOU」とBP コネクトサイトがリンクすることは技術的にも容易なことですし、BP コネクトキューブとBP コネクトサイトによる浜松BP コネクト構想は、実現不可能な机上の空論でなく、極



めて実現可能性の高い提言であります。「モノづくり企業を100年後に繋げる」ために「伝える術」を検討した我々としては、現在ある「伝える術」をいかに活かすか、更に強く伝える術は何があるのかが重要であると考えます。

## 浜松 BP コネクト構想 ③浜松産業ストリート構想

提言内容自体は以上ですが、我々は本提言の効果を最大限に発揮し、また最短で実現に至る方法を検討しました。そこで昨年9月に新聞でも取り上げられた浜松市による新川モールの整備方針に着目しました。浜松 BP コネクト構想の効果最大化と実現性を高める策として『浜松産業ストリート』の構築を提言に加えさせていただきます。浜松産業ストリート構想とは、先ほど紹介した BP コネクトキューブや浜松の産業の歴史がわかる情報を新川モールに展示し、新川モールを産業ストリートにしようという構想です。浜松にはたくさんの企業が存在しているため全国から多くのビジネスマンが出張で訪れると聞いています。また2019年には JR 全社による静岡ディステーションキャンペーンが本番を迎え、ラグビーワールドカップがエコパスタジアムで開催されます、2020年には東京オリンピック・パラリンピックも控えており、多くの外国人観光客が浜松に訪れることも必至であると言えます。観光機運も味方をしてくれる今こそが当に浜松の誇りである『モノづくり企業の歴史と技術』を PR する絶好の機会なのではないでしょうか？

その為にも『市民が暮らしの中で「made in 浜松」を感じられる場』『企業が市民に近い位置で「made in 浜松」を表現し、声を聴ける場』を創出する浜松 BP コネクト構想を計画中の新川モールで実現し、浜松産業ストリート構想の実現にまで発展させることを提言いたします。



### ▼産業ストリートで BP コネクトキューブおよび BP コネクトサイトを利用する消費者の様子





# 本提言「浜松 BP コネクト構想」がもたらすメリット

「B to B・B to C」に「B to P (People)」を加えてこそ、浜松の企業（特に中小企業）の魅力を紹介でき、浜松の子供たちが浜松の素晴らしさを学べる支援になるのではと我々は考えました。今回の提言調査アンケート結果から何が必要だったのか？それは「伝え＆伝わる場」と「企業が市民の声を聴ける術」が必要だということでした。再三になりますが、我々の提言の目的は、以下の2点です。

■市民が暮らしの中で「made in 浜松」を感じられる場

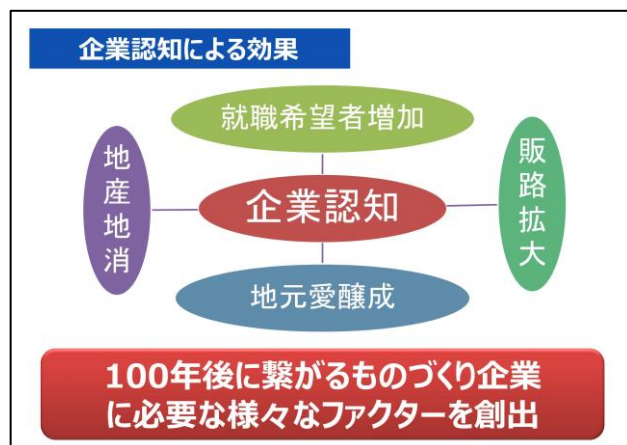
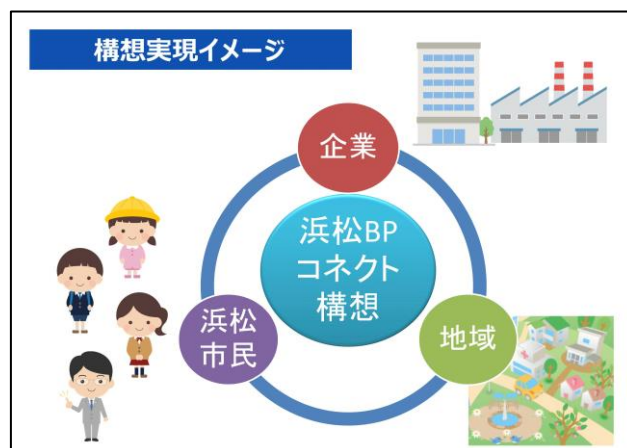
■企業が市民に近い位置で「made in 浜松」を表現でき、声を聴ける場

この2つの目的を『浜松 BP コネクト構想』は必ずや満たしてくれるものと我々は考えます。

浜松の伝統産業を100年後に繋げるために、実現不可能な高度な提言が必要でしょうか？開発や実施までに時間や多額の費用が必要な事業が必要でしょうか？我々はそうは思いません。100年後に繋げるための1日は、今こうしているうちにも始まっているのです。

市民や消費者に伝統産業を認知してもらい、浜松の「誇」を「繋げる」ために、実現可能な提言をコンセプトに調査・検討を重ねてまいりました。

また、当提言の実現は、産業界の『「誇」を「繋げる」』だけにとどまりません。特に、浜松市民への認知が広がることで、以下のような効果も大いに期待ができます。



▲企業認知により、さらに広がる効果

★産業や技術の地産地消（地元消費）が促進される

★地元企業と地域とのつながりが自発的に生まれる

★県内外の販路拡大につながる機会が創出される

★地元の産業を誇れる『地元愛』が生れる

★地元企業に就職したいという若者が増加する

浜松市は2018年全国政令指定都市の幸福度ランキングで見事総合1位となりました。その要因は『浜松市は財政健全度や合計特殊出生率1位、自治体としての基本的なポテンシャルが高いことに加え、古くからのモノづくり産業が集積しているなど、安定した雇用環境も有している。また、健康分野や生活分野も上位3位内と高順位で、健全な市民生活を送ることができる環境も整っており、総合ランキングで、さいたま市を抜きトップとなった。(東洋経済社 記事より)』とされています。住んで幸せな街であることは統計データからも実証されたことになります。

浜松 YEG では今までも、人口流出を問題視した提言や地元就労促進、事業承継を目的とした提言などを行ってまいりました。それら全てに共通して言えることは「郷土愛」に他なりません。シビックプライドに関する調査は指標化が難しく市町村ごとのデータに統一感がありませんが、郷土愛ランキングを県別に見ると静岡県は「愛着度が10位」「自慢度が18位」とまだまだ発展の余地はある数字となっています。『浜松 BP コネクト構想』は、地元への「誇り」を醸成し、地元への「愛着」も生んでくれます。

『浜松 BP コネクト構想』でハママツイズムを100年後に繋げ、住んで幸せな街に加え、住みたくなる街、住んで誇りに思える街にしていきたいと思います！

| 愛着度 |      |      |      | 自慢度 |      |      |      |
|-----|------|------|------|-----|------|------|------|
| 順位  | 都道府県 | 点数   | 昨年順位 | 順位  | 都道府県 | 点数   | 昨年順位 |
| 1   | 北海道  | 54.4 | 1    | 1   | 京都府  | 45.8 | 1    |
| 2   | 沖縄県  | 54.2 | 4    | 2   | 北海道  | 41.7 | 2    |
| 3   | 京都府  | 51.4 | 2    | 3   | 沖縄県  | 35.6 | 5    |
| 4   | 大分県  | 47.9 | 13   | 4   | 福岡県  | 35.0 | 3    |
| 5   | 熊本県  | 47.2 | 5    | 5   | 熊本県  | 34.2 | 9    |
| 6   | 福岡県  | 47.1 | 3    | 6   | 大分県  | 31.2 | 11   |
| 7   | 宮城県  | 43.1 | 15   | 7   | 長野県  | 31.0 | 6    |
| 8   | 宮城県  | 42.4 | 13   | 8   | 鹿児島県 | 28.6 | 4    |
| 9   | 長野県  | 42.2 | 10   | 9   | 宮城県  | 27.2 | 19   |
| 10  | 静岡県  | 42.0 | 11   | 10  | 長崎県  | 26.9 | 7    |
| 11  | 大阪府  | 41.7 | 12   | 11  | 兵庫県  | 25.4 | 12   |
| 12  | 愛媛県  | 40.4 | 26   | 12  | 大阪府  | 24.7 | 20   |
| 13  | 滋賀県  | 39.9 | 30   | 13  | 神奈川県 | 24.5 | 10   |
| 14  | 福島県  | 38.7 | 17   | 14  | 宮城県  | 24.4 | 18   |
| 15  | 兵庫県  | 38.6 | 7    | 15  | 滋賀県  | 23.7 | 29   |
| 16  | 岩手県  | 37.2 | 20   | 16  | 東京都  | 23.3 | 16   |
| 17  | 石川県  | 36.2 | 35   | 17  | 奈良県  | 23.2 | 23   |
| 17  | 広島県  | 36.2 | 9    | 18  | 静岡県  | 23.0 | 8    |
| 19  | 鹿児島県 | 34.8 | 5    | 19  | 石川県  | 22.8 | 17   |
| 20  | 岡山県  | 34.4 | 32   | 20  | 愛媛県  | 21.7 | 25   |
| 21  | 愛知県  | 34.2 | 18   | 21  | 福島県  | 21.6 | 21   |
| 22  | 神奈川県 | 34.0 | 16   | 22  | 広島県  | 21.4 | 13   |
| 23  | 長崎県  | 33.4 | 8    | 23  | 岩手県  | 20.2 | 14   |
| 24  | 奈良県  | 33.0 | 18   | 23  | 高知県  | 20.2 | 27   |
| 25  | 高知県  | 32.4 | 30   | 25  | 山梨県  | 19.2 | 15   |
| 26  | 青森県  | 31.2 | 27   | 25  | 香川県  | 19.2 | 39   |
| 26  | 東京都  | 31.2 | 29   | 27  | 福井県  | 18.5 | 42   |
| 28  | 山口県  | 31.0 | 40   | 28  | 山口県  | 18.3 | 22   |
| 29  | 山形県  | 30.9 | 37   | 29  | 岡山県  | 18.1 | 38   |
| 30  | 佐賀県  | 30.7 | 45   | 30  | 愛知県  | 17.7 | 29   |
| 31  | 鳥取県  | 28.9 | 44   | 31  | 青森県  | 17.2 | 26   |
| 32  | 富山県  | 28.6 | 34   | 31  | 佐賀県  | 17.2 | 47   |
| 32  | 徳島県  | 28.6 | 33   | 33  | 鳥根県  | 16.7 | 34   |
| 34  | 香川県  | 28.4 | 36   | 34  | 新潟県  | 16.6 | 32   |
| 35  | 栃木県  | 27.7 | 46   | 34  | 富山県  | 16.6 | 29   |
| 35  | 群馬県  | 27.7 | 38   | 36  | 栃木県  | 14.8 | 44   |
| 35  | 福井県  | 27.7 | 21   | 36  | 三重県  | 14.8 | 24   |
| 38  | 新潟県  | 27.3 | 24   | 38  | 山形県  | 14.6 | 28   |
| 39  | 秋田県  | 26.2 | 25   | 39  | 鳥取県  | 14.2 | 37   |
| 40  | 山梨県  | 25.6 | 42   | 40  | 和歌山県 | 13.2 | 45   |
| 41  | 三重県  | 25.3 | 22   | 41  | 徳島県  | 13.1 | 40   |
| 42  | 和歌山県 | 24.2 | 39   | 42  | 千葉県  | 12.8 | 41   |
| 43  | 千葉県  | 23.9 | 43   | 43  | 秋田県  | 11.9 | 35   |
| 44  | 茨城県  | 23.2 | 41   | 44  | 群馬県  | 10.9 | 33   |
| 45  | 岐阜県  | 23.1 | 23   | 45  | 埼玉県  | 8.5  | 46   |
| 46  | 鳥根県  | 21.8 | 28   | 46  | 茨城県  | 8.1  | 42   |
| 47  | 埼玉県  | 21.1 | 47   | 46  | 岐阜県  | 8.1  | 36   |

## 提言2 繋×「育」

～100年後に繋げる公園が育む郷土愛～

# 浜松Park構想

公園を人と企業を繋ぎ郷土愛を生み出す場へ

公園を有効活用することによって、企業と地域住民を繋ぐ場、100年後の maker 都市浜松を担う子供たちの郷土愛醸成の場とする。

### 【提言項目】

- ① はままつプレーパーク
- ② かいぼり事業
- ③ ネーミングライツ制度の活用

## 提言の背景

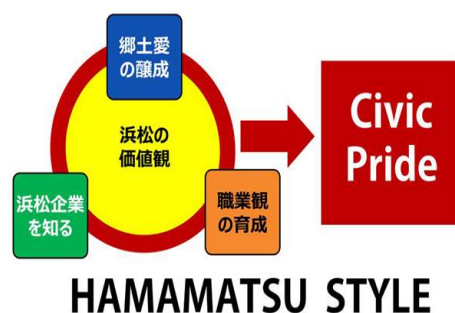
本年度の提言テーマである Maker 都市浜松 100 年後に繋げる ヒト・モノ・伝統・etc.. ~を受け、100 年後に何を繋げていくことで、Maker 都市浜松の明日・未来を実りのあるものにしていくことができるかを考えてきました。小委員会で検討を重ねた中で導き出した結論は、

今も 100 年後も Maker 都市浜松を支えるために必要となるのはやはり『人』であり、  
それもただの『人』ではなく、『浜松への愛を持った人』である

でした。

平成 27 年度の政策提言においても、シビックプライドこそ地方創生の力であり、  
郷土愛 X (職業観+浜松企業認知) X 浜松の価値が  
シビックプライド (Civic Pride) を醸成していくと結論付けています。

私たちもこの結論は真であると確信しており、100 年後の Maker 都市浜松を実りあるものにするためにも  
『郷土愛』『職業観・企業認知』『浜松の価値』は不可欠な要素です。



ここで、一つ付言させていただきたいのは、前段の小委員会での結論部分で、Maker 都市浜松を支えるために必要となるのは『浜松への愛を持った人』という言葉を使った点です。

あえて郷土愛という言葉を使わず、『浜松への愛を持った人』としたのは、『郷土愛』の一般的な意味として、自分が生まれ育った故郷に対する愛情・愛着とされているからです。現在の浜松を支えている方の中には大人になってから浜松に移り住み、浜松を愛し、浜松の力として活躍されている人も数多くいらっしゃいます。ただ、この浜松に移り住んだ人たちはなぜ浜松を愛するようになったかといえば、それはやはり、浜松の魅力と価値に触れる機会があったからだと思います。そして、浜松に移り住んだ人に Maker 都市浜松の魅力と価値の正しく伝える役割を担うのは、他でもなく Maker 都市浜松の魅力と価値を認知し、郷土愛を持った人だといえます。

## 郷土愛を育むために

では、浜松を愛する人、つまり郷土愛を持つ人を育むためには

- ① 誰に対し、
  - ② どんな場所で、
  - ③ 何をする事が
- 効果的でしょうか。

前述の①～③を検討する前提として考えなくてはならないのは、郷土愛の源となるものは何かです。自分自身の郷土を思い浮かべると、子供の頃に親、友人、兄弟と学校や公園、山や川で遊んだ風景が思い浮かぶという人が多いのではないのでしょうか。子供の頃の遊びを通しての思い出は、故郷の原風景として心に深く刻まれ、美しい思い出となり、これが郷土愛の源となっていくのです。



そうすると、**郷土愛を育むために働きかける対象は子供たちがより効果的である(①誰に対し)**という結論が導き出されます。

次に、子供たちは郷土愛の源を遊びを通して身に着けていくということから考えると、その対象は**子供たちの遊び場**ということになります。現代における子供たちの遊び場というと、もちろん学校やキャンプ場などの山や川も挙げられますが、時期を問わず身近な遊び場として子供たちに開放されている場といえば、それは**公園**ではないのでしょうか(②どんな場所で)。

元来公園は様々な役割を果たしています。一般的な役割をいくつか挙げると『コミュニティ形成の場』『スポーツの場』『教育の場』等があります。また子供たちにおいても公園で遊ぶ中で順番を守って遊んだり(集団行動)、ルールの中で遊ぶことや、ブランコなどの遊具で遊ぶ中で振り子の法則などの原理、また、公園に存在する動植物から自然、生態系を学んだりと、実は多くのことを学んでいます。このように多くの役割を果たすことのできる公園ですが、浜松の公園を見てみると敷地は広いのに、漫然と遊具が設置されているだけで特色がなく、人も集まっていない公園がいくつも見受けられます。そんな公園に新しい風を吹き込み、**Maker 都市浜松に触れ、知ることができる、地域と子供、そして地元企業を繋ぐ場所**とし、100年後のMaker 都市浜松を支える郷土愛を持った子供たちを育てる場所とする提言を作り上げようという思いを持ちました(③何をすることが)。

この思いを実現するための提言が

- ・ はままっプレーパーク
- ・ かいぼり事業
- ・ ネーミングライツ・官民連携制度の活用

からなる**浜松 park 構想**となります。



# はままつプレーパーク

## プレーパークとは

プレーパークとは、1943年、デンマークのコペンハーゲン郊外で生まれた廃材遊び場の起源とする遊び場です。日本では1979年、世田谷区の羽根木公園内に、日本では初めての常設プレーパークが出来ました。現在日本では常設、非常設を含め約400のプレーパークを運営する団体が存在します。

プレーパークでは、「**禁止事項をできる限り無くし、自分たちの責任で自由に遊ぶ**」ことを基本理念としています。近年の「ボール遊び禁止」「木登り禁止」など多くの制約がある公園とは一線を画するものといえます。もちろん何の監視もなく完全な自由のもとで子供たちを遊ばせるわけではありません。プレーパークにはプレーリーダーと呼ばれる大人が子供たちを見守ります。このプレーリーダーとは、子供と大人の架け橋のような存在であり、単なる遊びの指導者ではなく、子供たちが遊びを引き出しやすいような環境を作ったり、材料の調達や危機管理、子供が怪我をした際の応急処置などを行います。子供たちはプレーリーダーに見守られながら、木登りをしたり、地面を掘って水路を作ったり、廃材などを利用した滑り台や、ウォーターライダー、ターザンロープを作ったりします。

またプレーパークによって子供たちとの関わり方は様々で、自由に遊ばせることを徹底しているプレーパークもあれば、ワークショップを行い子供たちに大人が体験の場を提供しているプレーパークもあります。我々が視察で訪れた、てらやまプレーパーク（広島県）、羽根木プレーパーク（東京都）、においても以下の様な違いがありました。

## てらやまプレーパーク

広島市安佐北区寺山公園内で、木曜、土曜、日曜日に開催されているプレーパークです。てらやまプレーパークではワークショップなどはあまり行わず、大人は子どもの遊びを邪魔せずに温かく見守ってあげる。いつ来ても同じものがあり、安心できる場所作りを理念として運営されていました。



## 羽根木プレーパーク

羽根木プレーパークは、世田谷区羽根木公園内で開催されている常設のプレーパークです。子供たちが自由に遊ぶスペースだけでなく、プレーパークで遊ぶ中で繋がりを持った子供たち同士でのキャンプ事業や、プレーカーと呼ばれる車に資材を積み込んで、地域の公園などのスペースに出張プレーパークを開催する事業を行っています。ワークショップやイベントも盛んに行っており、アースバック工法による建物づくり体験や、杉材と太い輪ゴムを使って建築構造を学びつつ家を作り上げる建築体験、プレーパーク独自のお祭りなどを開催したりしています。



## なぜプレーパーク？

公園においても、安心安全であることが重要視されて制限が多くなり、子供たちの自由な発想と想像を育てる場所が少なくなってきました。てらやまプレーパークでプレーパークの運営団体である特定非営利活動法人子どもネットワーク可部の増谷代表とお話させていただいた際に印象に残ったのが、『**ここでは、子供たちに多くの失敗をさせる**』という言葉でした。

てらやまプレーパークでは、プレーリーダーが危険だと判断するまでは、どんな事にも手出しをしません。子どもたちは、遊具や遊び方を自分で考えながら遊びます。遊具や遊び方を一から作り上げる中で多くの失敗もします。しかし、失敗を重ねながらも試行錯誤を繰り返していくことで、より強い**成功体験**を得ることが出来ます。そして、この**失敗を恐れず試行錯誤を繰り返し挑戦していく姿勢**は正に Maker 都市浜松が培ってきた「**やらまいか精神**」と重なるものではないでしょうか。

このように遊びを通して、ものづくりや Maker 都市浜松が培ってきたやらまいか精神を自然と身に着けることができる場所が100年後の浜松には必要です。

## はままつプレーパーク（浜松ものづくり公園）

このプレーパークに Maker 都市が築いてきた伝統であるやらまいか精神、ものづくり、そして地元企業との連携を加え、**ワークショップに特化した常設プレーパーク**として、はままつプレーパークを提言します。

はままつプレーパークでは、**地元企業と連携したワークショップ**を定期開催します。子供たちは地元企業と連携してのワークショップに参加することで、木工・鉄工・建築・自動車関係・楽器関係と地域と密接にかかわる**地元企業そのものを認知し、そしてその企業が持つ技術・特色を体験**することが出来ます。

企業側にとっても子供たちに自社をPRすることが出来ます。また市民に対しても地域に根差す企業として企業のイメージアップ、認知度アップが期待できます。優れた技術を持つ中小企業が多数存在する浜松ですが、実際にどのような技術でどのような物が作られているかあまり知られていないのが現状です。

今回、提言作成に当たって実施した高校生に対するアンケートにおいても『**浜松で就職したいですか？**』という問いに対し、就職したくないという回答や、就職したいとの回答であっても、知り合いが多いから、家族がそばにいるからといった回答が多くみられました。しかし、こういった動機は環境が変われば簡単に変わってしまうものであり、地元浜松で将来も働きたいという強固な理由付けとは言えないのではないのでしょうか。

はままつプレーパークは、公園に子供たちが遊びながらにして地元企業と触れ合う貴重な場をつくることで、地元企業を身近に感じ、愛着を持ってもらう効果を持ちます。子供の頃の郷土の原風景の中に、地元企業に触れながら遊んだ記憶を加えることで、郷土愛の中に Maker 都市浜松を支える企業に対する愛が加わるのです。これにより、浜松で就職したいという動機が『**浜松を支える素晴らしい企業で働きたい**』という強固な目的に基づいたものとなります。



公園を Maker 都市浜松の魅力に触れる場とし、100年後の Maker 都市浜松を支える郷土愛を持った人を育てるのがはままつプレーパークの第一の目的です。この取り組みが広がっていくことで、公園には人々が集まり、Maker 都市浜松の魅力を浜松にとどまらず、対外的にも発信していく場所となります。



# かいぼり事業

## かいぼりとは？

かいぼりというと、テレビ番組の『池の水を抜く』で注目されるようになったため、一過性のイベントではないかと思われるかもしれませんが、【かいぼり（掻い掘り）】≠ただ「池の水を抜く」ではなく、池や沼の水をくみ出して泥をさらい、魚などの生物を獲り、天日に干す「伝統技術」であり江戸時代から農業用のため池を維持するために行われてきた日本の伝統的な管理方法です。近年、このかいぼりが持つ外来種駆除効果や水質改善効果に注目が集まっています。

### かいぼりの概要

[井の頭恩賜公園 100 年実行委員会 HP より抜粋]



かいぼりでは池の水を抜き、干上がった池から生物を捕り、在来種と外来種の仕分けをします。この過程で効率的に外来種の駆除をすることができます。その後池の底を天日にさらすことにより、池の水質を汚染する原因となる窒素は空気中に放出され、リンは水に溶けにくい性質へと変わるため、池の水質が改善していきます。

しかし、実は我々がかいぼりを提言に取り入れた主たる理由は外来種駆除効果や水質改善効果に着目したからではありません。継続的にかいぼりを実施することで得られる効果、これが提言に採用した主たる理由となります。

その点を述べる上で触れるべき取り組みがあります。我々も2018年10月に視察した、井の頭恩賜公園の100周年に向けて、地域と連携して井の頭恩賜公園のあり方を考え、行動するため関係団体、行政が参加した「井の頭恩賜公園100年実行委員会」による井の頭公園のかいぼり事業です。

## 井の頭公園かいぼり事業

井の頭公園では2017年5月の開園100周年に向けて、自然豊かな井の頭池を取り戻すために、2014年10月よりかいぼりを開始しました。平成25年度に行われた第1回のかいぼりでは、駆除対象魚は捕獲した魚全体の77.2%に上りました。さらに予想外の結果として認識されたのが膨大な数の投棄自転車でした。池の底まで光が届くようになり、水質、水生生物の回復の効果が見られました。平成27年度に行われた第2回かいぼりにおいても、外来種は多く見つかりましたが、その駆除対象魚の割合は捕獲魚全体の6割ほどになり順調な成果が見られました。また、絶滅危惧種のイノカシラフラスコモが確認されました。平成29年度の第3回かいぼりでは、捕獲魚中の在来種の割合が外来種を上回りました。

このように、井の頭公園における継続的なかいぼりが高い効果を上げ、東京都は平成30年度に10か所の都立公園でかいぼりを行うことを決定するなど、その取り組みは確かな広がりを見せています。



合計3回行われたかいぼり以外にも、地域住民ボランティアによるモニタリング調査、ローターを使っでの駆除活動は年間を通して行われました。井の頭公園のかいぼり事業において非常によく考えられていると感じたのが、ボランティアをかいぼりの関心・関わり合い方の大小ですみ分けをしている点です。





### ・『井の頭かいぼり隊』

⇒ボランティアのリーダー的な役割を果たし、来園者への解説なども行う。

### ・『おさかなレスキュー隊』

⇒一日限定で外来種と在来種の捕獲や仕分けをする

### ・体験イベント参加者

### ・見学者

見学や時間限定の体験イベントなど敷居の低い段階を設けることにより、住民もボランティアとして参加しやすい環境ができます。より深くかかわりたいという思いを持てば、一步進んだ段階でかいぼりとかかわることもできます。

重要なのは、このようにかいぼりに多くの住民がボランティアとして参加しやすい環境を作り、関わりの深い段階においても住民ボランティアが参加していくことができる点です。行政主体ではなく、地域住民も協同して地域の水質改善活動であるかいぼりを進めているという実感を持つことで、住民は地域により興味・愛着を持つようになります。

## 子供たちが【かいぼり】で得られるものは？

では、子供たちがかいぼりに参加しいていくことにより何が得られるのでしょうか？

まず、かいぼり本来の目的である、**外来種駆除・在来種の保護・水質改善**の取り組みに子供たちが参加していくことで、普段何気なく見ていた地域の公園や池にどんな生物が生息していて、どのような問題を抱えているかを実体験します。**実体験を伴う学びは、子供たちの理解をより深いものとします。**

また、本論から少し外れますが、駆除される外来種について考える機会を持つことから、子供たちが得ることがあると思います。詳述は避けませんが、そもそも外来種がなぜ繁殖してしまったのか、外来種は悪なのか、外来種を駆除だけでなく有効に活用する方法はないのか等を考える機会は子供たちのものの見方、考え方を豊かにします。浜松市においても、生態系維持のために外来種を駆除しつつも、捕獲した外来種の有効活用の途として、『外来種をとって食べる』という活動を行っている団体があります。この取り組みも実体験を通した子供たちの学びといえるのではないのでしょうか。



[画像提供元 昆虫食倶楽部 <https://torutabe.hamazo.tv/>]

ここまで述べてきたように、かいぼり事業には行政と市民の結びつきを強くし、共同体意識を高める力を持っています。そしてこのかいぼり事業の効果はこの後のネーミングライツ制度の活用によって、さらに大きなものとなります。この点については、この後のネーミングライツの項目にて言及します。

## ネーミングライツの活用

プレーパーク・かいぼり事業の効果を一段階高めるために**事業の継続性が重要な要素**となります。しかし、継続事業としていくために問題となってくるのが**運営資金の問題**です。この問題点を解決する鍵となるのが**ネーミングライツ制度**とこの制度の担い手である **Maker 都市浜松を支える企業**です。

## ネーミングライツとは

ネーミングライツとは、市と民間事業者等との契約により、施設等に愛称を命名する権利を取得する制度です。市などの施設管理者は命名権を取得した民間事業者等から命名権料を得て、原則、命名権料はネーミングライツを導入した施設の整備や管理運営に使用します。

浜松市では、平成29年度より、事業所管課が施設を指定してネーミングライツ取得者であるネーミングライツパートナーの募集をする『**施設特定型ネーミングライツ**』と浜松市発案・提案型官民連携制度を活用して、民間事業者等から提案によりネーミングライツを導入する『**提案型ネーミングライツ制度**』が導入されています。提案型ネーミングライツ制度は企業や企業団体の“こんなことをしたい”“この場所のネーミングライツを取得したい”という発案・提案を実現する可能性を持つ制度であり、私たちはこの提案型ネーミングライツ制度に基づいて地元企業がプレーパークやかいぼり事業に参画していくことで、両事業にさらなる魅力と効果をもたらすものであると確信しています。

## 浜松市における提案型ネーミングライツの現状

私たちは、この制度が現状どのような状況かを調査するために、浜松市役所財務部アセットマネジメント推進課で提案型ネーミングライツの現状についてヒアリングを行いました。その際の回答では、現時点で提案型ネーミングライツの申し込みは無いというものでした。

まだ制度が導入されて日が浅いということもありますが、それ以外の部分で、この制度がまだ活用されていない理由があるのではないのでしょうか。私たちはその点を明確にするために商工会議所会員企業向けに以下の質問をしました。（総回答数23社）

質問 浜松市でネーミングライツが導入されたのをご存知ですか

回答 知っているー7社 知らないー16社

質問 導入されているのを知っている方に質問です。ネーミングライツの導入は検討に値しますか

回答 検討に値しないー7社

この結果から、ネーミングライツ制度が導入されたこと自体があまり知られていないということが読み取れます。また、知っているとは回答された7社すべてが検討を値しないと回答をしているのは、端的に言えばネーミングライツ導入のメリットが感じられないということだと考えられます。

ネーミングライツの企業側のメリットは、**地域住民に対して自社および自社製品の宣伝広告に繋がること、企業の社会貢献を住民にPRできることが挙げられます。**そのメリットが生まれるためには、地域住民の目に触れ認知されることが前提となります。企業側がこのメリットを享受できるアイデアであれば、ネーミングライツ制度も活用されていくのではないのでしょうか。また企業側においても、目先のPRではなく、**Maker 都市浜松を支える企業の責任として100年後のMaker 都市浜松の未来を見据えた投資**と考えることが、100年後の自企業の**繁栄**にも繋がるのではないのでしょうか。

では、ネーミングライツ制度とプレーパーク、かいぼり両事業が結びついたときにどのような効果がうまれるのでしょうか。

## プレーパーク×ネーミングライツ

プレーパークにおいては、特定の企業、もしくは業種団体がネーミングライツパートナーとなり資金がもたらされ、継続性がもたらされます。

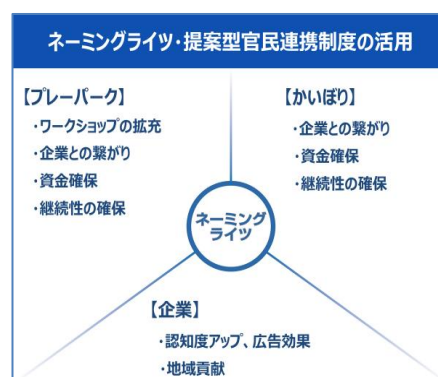
プレーパーク自体も木工に特化したプレーパーク、自動車機械の仕組みに特化したプレーパーク、楽器に特化したプレーパークといったようなネーミングライツパートナー企業の特色を生かしたプレーパークを整備し、ワークショップを企画運営していきます。子供たちはこのプレーパークで遊びながらにして**地域で活躍する企業をより深く知る**ことができ、こんな仕事をしてみたい、こんな会社で働きたいといった**愛着と職業観を育む**ことができます。

企業も社会貢献として、子供たちの遊び場を提供するなかで、自社のPRをすることができます。自社近隣の公園でそのような取り組みを進め、よりPRに特化していくという方法も考えられるのではないのでしょうか。

## かいぼり事業×ネーミングライツ

かいぼりにおいても、ネーミングライツパートナーからの資金により、継続開催することが可能となります。継続開催することで、かいぼりに参加した子供たちは水質、生体系が改善されていく実感を得ることができます。また、2回目、3回目と続くかいぼりにおいて、初回のかいぼりに参加した子供たちは一歩進んだ役割を担い、初めて参加する子供たちに教える立場となることも考えられます。体験と実感、そして学校以外の場で地域の大人とかかわることにより、子供たちにも**自身が地域社会の一員であるという自覚**と、地域の環境への深い興味を持ち、**地域に対する愛着**を持つようになります。この体験は単発のイベントでは得られません。

企業側も、地域の環境に対する取り組みに参画することで、市民から地域に根差す企業として認知されます。



## まとめ

プレーパーク、かいぼりの両事業を進めていくにあたって、行政としては**候補地の選定や広報活動**をすることで、住民と企業との懸け橋となりなることが求められます。

企業が Maker 都市浜松の 100 年後を担う子供たちの郷土愛を育むために積極的にネーミングライツ制度を活用し、行政は住民と企業の間を繋ぐ役割を果たし、地域の数多くの子供たちが、両事業に参加していくことで、ネーミングライツ制度は単なる命名権ではなく、Maker 都市浜松の 100 年後を育てる『**グローアップライツ制度**』となるでしょう。

プレーパーク、かいぼり事業、ネーミングライツ制度に、浜松が培ってきたものづくりの精神、やらまいか精神が融合し成熟することによって、**浜松パーク構想は、浜松の次代を担う子供たちの郷土愛を育み、Maker 都市浜松の魅力と価値、そして地元に関わる企業を認知し MAKAER 都市浜松で活躍したいという思いを持つ人材を育てる役割を果たします。**

このような子供たちが増え、その子供たちが大人になり、またその子に伝えていくというサイクルが生まれ、このような思いを持った子供たちが Maker 都市浜松で活躍することにより企業が活性化し、100 年後の浜松が活性化します。

## 提言3 繋×【実】

～100年後に繋げる『農』Maker都市浜松～

# 浜松「リノベジ」デザイン

恵まれたこの地で 農業を繋ぐ

現在、抱えている浜松の農業の問題点を探り、浜松の農業の特性を生かしながら、今ある事業や仕組み等をリノベーションすることで、「農」Maker都市浜松を100年後まで繋いでいく。

### 【提言項目】

- ①育てる・学ぶ 魅力を伝える
- ②出会う・生み出す
- ③守る
- ④売る



# 恵まれた農業産地を持つ浜松

浜松市は、全国市町村で農業産出額第7位（農林水産省農林業センサスより）、トップ10に入る「農」Maker都市であります。

また、全国で2番目の総面積を有し、東西への流通の拠点という恵まれた立地条件を備えています。そして、多種多様・小作物の産出の宝庫でもあります。

## 背景と現状の問題点

市民や企業・学生にアンケートを行ったところ、浜松市の農業についての関心は低く、農業という産業が「盛ん」であるという認識は少ないということが分かりました。

しかし、企業や農業従事者からは「今後の産業として期待している」という意見を多数いただきました。

現状の問題点を改めて探るために、浜松市やとぴあ浜松農業協同組合（以下とぴあ浜松）・個人農家へヒアリングをさせていただいたところ、労働力確保の困難・農業従事者の減少・耕作放棄地の増加が深刻な問題であるという共通の意見をいただきました。

その背景には 職業としての魅力を知らないの、将来の仕事として候補に挙がらない。農作業が大変そうというイメージの植え付けがある。後継者不足による農地の縮小などが考えられます。

その問題を解決するべく課題として、大きく4つに絞り検討を重ねました。

- ・ 農業従事者の減少を食い止める
- ・ 働き手（作業員・パート）の確保
- ・ 農地の確保
- ・ 販売ルートの拡大

100年後の浜松の農業がトップ産業で居続けるためには、恵まれた環境を生かし、すでに行われている農業に対する施策や試みを改めて見直すことにより、持続と発展につながると考えます。そこで、浜松「リノベジ」デザイン 4つの柱を提言します。

- ① 「育てる・学ぶ」「魅力を伝える」
- ② 「会う・合わせる」「生み出す」
- ③ 「守る」
- ④ 「売る」

これらはどれも欠かせない重要な「柱」となります。

## ①「育てる・学ぶ」「魅力を伝える」～農業従事者の減少を食い止める～

### ベジキッズを育てる

「ベジキッズ」とは将来の進路選択時に農業を候補の一つとして意識してくれる子供たちのことです。まずは幼少期から農業を身近に体験してもらい、職業として意識をもたせます。

#### 農業体験の強化

既に多くの幼稚園で食育の観点より取り入れられていますが、園ごとに、受け入れ農家から畑を借り、またはプランター等で野菜を栽培し、採れた野菜を給食やおやつで食べます。これに加え、農家が栽培の補助をし、作業を見せ一緒に行い、園児と交流する事で園児たちはより楽しみ、また自分で育てたよろこびを感じる事により、苦手意識の高い野菜を「好き」になる機会となります。

小中学生は課外授業のカリキュラムの中やクラブ活動で種まきから収穫までの野菜作りを経験し、またそれを加工して商品化し、各所で行われているマルシェ、文化祭等に出店をします。参加するマルシェは商工会議所青年部事業によるものや家康楽市、ほしの市など浜松市公認のイベント等で、大人と関わりながら販売をする事で、自らつくったものが商品として売れるという達成感を味わうことができ、「農業」を仕事として身近に考えるようになります。またマルシェの企画や販売まで生徒が全て行う事により、ビジネス感覚やアイデアを形にする力が養われることも期待できます。

#### 農業者の成功体験の実例を紹介し、ビジネスとしての魅力を知ってもらう

中学校のキャリア教育などの授業で農業者自らが仕事の紹介や魅力を語ります。農家でない人の農業に対するイメージは、疲れる、収入が低い、また安定しない、休みがない、といった意見が多く、若い学生や就職を考える人間にとって選択肢になかなかないのが現状ですが、実際の農家に話を聞くとそういった問題をうまくクリアし、会社勤めのサラリーマンよりむしろ充実した生活を送っていることをリアルに知ることができます。

農業者は自由で時間や収入に余裕があり、脱サラし就農した者は他の職業と比べることができるので、農業の魅力をことさら良く知っています。しかし、その魅力をなかなか聞く機会がないために多くの人を知ることができません。そこで、成功者の生の声を聞く機会を得ることや、実際の作業を見ることで、作物を作ることだけではない「農業」という仕事の魅力を知ることができれば、農業を「将来の仕事」として志す人が増えると考えられるわけです。

# ベジアカデミーの設立

## 浜松市立の農業専門学校の創設

農業を「職業」として意識し、農学部への進学を志す学生は、多いかと思います。しかし実態としては、家業を継ぐためであったり、企業への就職のためであることがほとんどであり、自らが農業経営者となって地元の農業を盛り立てようと考えている学生がどのくらいいるのでしょうか？

農学部に進学するきっかけは、「農業への憧れ」や「漫画などを読んで農業に興味を沸いた」など夢や希望を抱いて進学したはずですが、現実として農業へ従事せずに食品メーカーやその他製造業で研究員になったり、公務員で間接的に農業に関わる程度の就職がほとんどとなっているのではないのでしょうか？例として、東京農工大学の平成29年度進路状況を見ると農学部110人中、農業林業への就職が1人というのが実情です。

([http://www.tuat.ac.jp/campuslife\\_career/career/sinro/syusyokujoukyo/](http://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/career/sinro/syusyokujoukyo/))

農 Maker 都市浜松として、次世代の浜松市での農業経営者育成の為に農業専門学校の創設を提案致します。

## 奨学金と社会人向け給付金の創設

将来、農業経営者になる事を本気で考えている若者に、農業専門学校に入学してもらう為、特待生に対しては、卒業後に浜松市の援助を受けて浜松市内で農業経営をする事を条件とする返済不要の給付型奨学金を給付します。それ以外の学生に対しても特待生と同条件での浜松市から貸与型の低金利での奨学金の支給を行います。

40歳未満の雇用保険の基本手当（失業給付）を受給中の求職者に対しては、農業専門学校に入学して卒業後は、浜松市の援助を受けて浜松市内で農業経営をする事を条件として雇用保険の基本手当と同等金額を最大で1年間給付します。

## 在学中のカリキュラム

通常の農業大学の様に農業の実習や経営を座学で学ぶだけでなく、多種多様な作物を生産している Maker 都市浜松ならではの専門カリキュラムを学ぶことができます。前述のベジキッズを活用し、浜松市内の子供たちや親との交流を深めたり、後述の就農支援（ベジネスカリキュラム）、企業開発連携（ベジマッチ）、販売促進（ベジルートマップ）を活用しながら、生産から販売までの支援を受けたり、作業を効率化するための開発内容を検証し改善したり、開発した機械をいち早く試用させてもらい、学生の意見をそれに反映させることで企業と一体となって製品開発に携われる貴重な機会を得ることができます。

在学中から浜松市内での経験を積みながら、農業経営を深く学べるので、卒業後すぐ本格的に農業経営に携わることができることが他の農業大学にはない強みとなります。

## 卒業後の浜松市からの農地と設備の支援

卒業後、農業経営者になる為に最低でも農地と作物を育てる為の機械などの設備が必要になってきます。後継者でもない限り農地を所有しているという事がないので、浜松市が後述の農地を確保（ベジパズル）をし、農地として使いやすくした土地を紹介して経営がある程度軌道に乗るまでの最大3年間は、無償での土地の貸し出し更に機械などの設備投資の為に借入金の援助（最大2,000万円まで）を行う事で農業に専念してもらいます。

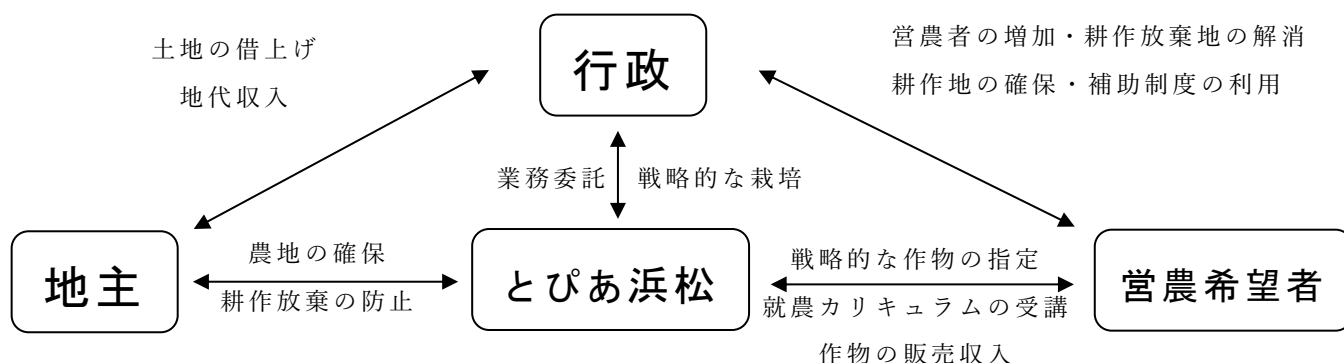
## ビジネスカリキュラム導入

希望者が安心して農業に新規参入できるシステムを提案します。

農業に挑戦しながら安心して生活が出来ること初めから分かっていたとしたら、家庭でも相談しやすくなり、理解も得やすく決断も早くなるのではないのでしょうか。

ここで提案するのはこれまでの支援事業の仕組みを生かしながら新たな連携を図る、いわゆる就農希望者に安心して営農に挑戦してもらうことができるシステムとなります。

下図をご覧ください。



行政が土地を取得する必要性ですが、現在耕作放棄地は農地転用がなされ住宅地などへ転用が進み、農地が減少しております。これは相続対策を兼ねていますが、営農者がいないということと、先祖代々の土地を誰かも知らない人には簡単には貸せないという事情があります。売却できるものなら、そうしたいという農家がいるのも現状です。しかし、浜松市が借り上げてくれるのなら安心である（何かあった際に浜松市に中間に入ってもらえる。）ため、貸す側も比較的気軽に貸し出すことが出来ます。また貸し出した土地の代金も浜松市が安定的に支払うことにより集金という負担も無くなります。農地をむやみに手放さずに済むということにもなります。とぴあ浜松にとっての利点ですが、新たな営農者が増えれば、浜松市内の生産高も増えるので出荷数量も安定します。何より、とぴあ浜松へ出荷する農家が増えます。また、指定作物を作ってもらえるので、販売戦略も立てやすくなります。ここで肝心なことは、就農希望者に何を作らせて（とぴあ浜松主導で決める）生産者がいくら利益を取ることが出来るかをおおよそ決めておくことです。もちろん青果は年ごとの市場価格の変動があるので細かな数字を決定することはできませんが、地に足が付いた目標設定額を浜松市ととぴあ浜松が決めることが重要です。現在、浜松市ではとぴあ浜松とタイアップして青果の輸出にも積極的に取り組んでおられますが、輸出に向けた戦略的な農業の更なるツールとなります。

## ベジママネットワーク ～人材のマッチング～

| 活動       | 時間 (分) |
|----------|--------|
| 就寝       | 22     |
| 起床・朝食の準備 | 5      |
| パートタイム   | 8      |
| 子供お迎え    | 13     |
| 家事等      | 22     |

A子さん  
一日の流れイメージ  
空いている時間を活用したい



|              |      | 1月   | 2月   | 3月 | 4月 | 5月        | 6月              | 7月 | 8月   | 9月 | 10月    | 11月 | 12月 |
|--------------|------|------|------|----|----|-----------|-----------------|----|------|----|--------|-----|-----|
| 農作業のカレンダー(例) | 果樹   | かんたん |      |    |    |           |                 |    | 摘果   |    | 収穫     |     |     |
|              | 畜産   | 馬鈴薯  |      |    |    |           | 収穫              |    |      |    |        |     |     |
|              | 野菜   | 玉ねぎ  |      |    | 収穫 |           |                 |    |      |    | 植えつけ   |     |     |
|              | 綿産   | ガベツ  |      |    |    |           | 束かき・収穫・出荷       |    |      |    |        |     |     |
|              | 花き   | 無    |      |    |    |           | 植えつけ・ヤミズき・収穫・出荷 |    |      |    |        |     |     |
|              | セムラー |      |      | 収穫 |    |           |                 |    | 生育管理 |    | 収穫     |     |     |
| 綿産           | シラヤシ |      |      |    |    |           | 収穫・包装・箱詰め       |    |      |    |        |     |     |
|              | 小町菜  |      |      |    |    | 収穫・包装・箱詰め |                 |    |      |    |        |     |     |
|              | トナリ  | 畝    | 植えつけ |    |    | 束かき・収穫    |                 |    | 植えつけ |    | 束かき・収穫 |     |     |

農業労働力確保戦略センター  
とびあ浜松農業協同組合 営農指導課内

39



## ②「出会う、合わせる」「生み出す」～労働力の確保～

### ベジマッチ ～技術のマッチング～

商工会議所では農商工連携研究会にて「機械化検討会議」を開催しておりますが、更なる発展と工夫を得るために 企業と農業をマッチングさせるための、商工会議所工業部会所属 1, 775 社（平成30年4月）の技術力と営農者のニーズを形にする、ものづくりの街浜松ならではの企業コンペを実施し、企業同士・農業と企業のマッチングを実現させます。

- ・営農者は、高齢化や人出不足を補うための省力化機器を求めています。また、浜松の特性である、軽作業農家の作業工程の中には機械化できる可能性を秘めている作業もたくさんあるので情報の公開の場となり、省力化機器の開発の需要が増えます。
- ・浜松の企業の技術で営農者のニーズを形にし、さらには、浜松の企業同士のマッチングによる相乗効果が期待できます。
- ・第三者機関、行政主催によるアイデアコンペを実施することで、採用企業に称号を与えることにより、新規機械採用農家への支援対策等の仕組みが構築できます。



歴史ある技術と進化している技術を多種多様なフィールドで特性を生かし、  
農業者へ技術の提供を行い、企業側も新規事業への参入のきっかけとなります。  
情報を公開することで自社の製品と他社の製品を組み合わせることによる共同開発に  
取り組むこともできます。

### ③「守る」 ～農地の確保～

## ベジエネ

農地を有効利用するためのエネルギー、もしくは創エネによって農地を守っていくための取り組みについて提案します。

### 循環型営農の取り組み

浜松市は平成27年農林業センサス等によると、農家戸数第1位など農業環境においては非常に恵まれた環境にあります。しかしながら、作物残渣や食べ残しを肥料にするなどの資源化は行われてきたものの、循環型営農の観点からは発展途上と言える状況でした。

そこには、エネルギー資源を生み出すための設備投資や、それらを導入するための制度的ハードルなどがあると考えられます。浜松独自の循環型営農を確立するためには、以下のよう形で推進していくことで、耕作放棄地の有効活用や、良質な農作物の生産・流通を図り、より活発な営農が展開していくのではないのでしょうか。

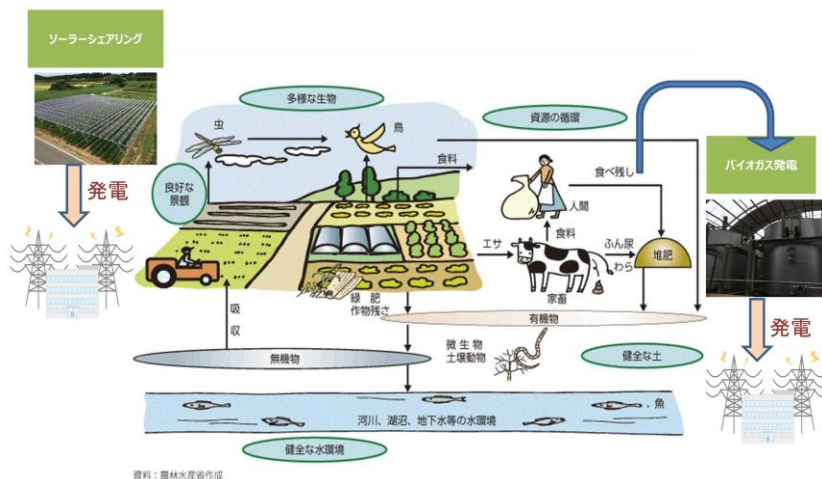
#### ⅰ) ソーラーシェアリングの活用

浜松市は国内有数の日照時間の長さを誇ります。そして、太陽光発電導入件数は全国市町村1位の実績を持っております。この有利な条件を生かすのが「ソーラーシェアリング」という、太陽光発電設備の下で営農を行うという手法になります。

- ① 平成25年3月に農林水産省が発表した指針により、営農を継続するなどの条件を満たせば、太陽光パネル用の支柱を立てる農地について、一時的に転用が認められることになりました。
- ② 3年毎に再許可が必要だった制度が、平成30年5月に10年へと延長されました。このような変遷を経て、設備設置の制度的なハードルが下がりました。さらに、日本政策金融公庫を中心に融資制度も整いつつあります。

さらに、浜松市独自の補助金制度の整備や、リース形式の設備導入が進んでいけば、普及の加速が予想されます。

- ③ また、煩雑な毎年の報告事項の要件緩和や、営農に関する条件(生産高など)の緩和が進めば、より導入へのハードルが下がると考えます。



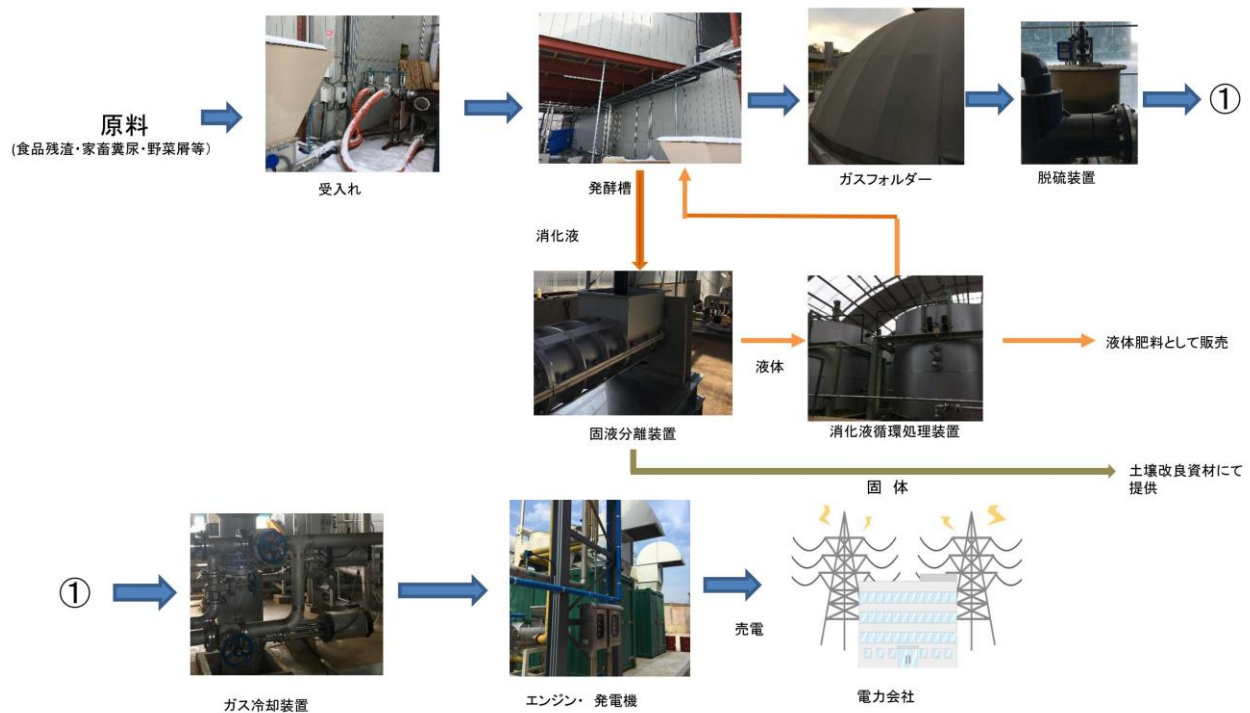
図：農林水産省作成

## ii) バイオガス発電の活用

作物残渣や食べ残しなどを資源として余すところなく活用できるシステムが、「バイオガス発電」となります。

作物残渣などの原料を発酵させ、ガスを発生させることで発電機を回して発電をさせる一方、発酵で出た消化液を液体肥料として活用ができるため、非常に効率が良いシステムです。

### バイオガスプラントの概要



この液体肥料は、ソーラーシェアリングで栽培する作物成長に欠かせないものとなります。特に、太陽光パネル下で日照が少し遮られる分、栄養分の補給は重要なことから、これを補う画期的なシステムともいえます。

また、燃焼させないため最終的に残った固形物も、土壌改良資材として活用ができます。

## iii) ベジエネポイント制度の導入

「ソーラーシェアリング」「バイオガス発電」のシステムを導入した時に、農家へポイントを付加する「ベジエネポイント制度」の採用を提案します。

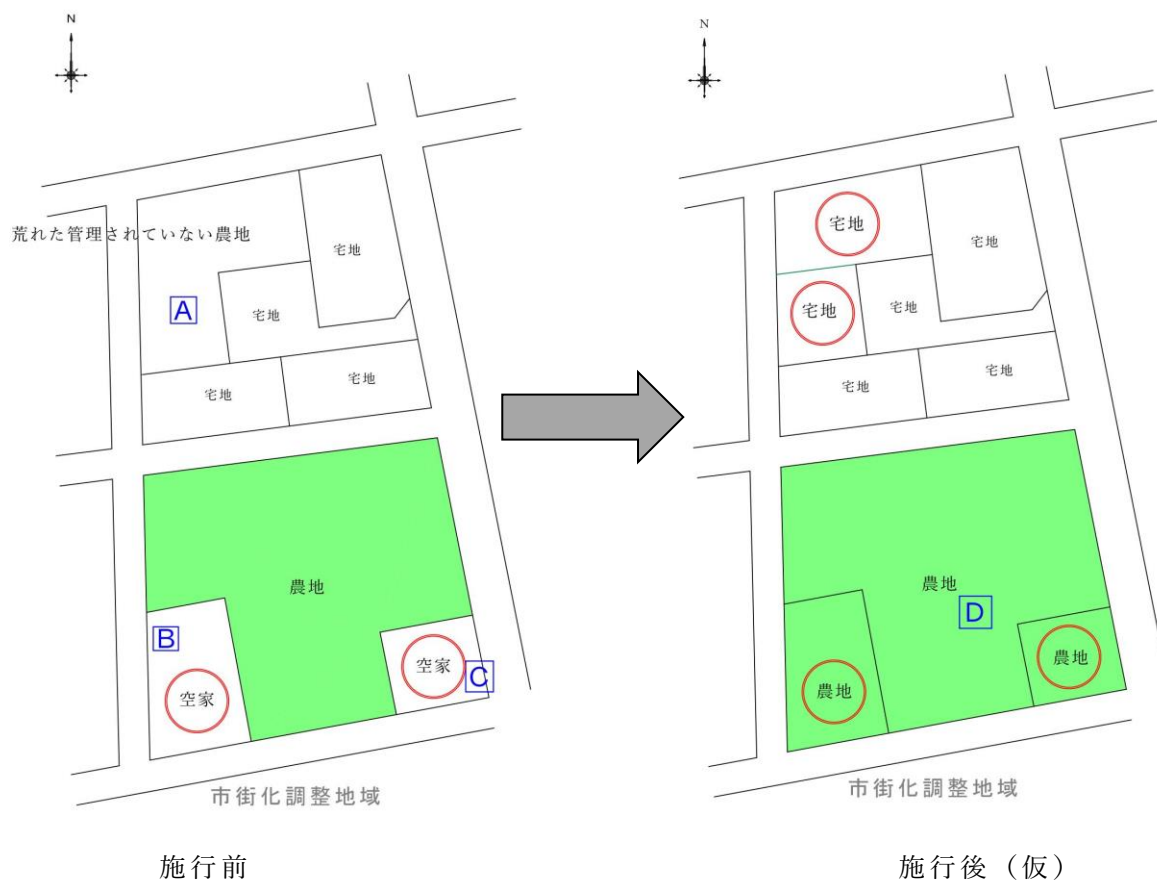
このポイントを利用して、例えば農家自体が蓄電池の導入に充てることで、発電が難しい夜間のエネルギー備蓄に対応したり、災害時には貴重なエネルギーとして活用できるなどの発展が見込めます。または、ポイントを生産された農作物を購入できる商品券に変換できれば、販売促進や売れ残りの防止に寄与して、より活発な営農へと繋げることができるのではないのでしょうか。

## ベジパズル

全国2位の総面積を持つ浜松でも農地がすべて広いわけではありません。浜松市内の市街化調整地域の区画形状及び使用状況としては、農地の街区の中に宅地、雑種地等が点在し、一枚の農地とはいえない状況が見受けられます。また、宅地の区画の中に荒れた管理されていない農地が存在していることもあります。宅地・雑種地等の中には実際にお住まいになられていたり、駐車場・資材置き場等として使われていたりしている土地とは違い、空き家・荒地の土地が多々存在しているのも現状です。

- ・農地の街区の中に宅地・雑種地が点在し一枚の農地とはいえない状況ですと、クランクが存在したり、一面の農地面積が少なかったりと、農作業を行なう上で作業効率が悪く、作業時間・人件費・出荷数に支障が生じます。また、日射の問題も存在してきます。よって収支に悪影響を及ぼします。
- ・農地の街区の中の空き家・荒地の土地がそのまま放置されますと放火の危険性、所有者不明土地となりえる可能性があり、このような危険性を現所有者が危惧し、管理可能な方に売却しようにも、法律により難しい場合が多いです。
- ・宅地の区画の中の荒れた管理されていない農地に関しても上記の問題点は同様であります。

そこで特例として市が次にあげる「農地の区画整理」を施行して頂ければ、農地を守る事と空き家・荒地及び所有者不明土地になりえる土地を未然に防ぐ対策に繋がることになります。



### ベジパズル（案）

調整区域でありながら 住宅が増え、その中に農業従事者がおらず耕作放棄地になっている北側区画の農地 A と南側区画の大きな農地の中に建てられている分家の空き家 B と C があります。浜松市は農地 A を買い取り宅地にして転売、B と C の空き家は浜松市がいったん買い取りますが、隣接農地所有者へ売却。

それにより農地 D は広い農地を確保することができ、耕作放棄地であった土地は宅地として整備され、荒地や所有者不明の土地になることを防ぐことができます。

また、農地の中に点在している宅地や雑種地を浜松市が買い取り市営農地として使用することにより、農作業者の雇用が生まれたり、未来の農業志望者への教育の場と使用することもでき、収益は市の収益となります。（ベジキッズやベジアカデミー等への活用）

農地が広くなり使いやすくなることで、生産額も上がり、農業者の増加にもつながります。また、農地以外の区画とはっきりと区別できるという利点があります。



#### ④「売る」 ～販売ルートの拡大～

## ベジルートマップアプリの開発

新鮮で安全な野菜の情報がリアルタイムに手に入り、また生産者からの情報もリアルタイムに発信できるアプリの開発を提案します。これは、個人農家の販売ルートの拡大と、配送の手間を減らすことにより、労働力の補填、労働時間の削減にも繋がる活気的なツールです。

- ・個人農家は、採れたての野菜や本日のおすすめ野菜、そして販売したい野菜の情報を発信します。
- ・消費者は、本日のおすすめ野菜の情報や気になる商品の情報をアプリで検索することができます。
- ・アプリでは生産者の顔やおすすめ情報、また、販売先の情報を得ることができます。
- ・個人農家と運送会社との連携により採れたて野菜の集荷、配送そして委託販売をします。運送会社は、浜松市からの委託業者とし、浜松市の認定品（Made in Hamamatsu）の委託販売とします。
- ・販売場所は、浜松市の所有地や各区の浜松商工会議所青年部所属の事業所に駐車場や空地の提供をお願いします。車通勤が多い浜松の仕事帰りの主婦の方が寄りやすい利点も備えます。また、農業を事業として今後取り組んでいきたいという企業の事業化への第一歩にもなるのではないのでしょうか。

その日に収穫した野菜をその日に手に入れることができる

「夕方マルシェ」は、地元ならではの利点であり、個人農家の販売ルートの拡大はもちろんのこと、共働きの多い子育て世代に新鮮で安全・安心な浜松産の野菜を届けることができ、今後、未来の子供達に農業の魅力と食の安全を繋げていくことができます。



### ベジルートマップアプリ



## まとめ

今後ますます IT 化、機械化が進み、作業は管理に変わり、地元産の安全で高品質な野菜の需要が増えて行く今こそビジネスチャンスであると考えます。

しかしながら、安全・安心な食料不足の問題や、後継者・労働者・兼業農家の減少は避けられない現状もあります。

【リノベジデザイン】＝ベジキッズ→ベジアカデミー＋ベジネスカリキュラム→ベジマッチ＋ベジパズル→ベジルートアプリ　といった流れでこれを実現していくことにより、少しでも多くの人材や農地を確保しながら生産額を増やし、100年後も農業のトップ産業都市として浜松の農業を繋いでいくことができると考えます。

## 提言4 繋×【継】

### 100年後に繋げる

### 「浜松中小企業プレミアムサポート」

～産学官で連携・共創して浜松全体で  
中小企業の現在・未来を繋ぐサポートを～

#### 「浜松中小企業プレミアムサポート」

中小企業の様々な課題に対して、産学官で連携・共創して浜松の中小企業をサポートするための提言をします

##### 【提言項目】

① 中小企業の事業承継のための後継人材の育成

～(大学生) 産学官連携・共創の「学生部」の創設

～(高校生) 地域ビジネス創生事業の浜松版ガイドライン

によるカリキュラムの実践

② 中小企業の成長発展の図るための企業連携

～産学官連携・共創の企業連携アプリの製作・活用

③ 中小企業のサポートのための政策の実現のために

～行政、経済団体、大学、金融機関等が連携・共創する

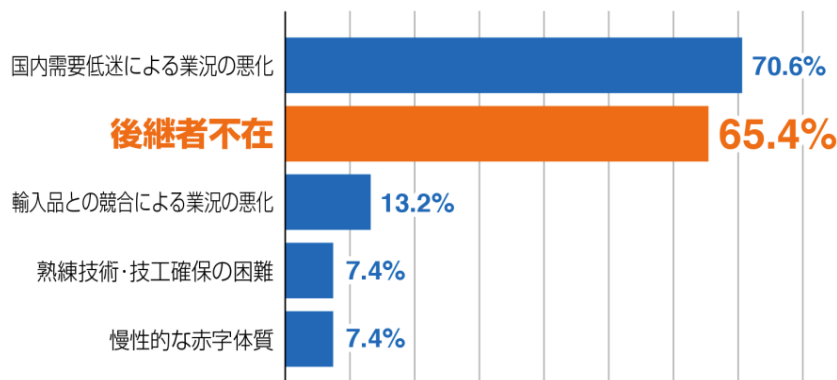
「浜松未来創造プラットフォーム協定」の締結

# 序章 提言の動機・背景～大廃業時代の足音

## 1 大廃業時代の足音

中小企業庁は、2015年までに6割以上の経営者が70歳（平均引退年齢）を超えて、約245万人となり、その約半数の127万（日本の企業全体の3分の1）が後継者未定の状態にあると発表しました。まさに、中小企業庁は、日本企業の3社に1社が2025年までに後継者不足で廃業危機を迎えるという衝撃的なシナリオを示しました。

そして、下記図のとおり、実際の廃業の理由として65.4%が後継者不在です。



H30.10 中小企業庁「事業承継の集中支援について」参照

また、東京商工リサーチの2018年1月15日付け発表によれば、2017年に「休廃業・解散」をした企業数は2万8142件であり、「倒産」件数が年間1万件を割り込んでいる状況である一方、倒産件数の3倍以上の企業が休廃業・解散を選択しています。

そして、休廃業・解散した企業の代表者の年齢は、60代以上が8割（構成比83.4%）であり、経営者の高齢化、事業承継の難しさも休廃業・解散の大きな要因になっています。

さらに、見過ごせないのは、中小企業白書（2017年版）によれば2013年から2015年の間に休廃業・解散した企業のうち黒字企業の割合が50.5%もあることです。

このように事業承継、後継者不足が喫緊の課題となっております。

## 2 後継者問題が国の根幹に関わる社会問題であること

後継者問題が放置されると、

- ① 優良な技術伝承ができず産業基盤自体が劣化し
- ② 経済産業省の試算によれば、2025年までに650万人の雇用喪失、22兆円ものGDP喪失のおそれがあり、  
まさに社会の根幹に関わる問題となっております。

## 3 浜松にも後継者問題による大廃業時代の足音が迫っている現状

浜松においても、浜松商工会議所が実施した調査によれば、経営者が60歳以上の場合の20.2%が廃業予定であり、66.3%が後継者未定の現状です（調査期間2018年4月から6月末、調査方法および対象事業者は浜松商工会議所会員等、回答数は4369社）

(資料4-1)。そのため、このままでは、モノづくりのまち浜松の根幹である優良な技術の伝承ができず浜松の産業基盤が劣化するだけでなく、企業の廃業によって浜松の雇用が喪失し、税収の減少等のおそれがあります。

## 4 提言に向けた調査実施

(1) そこで、伊藤小委員会では、上記現状を踏まえてさらに、

- ① 日本の国家政策としての事業承継の対応・抱える課題を調査・把握をするために**経済産業省中小企業庁、内閣官房**に調査にうかがいました(巻末資料4-2)。
- ② 日本の経済三団体のうちの一つである**日本商工会議所中小企業振興部**にうかがい事業承継の日本商工会議所の施策、全国の商工会議所の取り組みを調査しました(巻末資料4-3)。

(2) また、浜松市の事業承継への対策について**浜松市産業部産業振興課**にも訪問調査をしました(巻末資料4-4)

浜松市としても事業承継の重要性は当然理解しており、事業承継の相談窓口として、はままつ起業家カフェ(浜松商工会議所会館1階)を設置し、広報活動も行っており、広報ははままつ2018年6月号にも事業承継の広報を行った。

しかし、事業承継の相談件数は僅少であり、伸びなかったとのことでした。

## 5 伊藤小委員会の提言の柱

### (1) 社会の根幹の中小企業の重要性及び商工会議所の存在意義の視点からの提言

全国382万社の99.7%を占めるのが中小企業であり、わが国の雇用の約70%、所得税や社会保険料拠出の約40%も担っています。このように、中小企業は、わが国の雇用、財政、社会保障制度の屋台骨を支えています。また、平成26年の経済センサス基礎調査によれば、浜松市内の中小企業は企業全体の99.8%を占め、浜松市のものづくりは、中小企業に支えられていることが分かります。

よって、中小企業がこの先も優れた技術やサービスを長期に渡って継続し、雇用の場を確保することが、地域経済の持続的な発展にもつながります。

また、商工会議所法(昭和二十八年法律第一百四十三号)第6条は、商工会議所の目的として「商工会議所は、その地区内における商工業の総合的な改善発達を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資することを目的とする。」旨規定するとおり、商工会議所は、まさに地域の中小企業のための組織です。

そこで、伊藤小委員会では、真正面から「地域の中小企業のために」、その課題の克服、さらなる発展・成長の方策について浜松の中小企業をサポートするための提言をします。

### (2) 具体的な提言の柱

上記の現状・課題を踏まえて、伊藤小委員会は「中小企業のサポート」として、まず**第1の柱として、事業承継の実現に向けた提言を考察しました(企業の時間軸の要素)。**

さらに、事業承継の促進のためには、事業承継される中小企業自体がより良い経営状況、魅力ある状態で承継されることが望ましく、現在の中小企業自体が成長、発展も必



要です。

そこで、第2の柱として、現在の中小企業の発展・成長の視点も重要であり、そのための企業連携についての提言を考察しました（企業の水平軸の要素）。

## 提言1～中小企業の事業承継のために産学官が連携・共創して後継人材を育成する組織「学生部」（仮称）の創設

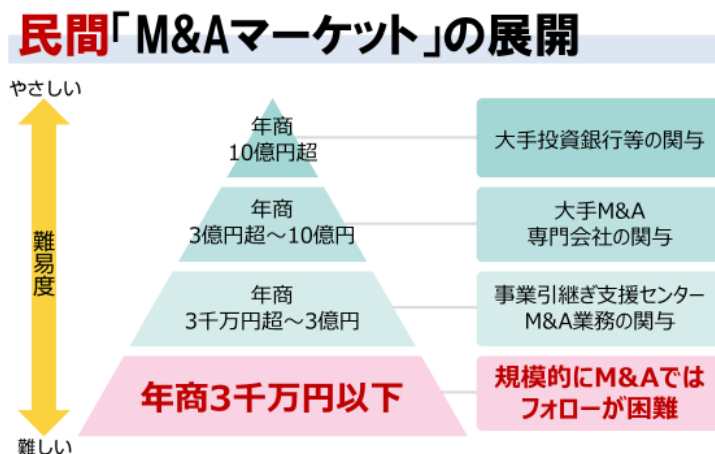
### 1 事業承継に向けた提言のための現状分析

#### （1）M&Aマーケットの分析

事業承継の手段として民間のM&Aマーケットがあります。

しかし、M&Aマーケットを分析してみると、下記図のように段階的構造があり、年商10億超程度の規模の企業については大手投資銀行等の関与によって、現実的に年商3億円超から10億円程度の規模の企業については大手M&A専門会社等の関与によって、さらに、年商3千万円超から3億円程度の規模の企業については事業引継支援センターのM&A業務等の関与によって事業承継を実現することが想定されます。

他方、浜松でも中小企業の大半が位置する下記図のピラミッドの一番下の年商3千万円以下程度の規模の企業は、財務経営状況、規模面、資金的、コンサル等に払う報酬等金銭的負担等を鑑みれば、実際にはM&Aのみによって事業承継を実現、フォローできるとは限りません。



そのために、浜松の中小企業の多くも その企業自体で後継人材を育成して事業承継を実現させる必要があります。

#### （2）事業承継の要素から分析

加えて、そもそも事業承継の要素として、以下の図のように

- I 資産（株式、設備、資金等）の承継
- II 知的資産（①知的財産権、許認可等、②理念、技術、人脈、顧客、ノウハウ、信用等）の承継

### Ⅲ ひと（経営）の承継 が一般に挙げられます。



週刊ダイヤモンド 2013 年 11 月 9 日号参照して作成

そして、「Ⅰ資産の承継」、「Ⅱ知的財産の一部（①知的財産権、許認可等）」については、事業承継法務、税務によってフォローができます。例えば、遺留分に関する民法の特例や、2018年度税制改正大綱で打ち出された株式の譲渡に伴う相続税の10年間の時限措置等の事業承継促進策として一定の評価がなされます。

しかし、事業承継の要素の「Ⅲひとの承継」や「Ⅱ知的財産の一部②（理念、技術、人脈、顧客、ノウハウ、信用）」は法務・税制のみでフォローしきれない訳ではなく、後継人材の育成が必要となります。

## 2 第1の提言の柱（事業承継）の具体的な視点・方向性

以上のとおり、中小企業にとって事業承継の実現ために「後継人材を育成」を行う必要があります。

しかも、少子化の時代背景や、浜松の中小企業の後継ぎ子弟のためや、浜松に実際に定着して後を継ぐために、他地域にて他力で偶発的に後継者が育成されることに期待するのではなく、まさに浜松地域経済の問題として、「浜松地域社会において」なされることが必要です。加えて、経営を後継者に引き継ぐには当然ある程度時間を要するため、早期に準備の必要性を認識して準備に着手する必要があることに鑑みて、システムの「持続的に」後継人材を育成する必要があります。

## 3 事業承継のための後継人材の育成に向けた調査

- (1) 大学には様々な分野の多様な才能が国境を越えて集まっています。そして、長い年月をかけて培ってきた知恵の蓄積があります。

そのため、大学は様々なセクターの人々が協働するプラットフォームになることができます。

- (2) そこで、伊藤小委員会では、強力な社会インフラとしての大学の存在に着目して、後継人材の対象となる大学生の現状、生の意見を把握するために①浜松市内にある静岡大学情報学部の教授・学生・院生と3回にわたり意見交換会を行いました（巻末資料4－5）。さらに②2017年度浜松 YEG 研修委員会が事業として行った浜松学院大学とタイアップして行った連続講義「浜松企業研究」の担当の同大学戸田教授、学生からも意見の聴取をしました。その意見の要旨は以下のとおりです。

- ① 浜松の大学に進学しても、浜松の企業のことを十分に知らない、知る機会がないから、進路選択として浜松の企業に就職しようと思わない。
- ② インターンシップはあるが、表面的・短期的で実学や経営に深く関わることができない。より長期的、深く学びたい。
- ③ 興味のないアルバイトよりも、実際に自分の専門の分野でアルバイトをして学びたい
- ④ 企業から実際に学びたいが、大学卒業には単位も得る必要がある。なので、実学、経営を学んで、それが大学の単位につながるといい。
- ⑤ 後継ぎや起業の同じ志を持つ大学生同士でもネットワークで情報を得て、学びたい。
- ⑥ 起業に興味があるがリスクを採りたくない、失敗が怖いから東京の名前の知っている企業に就職する。
- ⑦ そもそも大学と産業界には壁がある。大学側も、もっと地元経済界と関わり地域経済のために人材育成を図りたいが、地元企業との関わりも教授等の個人的な人脈だよりでしかない。組織的・継続的に経済界と関わるシステムが必要である。
- ⑧ 単年度で経営者が大学で授業を行っても、単発で終わる場合もあり、継続的にカリキュラムを持続ができない。等々

(3) 小委員会では、大学生育成の先進的な取り組みをしている福岡大学の地域連携コーディネーター助教山田雄三様にもご意見を伺いました(資料4-6)。

- ① 大学の強みは学生を沢山持っていることである。大学生が卒業した後の進路について大学がキーとなっている。
- ② 今まで他の大学、行政、産業界とのつながりが薄く分断されているきらいもあった。従来のように単独の大学が自前の資源で大学振興や地域の活性化に取り組む段階から、特定の地域圏域内の複数大学と地方自治体、産業界がチームを形成し、互いに資源を共有しながら、地域全体の活性化と大学振興に取り組んでいく新しい段階へと移行してきている。
- ③ 今後ますます複雑化・多様化する社会に対して、もはや単独の組織だけで対応することは困難で、地域の複数の組織が人材・ノウハウ等を持ち寄り地域の実情に即した柔軟な仕組みを作る必要がある。等々

(4) 小委員会では関西大学「ガチンコ後継者ゼミ」の講師山野千枝様(近畿経済産業局「Next Innovation」プロジェクトリーダー)にもご意見を伺いました(巻末資料4-7)。

- ① 後継者問題は事業承継に含まれるはずであるものの、事業承継は、資産の承継、承継手続面、税制に政策の焦点が当てられ、後継者不在の状況に対する政策に乏しい。
- ② 全くゼロから始める起業よりも、もともとある家業という経営資源・アドバンテージを生かしてその中で新規事業を行う。
- ③ 「ガチンコ後継者ゼミ」は経営者の後継者である子弟を対象とした上半期2単位のゼミで全15回のカリキュラムである。実際に家業を継いだ経営者も講師として招く。
- ④ 関西大学は上記ゼミを2019年度から大阪府下の他大学の学生を受け入れる方針で、学生が卒業に必要な単位を他大学の講義で取得できる「単位互換制度」を活用する。等々

(5) 立命館大学の例(2018年12月12日付け日本経済新聞)

- ①立命館大学が地元の中小企業等と組み学生を対象とした地場企業の後継者育成の課外プログラムを始めた。
- ②関西には約60万の中小企業が立地し、次の経営者が決まっていないケースも多いため、家業の後継ぎという選択肢を提示し地域経済の担い手を育てる。
- ③中小企業の後継者候補の学生を主な対象とし、中小企業経営者が加盟する大阪府中小企業家同友会(大阪市)が協力する。

【分析結果について】

以上の大学側意見を分析すると、経済界との継続的な繋がりや交流の要望、経営・実学を直接企業から学びたいとの要望が存在します。また、実際に、経済界、経営者が実際に講義に関わりタイアップする後継者育成プログラムを提供し、単位互換制度も活用している大学、また、特定の地域圏域内の複数大学と地方自治体、産業界がチームを形成し互いに資源を共有しながら地域全体の活性化と大学振興に取り組んでいくことを実践している大学も存在します。

(6) 実際に事業承継をした又は候補となっている若手経営者の実態について

また、事業承継について、浜松商工会議所の協力を得て、浜松商工会議所青年部会員(46歳以下)へのアンケート結果(2018年10月19日から同年12月14日。回答者数72名)の抜粋によれば、実際に後継ぎをした、又は後継ぎ候補の若手経営者の回答は、以下のとおりです。

Q1 後継者候補、後継者の場合何代目にあたりますか？(うち対象者46名)

2代目(46%・21名)、3代目(33%・15名)、4代目(13%・6名)、5代目(4%・2名)、6代目(4%・2名)

Q2 先代(代表者との関係)は？(うち対象者46名)

子(83%・38名)、従業員(11%・5名)、子以外の親族(4%・2名)、社外の第三者(2%・1名)

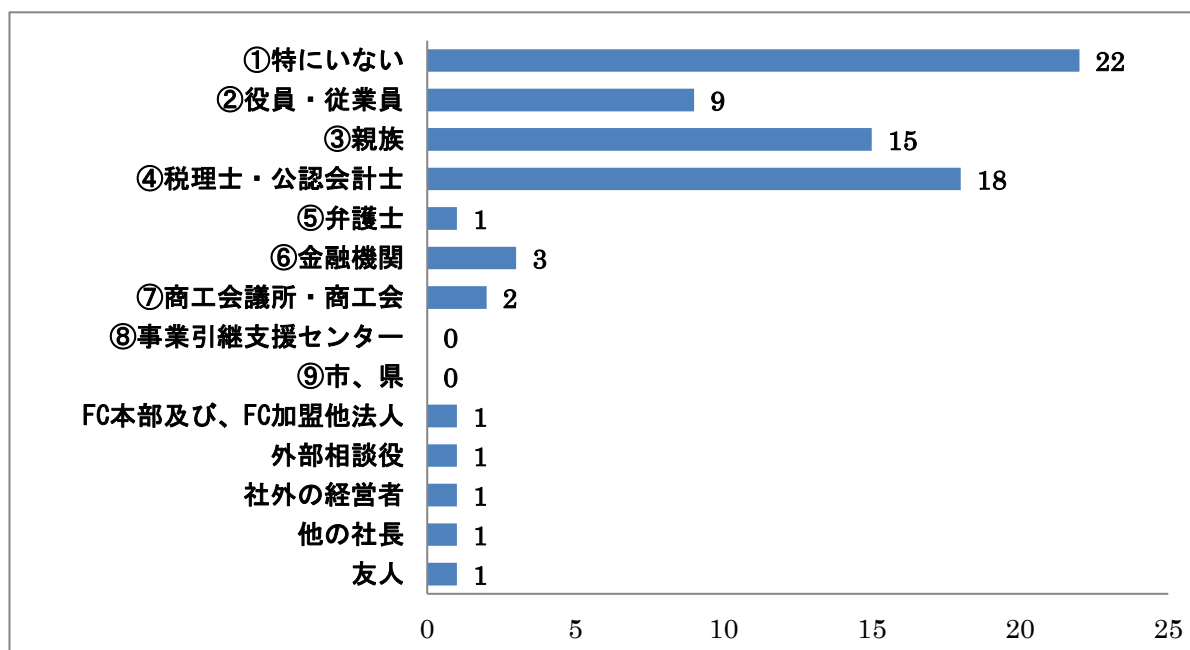
Q3 事業引継ぎ期間はどのくらい必要と考えますか？

1年超～3年以内(41%・19名)、3年超～5年以内(30%・14名)、1年以内(11%・5名)、5年超～10年以内(9%・4名)、10年超(7%・3名)、未定(2%・1名)

Q4 現在抱える課題や悩みの解決にあたって、「市・県・国」に求める施策や事業の要望

- ・資金・事業アドバイス
- ・専門知識が必要な業種について専門知識がない場合、どのように経営していけばよいか教えてほしい
- ・新規事業に対する助成
- ・経営や税金に関する支援制度・補助金
- ・メイドイン浜松の商品を売り出したいため、もっと市に協力してほしい

Q 5 事業を引き継ぐことについて相談する相手はいますか、いましたか？（複数回答可）



以上の結果を分析すると、すでに事業承継を実際にした又は候補者である46歳以下の若手経営者によれば、引継ぎに必要な期間は、「1年超～3年以内（41%・19名）、3年超～5年以内（30%・14名）」が合計71%も占めているように、現実の事業承継には準備期間が実際にかかることが分かります。

また、市・県・国の行政に対しても伝えたい様々な要望があることも分かります。そのため、要望を伝えやすい環境として、行政との関わり合いをもつ必要があります。

さらに、衝撃的なことは、事業を引き継ぐ相手がいないという回答が最も多い割合であることです。その克服には、事業承継について容易に相談できる相手、組織、ネットワークの構築が肝要です。

#### 4【提言】事業承継のための後継人材の育成(大学生向け)～学生部の創設

- (1) 上記のような現状、意見聴取、要望、現実例等をふまえて、事業承継のための大学生の後継人材の育成のために、浜松地域全体の全体の問題として、産官学にて、しかも持続的な連携・共創の組織が必要と考えます。これは、政府の提唱する「人づくり革命基本構想」（平成30年6月）にも沿うものです。

そこで、浜松市に産官学連携して後継者人材育成の組織として「学生部」を作ること  
を提言します。

この「学生部」は、大学生を中心とした団体で、浜松商工会議所等の経済団体、大学が中心となって立ち上げ組織して、後述のとおり浜松市にもメリット・機能・効果があるため浜松市にも組織に関与、連携をして頂き、産官学共創の人材育成の組織とします。





(2) 継続的後継人材育成組織の「学生部」創設による関係者の相互メリットや機能・効果・合理性は、以下のとおり挙げられます。

## 産業界と学生の相互関係

### ① 産業界

- ・浜松の経営者が学生と直接交流することで、浜松の企業を直接的に知ってもらうことができます。
- ・直接、後継者育成講義を行って、後継人材・地域経済の担い手を育成できます。
- ・経営者が学生と身近に接することで後継人材の発掘ができ、入社、採用にも繋げ、事業承継問題の解消を図ることができます。
- ・経営者が学生ともにアイデアを生み出して企業の新規産業の創出に繋ぐ可能性もあります。



- ・日々の業務に多忙な企業にとって、後継者育成を企業個々区々のインターンシップではなく、経済界全体で組織的に後継育成を図ることができます。
- ・時間を要する後継者育成教育の機会を組織的に提供できます。

### ② 学生

- ・今まで十分に知る機会がなかった企業をより身近に知ることができます。
- ・経済人との出会いや交流ができ、実際に後継ぎとして事業承継をした後継者の生の声を聞くことができます。また、経済人との交流により早期に将来のキャリアビジョンを描くことができ、後継者としての意識を高め、醸成することができます。
- ・学生時代から、浜松のものづくりの技術を直に深く学ぶことでできます。
- ・浜松の企業の経営資源を引き継ぐ機会・可能性が得られます。
- ・事業承継時や事業承継した後の相談相手としても先輩経営者、同世代とのネットワークを早い段階で構築できます。
- ・様々な経営者、企業を知ること、家業に加えて新規事業のヒントを得ることができ

ます。

## **浜松市と学生との相互関係**

### **① 浜松市**

- ・浜松の未来を担う若い人材が浜松から流出するということなく、地域で育成でき、地域に定着してもらえます。
- ・後継人材による事業承継の実現によって浜松の中小企業が存続し、地域社会の雇用の確保、就業機会喪失による人口流出・減少の防止を図り、税収の維持を図ることができます
- ・後継人材育成の成果により、「ひとづくりのまち街浜松」として浜松市のPRにつながります。また、「ものづくりのまち浜松」のプレミアムブランドを維持ができます。
- ・地元企業を継いだり、後継者候補として浜松の企業に就職して、若者が浜松市に定着することにより、人口増加にも繋がり、若者が多い活気ある魅力ある地域づくりになります。
- ・従前、広報によっても十分に掘り起こせていない浜松市民の潜在的な事業承継の必要性を喚起できるのみならず、さらに後継人材育成を産業界・大学に委ね実現できます。

### **② 学生**

- ・浜松市が保有する企業情報を的確に得られます。
- ・浜松市の施設の利用、学生部の運営費用の補助、新規事業・起業の際の補助が得られます。
- ・学生の問題意識を直裁的に行政に伝えることができます。
- ・学生が浜松市とより身近に関わることによって、浜松の地域の課題、問題点を实际的、直裁的に認識できるようになります。

## **学生と大学との相互関係**

### **① 学生**

- ・各大学間を超えた、後継ぎや起業希望者のネットワークの構築ができます。
- ・浜松の経営者・技術者から実学や経営を学んで、その学びで大学の単位を得ることができます。

### **② 大学**

- ・個々の教授や大学の人脈頼みではなく、組織的経済的に経済界とタイアップすることで、多様で質の高い人材育成プログラムを学生に提供できます。
- ・少子化の時代において個々の大学単独によるではなく、大学間の垣根を越えた大学間単位互換制度を利用して、後継者人材育成プログラムを提供できます。
- ・産業界とタイアップした経済の実情に合致する後継人材育成教育は、各大学の特色として、PRにもなり、ひとづくりの大学としての特色を出せます。

### **(3) 総括として**

以上のとおり、提言内容の産学官連携・共創の「学生部」の創設は相互にメリット・合理性が大きく、浜松の地域全体で後継人材の組織的に育成を実現でき、事業承継を実現できます。

## 5【提言】事業承継のための後継人材の育成(高校生向け)

### (1) 高校生向けの人材育成の提言の背景

「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」(2018年6月15日閣議決定)には、  
「高等教育は、地域人材の育成において極めて重要な役割を担うとともに、高等学校段階で地域の産業や文化への理解を深めることは、その後の地元定着やUターン等にも資する。」、「このため、高等学校が、地元市町村・企業と連携しながら、高校生に地域課題の解決等を通じた探求的な学びを提供するカリキュラムの構築等を行う取り組みを推進する」とされています(資料4-8)。

また、文部科学省は2018年8月1日、各地の公立高校を核に地域を支えていく人材を育成するモデル事業を2019年度から始める方針を決定しました。これは、地元自治体や企業などと緊密に連携した推進体制づくりを促し、地域振興に関する実践的な授業を展開し、進学や就職時の地元離れを食い止め「高校発の地方創生」と位置づけです。通常の教科に加えて特別な授業を実施し、自治体・企業やNPO法人・大学が協力をするものです(資料4-8)。

### (2) 高校と地域との連携協働について

地域には、生きた課題が数多く存在するため、生徒の地域への興味や関心を深め、地域の課題を探究する重要な機会を提供できます。

しかし、実際、生徒が地域との関わりの中で世界観を広げていき、その後の学びや進路に影響を受けるような活動が十分に行われているとは言い難いのが現状です。

これに関して、静岡県教育委員会高校教育課指導第2班教育主事様に意見の聴取を行ったところ、例えば、静岡県西部地域の袋井商業高校では地元商工業者を中心に商品提供や協力を受け「袋商ショップ」等を行っているものの、高校全体として見れば、個々の高校自体、教師の人脈頼みという側面があり、組織的連携とは言えないのが現状であること、高校側としても産業界との組織的連携を要望するとのことでした(参考資料4-9)。

「Society 5.0」に向けた人材育成が求められている現在において、浜松地域の生徒にとって最も身近である地域と学校とが手を携えながら、大学、研究機関、企業、NPOなどの地域の様々な教育資源や社会関係資本を活用して、体験と実践を伴った探求的な学びを進めていく必要があります。こうした学びが学校生活を一層充実したものとし、みずからの特性を踏まえた将来の進路と真剣に向き合う契機となり、浜松への課題意識や貢献意識をもった人材の育成にもつながります。

そして、**全国の先進的な事例**として

#### ① 長野県飯田市

県立飯田 OIDE 長姫高校と飯田市と松本大学の三者がパートナーシップ協定を締結し、高校生が地域課題を主体的に考える「地域人教育」の実施をしている。

#### ② 島根県

高校を核とした官民共同による地方創生プロジェクトとして、公教育の場へ多様なセクターの参入を積極的に促し、例えば「地域協議会」を結成し地域住民が学校経営に参加し、学校と地域をつなぐ「魅力化コーディネーター」の配置等も行っている。

また、高校生の意見をみると、本年度実施した高校生へのアンケート「Q5⑤. 就業体験やインターンシップの他、浜松の企業が授業をするとしたらどのような授業をしてもらいたいですか。」の質問に対して、

- ・体験型や働いている人の本音が聞けるようなもの、将来の選択に役立つから
  - ・浜松で働くことのいいところなどを教えてもらいたい・ものづくりの楽しさ、浜松でものづくりをする人の生の意見をきいてみたい
  - ・そこで働いている人の意見、考えを聞きたい、浜松でしかできない就業体験がしたい
- 等々

という回答があり、浜松の高校生にとっても、実際に地域社会、企業への関心があること、関わりを持つことの希望があることが分かります。

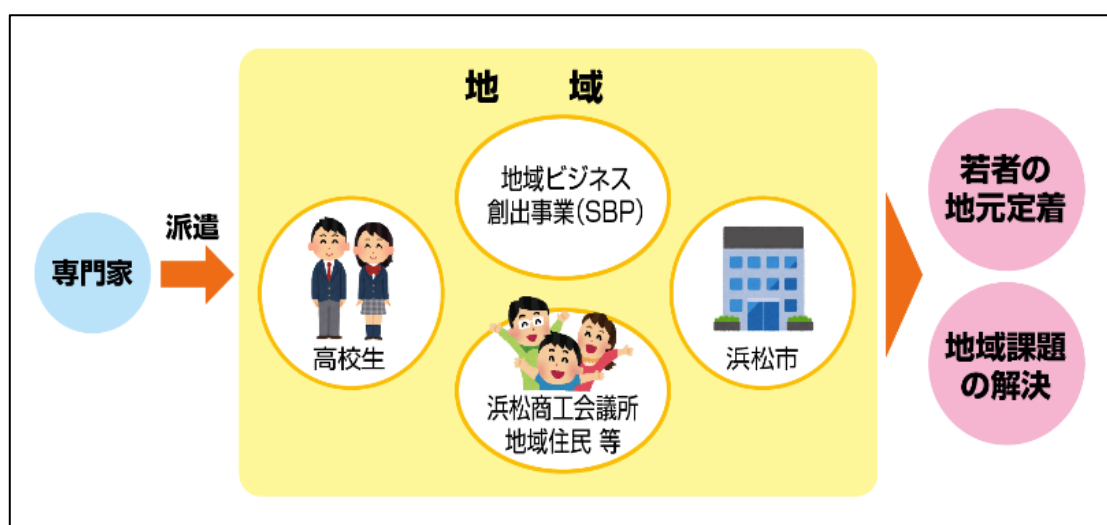
### (3) 産官学連携しての高校生の後継人材育成の具体的な提言

このような状況のもと、高校の人材育成として、個々の学校毎の取り組みのみによるのではなく、浜松市や浜松商工会議所等の経済団体、自治体設置のシンクタンク、教育委員会、高校等の産官学が連携して、地域ビジネス創出事業(Social Business Project。以下「SBP」という。)の浜松版ガイドライン・教書等を作成して、教育現場に専門家も派遣して、SBPを高校の統計的なカリキュラムとして展開、実践することを提言します。

例えば、具体的には、

- ① 1年生 ビジネス基礎として外部講師講義、フィールドスタディ等
- ② 2年生 ビジネス実務として浜松市の産業イベントの運営サポート・企業連携によるインターンシップ等
- ③ 3年生 課題研究として地域商品開発・販売、イベント企画・運営、地域課題の取り組み等を行うことが考えられます。

また、そのためには、静岡県、浜松市、商工会議所等の経済団体、大学等がパートナーシップ協定を締結し(後述の提言3参照)、浜松の地域・圏域の問題として高校生の人材育成を企図することが相当であると思料します。



# 提言 2 ～企業の発展・成長のための企業連携

## 1 浜松の製造業の強み

浜松製造業の強みは他に類をみない磨かれた優良な技術です。これは世界に名だたるメーカーの高い要求にプライドと情熱をもって応える職人魂によるものです。

例えば、当委員会所属のメンバーの製造業においても、髪の毛よりも細い穴を開ける技術、表面を鏡のようにピカピカにする技術、薄い膜厚で究極の黒色を実現する技術等、磨かれた優良技術を有する企業があります。



## 2 浜松の製造業の課題

他方、製造業に携わる提言委員会鈴木委員長、当小委員会の浅倉会員の意見によれば、ものづくりのまち浜松の企業は、もの自体を作るのは得意であるがその企業オリジナルのものを最終製造までを行うことがなく、またそのために取引価格の適正化が構造的に困難、アピールが苦手、デザイン、マーケティング、ブランディングサービスソリューション等転換を必要とするこの時代に身につけないといけない能力が備わっていない中小企業も多くあるとのことでした。

## 3 浜松の製造業の強みを活かし弱点を克服して成長・発展するために

そこで、各企業の優良な技術を活かし、弱点を克服するために全てが「競争」領域と捉えるのではなく、各企業において「協調」領域を拡大し、価値を高めていく連携力が必要です。

つまり、浜松を一つの産業体として自社にない技術、分野、ノウハウを相互に連携させることが重要です。また、デジタル革命による技術は、ものづくりの形も変えようとしており、AI、IoT、ビックデータを活用することによって遠隔地に分散した技術を繋いで生産をすることも可能となります。

これに加えて、大学も企業の連携に関わることが重要です。

すわなち、大学は優れた研究開発力を有しているとともに、文部科学省「大学改革実行プラン」に方針が明確に示されているとおり、新しい知識の創造と人材の育成を担う機関である大学は地域の活性化や発展を牽引する中核拠点としての役割を強く期待されています。他方、調査によれば、大学側も浜松の優良な技術を有する企業と連携、タイアップしたくとも個人による人脈に頼らざるをえず、必ずしも迅速に連携しうる訳ではありません。

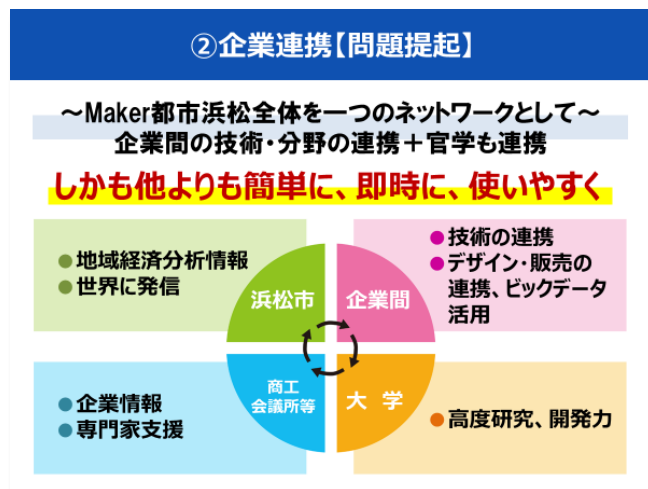
また、行政である浜松市には、地域経済に関する官民の様々なデータ（産業構造等）であり、各地域がデータに基づき、自らの強み・弱みや課題を分析して、その解決策を検討することを後押しする地域情報分析システム（RESAS）を国から交付され、活用を求められているため、その情報を有効に活用できます。また、RESAS等の行政保有情報に加えて、浜松商



工会議所等の**経済団体**が有する会員企業のデータ、ローカルデータ、ソーシャルデータの連携による新たな価値サービスの創出を図ることができます。また、浜松商工会議所等の経済団体や浜松市の優れた情報発信能力を活用する必要があります。

もっとも、従前においても、企業情報データベースが存在したり、インターネットのマッチング、金融機関の企業マッチング企画等があります。

しかし、実際に十分に活用されているとは言えないのは、データにたどり着くのが煩瑣、面倒であったり、掲載データ自体が無味乾燥や有益でなかったり、マッチング自体に参加するには費用がかかったり、各社の人脈頼りとなる等に原因があります。



#### 4 企業発展・成長のための提言として～産学官連携のアプリの作成、利用

そこで、中小企業が簡単、迅速に手軽に情報、技術、ノウハウを集めたり、ある企業がこんなことをしてもらいたいという困りごとやその企業が不足するデザイン・マーケティング・ブランディング・サービスソリューション等分野について即時・適時に相談できたり、解決の助言を得たり、相互に連携ができれば、中小企業の更なる発展に繋がります。

また、ものづくりの街浜松の製造業がひしめき合っているもお互いの優良な技術を認識していない場合も意外に多いため、他の企業の有する優良な技術、ノウハウを連携させるシステムが必要です。そのためには、いわゆるコーディネーター的、ハブ(拠点)的なシステムが必要です。しかも、新たなシステムとして、大学や行政とも情報で繋がることができればより利用価値が高まります。

そこで、中小企業の発展・成長のため、Maker都市浜松を一つのネットワーク、産業体として、企業の技術ノウハウの連携に加えて、大学、行政も連携・共創し、産業界が中心となって産官学の連携共創アプリ『Hamatch』(ハマッチ)の製作、利用を提言します。

なお、上記アプリの具体的な説明動画も伊藤小委員会にて作成いたしましたため、是非ともご覧になって下さい。(https://www.youtube.com/watch?v=XxaDZzzeGDQ)



# 提言 3 ～ 提言、施策実現のため産官学の連携協定の締結

## 1 中小企業のサポート策の実現に向けて

“Maker 都市浜松 100 年後に繋がるヒト、モノ、伝統 etc.”を実現するために「中小企業プレミアムサポート」として伊藤小委員会では 2 つの提言の柱を提示しました。

しかし、これが実現されなければ、実際に浜松の「ヒト、モノ、伝統」を繋ぐことができません。また、上記提言以外にも、浜松の中小企業は様々な課題に対応する必要があります。加えて、今後ますます複雑化・多様化する社会に対してもはや単独の組織やセクターだけで対応することは困難であり、地域の複数の組織・セクターが人材やノウハウ等を持ち寄りながら地域の実情に即した柔軟な仕組みをつくっていくことが求められ、既存の組織・領域・分野の枠を越えて人的交流や資源の共有を図り、地域社会の活性化に資する取組を一体となって進めていく必要があります。

## 2 他の都市の例

### (1) 福岡市

行政の福岡市、大学の九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡歯科大学、福岡大学、経済界の福岡商工会議所、福岡中小企業経営者協会が当初から参画して、2018 年 9 月に協定を締結し、福岡都市圏の大学・自治体・産業界の垣根を越えた交流の促進等の課題に取り組む(参考資料 4-6)。

### (2) 川崎市

事業承継の支援に向けて川崎商工会議所が中核となって川崎市、川崎市産業振興財団、川崎信用金庫と連携し 2017 年 12 月に「中小企業者の事業承継支援に関する協定」を締結した。「オール川崎」の事業承継支援を行っている(参考資料 4-3)。

### (3) 尼崎市

兵庫県尼崎市では、西日本で初めて、尼崎商工会議所、協同組合尼崎工業会、日本政策金融公庫尼崎支店、尼崎信用金庫が 2018 年 4 月 27 日、尼崎市内における事業承継支援に関する連携協定を締結した(参考資料 4-3)。

## 3 第 3 の提言～浜松未来創造プラットフォーム協定締結(仮称)

浜松市では、2019 年 4 月 1 日に浜松中小企業振興条例が施行される予定です。

そこで、この条例を法的根拠として、提言や事業承継、その他中小企業の諸問題へのサポートを実現するためにパッケージで一体的にオール浜松にて対応するための連携協定すること、具体的には、浜松商工会議所や商工会などの産業界、浜松市、大学、金融機関との間で、施策実現連携協定である「浜松未来創造プラットフォーム協定」を締結することを最後の第 3 の提言とします。

そして、今こそ、企業や産学官の垣根を越えて、浜松全体で「浜松の中小企業のサポート」を実現することによって、「浜松の底力」を見せるとともに、浜松の中小企業のために「浜松の未来」を見せたいと思います。



まとめ

# 『Maker 都市浜松』

過 去 × 現 在 × 未 来

Passed age    Present age    Future age

すべての時代を繋げる = Link-age

- ・ 4 つの提言の柱を振り返って
- ・ すべての繋げる = Hamamatsu Link-age（浜松連鎖）

## 4つの提言の柱を振り返って

今回私たちは浜松をさらに素敵な街にするための施策として、以上の4つの具体的な施策を提言させていただきました。いかがだったでしょうか？

現在の浜松は先達の築いてきてくれた産業のおかげで成り立っています。そして、浜松の現状を再調査、再認識したうえで、まだまだ未来へ向けて発展させられる【タネ】を発見することができました。タネが芽吹き実ができるまでは時間がかかりますが、100年後に多くの実りを得るための最初の水、肥料が今回の提言であると信じています。

まずは、過去から現在へ繋がっている浜松の産業企業を浜松市民と繋げることによって、認知度アップと新たな顧客の掘り起こしを狙った提言1。さらに、未来の働き手である子供たちにその企業認知度アップとPRを加速させつつ、地元愛の醸成をも狙った提言2。そして、その産業企業のマンパワー不足と農業をマッチングさせ、生産効率アップの施策からさらには子供たちの育成や地産地消まで考えた提言3。最後に、すべての産業企業で大きな問題となっている後継者問題について、未来の後継者になりうる学生の学生時代から積極的に地元産業企業と連携していく仕組みづくりとモノづくり企業の不得手な部分を補完できる仕組みづくりの提言4。

すべての提言において、過去から未来へ、時代も内容もすべて繋げる（リンクする）提言として完成させることができました。

## すべてを繋げる＝Hamamatsu Link-age（浜松連鎖）

我々商工会議所青年部は、全員が各企業で中核をなすメンバーです。だからこそ各企業の強み、弱み、何が足りていて何が足りていないのか理解しています。

今回の提言内容を実現することができれば、浜松の産業企業がさらに元気にクリエイティブに、そして浜松市民がもっと笑顔で元気になれることは間違いありません。

浜松の歴史と文化を理解し、未来へリンクさせていく時に、これらの仕組みもすべてリンクします。そして、浜松の産業企業、子供、学生、大人すべてがリンクします。

企業と企業の繋がりも人と人の繋がりでも成り立つ

これこそまさしく

## 『Hamamatsu Link-age』

「Hamamatsu Link-age」という「小さな一歩」が繋がり

浜松は100年後も『Maker都市』として輝き続けます。

# 卷末資料

## 【提言 1】

資料 1－1 調査記録「産業に関する展示・学習施設」

資料 1－2 提言視察記録「広島 BOX、MOBIO」

資料 1－3 調査記録「浜松商工会議所会員企業」

## 【提言 2】

資料 2－1 提言視察記録「てらやまプレーパーク、広島市」

資料 2－2 調査記録「羽根木常設プレーパーク、井の頭公園」

資料 2－3 調査記録「浜松市公園課、アセットマネジメント推進課」

## 【提言 3】

資料 3－1 提言視察記録「広島市農林水産振興センター」

資料 3－2 調査記録「浜松市農林水産課」

資料 3－3 調査記録「JA とぴあ浜松営農指導課」

資料 3－4 調査記録「プロダクトリング(株)」

資料 3－5 調査記録「セルリ農家」

## 【提言 4】

資料 4－1 調査記録「浜松商工会議所」

資料 4－2 調査記録「経済産業省、中小企業庁」

資料 4－3 調査記録「日本商工会議所」

資料 4－4 調査記録「浜松市産業振興課」

資料 4－5 調査記録「静岡大学情報学部」

資料 4－6 調査記録「福岡大学」

資料 4－7 提言視察記録「大阪イノベーションハブ」

資料 4－8 調査記録「文部科学省」

## 【提言 5】

資料 5－1 アンケート記録「社会人に対する意識調査」

資料 5－2 アンケート記録「学生に対する意識調査」

資料 5－3 アンケート記録「商工会議所会員企業に対する意識調査」



| 調査記録・中村小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                             | 資料 1 - 1 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|----------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 「浜松市の産業に関する展示・学習施設」に関する実地調査 |          |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 平成30年6月～8月                  |          |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 産業・モノづくりに関する展示・学習施設         |          |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 各施設                         |          |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 加藤 博三、鈴木 健正                 |          |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                             |          |
| <p>・調査理由</p> <p>浜松の産業・モノづくりの歴史・精神・技術を展示・学習することができる施設についての現状調査。<br/>産業の歴史・精神・技術について展示・学習できる施設についての成功例調査。</p> <p>・訪問施設（市内）</p> <p>浜松市博物館<br/>浜松科学館<br/>浜松まつり会館<br/>浜松市美術館<br/>浜松市地域遺産センター<br/>浜松復興記念館<br/>浜松城<br/>市民ミュージアム浜北（くらしの歴史館、歴史資料館）<br/>本田宗一郎ものづくり伝承館<br/>エアーパーク<br/>金原明善翁生家</p> <p>・訪問施設（市外）</p> <p>ヤマハコミュニケーションプラザ<br/>トヨタ産業技術記念館<br/>トヨタ鞍ヶ池記念館<br/>豊田佐吉記念館<br/>2k540 AKI-OKA ARTISAN</p> <p>・委員会研修視察（市外）</p> <p>呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）<br/>海上自衛隊呉資料館（鉄のくじら館）<br/>マツダミュージアム</p> <p>・調査項目</p> <p>施設名、アクセス、入館料金、駐車場、入館者状況、入館者客層、展示方法、展示内容、職員対応<br/>イベント状況、所要時間、感想、ミュージアムショップ 等</p> <p>・調査結果</p> <p>浜松には浜松の誇りである「産業・モノづくり」について学習し、その歴史・精神・技術を後世に伝えることに特化した施設は現状存在しない。</p> <p>企業毎、もしくは一部の時代や技術について紹介している施設は多く存在する。</p> <p>浜松の「産業・モノづくり」について市民が学習できることは、故郷浜松をより当たり前により深く知ることにつながり、郷土愛や未来の定住思想の醸成に寄与するのではと考えた。</p> <p>ただし、中途半端な施設ではなくしっかりと内容が伴い、来館者もいなければ意味がない。</p> <p>現在成功している各施設からは施設・展示・職員 等各パートから意気込みを感じさせられた。</p> |                             |          |

| 提言視察記録・中村小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                  | 資料 1－2 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 広島県立広島産業会館の県産品展示機能に関する調査<br>MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）の常設展示場に関する調査                                                   |        |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 平成30年9月3日（月）午前10：00～11：30<br>平成30年9月3日（月）午後16：30～18：30                                                           |        |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 広島県立広島産業会館（指定管理者 公益財団法人ひろしま産業振興機構）<br>館長 下村 節子様、課長 荒金 雅博様、専門員 向井 直美様<br><br>MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）<br>副主査 山内 一成様 |        |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 広島県立広島産業会館 西展示館 本館<br><br>MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）                                                                 |        |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 石岡 靖雅、加藤 智成                                                                                                      |        |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                  |        |
| <p>・訪問理由</p> <p>市内外の来訪者が気軽に浜松の地場産業技術を肌で感じられ、常設展示で企業と市民が繋がる場所の研究。</p> <p>・公益財団法人ひろしま産業振興機構の担当者ヒアリング</p> <p>広島 BOX は平成28年度から始まり3年度を迎えている。運営方法は、1年度を4期に分け、各期それぞれのテーマを設けてそのテーマに沿った企業が、製品や模型を BOX 内に展示して、広島の宝物として県産品を展示している。</p> <p>広島 BOX の利用企業は主に広島県内の大手企業・老舗企業である。来場者が製品の「ものづくり技術の粋」と「デザインの美」を身近に感じられるように工夫がしてある。7～9月期の展示は夏休みの学童に自由研究のヒントになるように夏季特別展示を実施している。</p> <p>また、中小企業や小規模事業者向けの展示施設として、本館には平成29年より「C-LOUNGE（シーラウンジ）」というノマド・コワーキングのスペースを設けている。その一角にデザインギャラリーのコーナーを設け、広島で活躍するデザイナーやクリエイターの作品・製品を、広島産業会館西館ロビーに展示している「広島 BOX」のデザイン版として展示し、紹介している。 展示物は4ヶ月ごとに展示替えを行い、広島県内企業とデザイナーの出会いの場を提供する事で工業とデザインのコラボレーションを目指している。</p> <p>・MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）の担当者ヒアリング</p> <p>大阪府が主管して中小企業基盤整備機構、大阪産業振興機構、株式会社コンベンションリンケージ、東大阪市産業創造勤労者支援機構の共同運営されている。ものづくり企業への総合支援拠点としてビジネスマッチング、産学連携の橋渡し、国内最大級の常設展示ブースを誇る府内企業の技術・製品の無料常設展示、セミナーや常設展示場出展企業によるプレゼンと交流会を開催している。</p> <p>常設展示場出展企業によるプレゼンは、月に2回開催して、実物を見たり触ったりしながら企業担当者より最新の方法を入手したり、商談の予約をすることができる。</p> <p>MOBIO の最大の特徴は、中小企業支援窓口がこの1箇所に集約されて、ワンストップで支援が提供出来る点である「ものづくりの支援とは地域産業を守り抜く事だけでは無く、未来を見据えて承継・存続を盛り上げていくこと」が肝要で攻めの姿勢すらも感じさせられた。大阪府庁のものづくり支援に対する関係各所のガバナンスの強固さを強く感じさせられた。</p> |                                                                                                                  |        |

| ヒアリング記録・中村小委員会                            |                                                                                      | 資料 1 - 3 |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| テーマ                                       | 「モノづくり企業の強みと情報発信・収集」に関するヒアリング調査                                                      |          |
| 日 時                                       | 平成30年9月27日（木）～12月5日（水） 詳細は下記記録欄の通り                                                   |          |
| 調査先                                       | 浜松市内 浜松商工会議所会員企業                                                                     |          |
| 調査場所                                      | 各企業                                                                                  |          |
| 記録者                                       | 内山 貴仁、小林 範夫                                                                          |          |
| 記録                                        |                                                                                      |          |
| ・調査理由                                     |                                                                                      |          |
| 浜松のモノづくり企業が強みや情報発信について感じる悩みと現状をヒアリングする調査。 |                                                                                      |          |
| ・訪問日時、訪問企業、担当者、業務概要                       |                                                                                      |          |
| 2018/9/27                                 | 株式会社ウェルネスジャパンエンタープライズ 内山 貴仁様<br>自然発酵（60℃～70℃）の酵素風呂の企画・設計・販売、ヘルスケア、ビューティケア            |          |
| 2018/9/27                                 | 三光製作株式会社 小林 範夫様<br>輸送用機器、光学系部品、電子機器部品などへの表面処理                                        |          |
| 2018/10/9                                 | やまと興業株式会社 小杉 知弘様<br>コントロールケーブル製造とパイプ加工、LED 商品開発・販売、粉末茶製造販売                           |          |
| 2018/10/9                                 | 堀内パイプ工業有限会社 堀内 利津様<br>パイプ加工、プレス加工、金型設計・製作、溶接、表面処理、アッセンブリ                             |          |
| 2018/10/10                                | 株式会社カネキチ 鈴木 基信様<br>無垢建材のオーダーメイド製造、店舗・住宅の家具什器製造                                       |          |
| 2018/10/11                                | 鈴覚株式会社 鈴木 格徳様<br>各種鋼材の販売、二輪・四輪車用部品製造、丸棒鋼引抜切断加工、金属プレス加工                               |          |
| 2018/10/12                                | 株式会社スズヒロ制作 前田 純子様<br>制御盤板金製作、架台、機械カバー、安全柵、塗装各種、産業機械製造                                |          |
| 2018/10/18                                | 山田屋製菓舗 山田 和利様<br>クリームどら焼「湖郷」・他、和菓子の製造・販売                                             |          |
| 2018/10/22                                | 株式会社アサヒ ピー.エム 浅倉 直樹様<br>各種スタンド（ドラム電子ピアノ、大型プリンター パネル）の設計・加工・組立<br>楽器・コンピューター周辺機器の切削加工 |          |
| 2018/10/25                                | 株式会社九十九工業 小山 太郎様<br>袋ナット・ねじの製造・調達・検査・販売                                              |          |
| 2018/11/6                                 | ぬくもり工房 大高 旭様<br>遠州綿紬、遠州綿紬オリジナル商品（はんかち、バッグ、スリッパ、洋服 他）企画・販売                            |          |
| 2018/12/5                                 | 有限会社天竜堂 内山 淳様<br>メガネ、コンタクトレンズ、補聴器、光学用品、その他の付属品の販売                                    |          |

| ・ヒアリング内容、回答内容（抜粋） |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   | ヒアリング内容                            | 回答内容（抜粋）                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 1                 | 自社の強みを持っていますか？                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学との連携、他社には真似出来ない高い効果</li> <li>・注文から納入までのスピード</li> <li>・いろんな処理が出来る、一貫加工が出来る</li> <li>・他社にない看板商品、ワンオフパーツ</li> <li>・図面がなくても、現物から図面をおこして製作できる</li> <li>・設計から加工・組立まで一貫生産</li> <li>・少量多品種生産に強い、処理サイズが大きい</li> <li>・無垢材加工、加工精度</li> </ul> |
| 2                 | 次世代に紹介できる（誇れる）強みはありますか？            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長い社歴</li> <li>・他社にない技術、商品</li> <li>・手に職がつけられる。社内教育が充実している</li> <li>・女性が働きやすい。風通しが良い上下関係</li> <li>・老若男女関係なく働く場を提供できる</li> </ul>                                                                                                      |
| 3                 | その強みを発信する方法は何ですか？                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示会、HPなどがあります。</li> <li>・自社店舗、展示会、就職フェア、イベント出店</li> <li>・HP、Facebook、パンフレット</li> <li>・希望者の工場見学、インターンシップ</li> </ul>                                                                                                                  |
| 4                 | その発信方法に満足していますか？                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に会社、技術を知ってもらう場がない</li> <li>・良さを実感してもらうことが出来ない</li> <li>・HPが就職希望者向けの作りではない、人が集まらない</li> </ul>                                                                                                                                      |
| 5                 | どんな発信方法があったら良いと感じますか？              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に展示紹介が出来る場所が欲しい</li> <li>・良さを体験できる場所が欲しい</li> </ul>                                                                                                                                                                               |
| 6                 | 発信で得たい成果は何ですか？                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・やる気ある人材の確保</li> <li>・効果の検証、実証</li> <li>・知名度のアップ</li> <li>・協力メーカーとのコラボレーション</li> <li>・忌憚のない意見が欲しい、体験者の意見が聞きたい</li> <li>・お客様が失注した理由を知りたい</li> <li>・実際にどう感じたかのフィードバック</li> <li>・自社技術の他への活用方法</li> </ul>                                |
| 7                 | 現在行っている発信による成果はどんなものがありますか？        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPを通じて多くの問い合わせをいただいている</li> <li>・HPでは良さが伝わらない</li> </ul>                                                                                                                                                                            |
| 8                 | 成果を出すために今考えていることはありますか？            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・こちらから訴求してニーズを掘り起こす</li> <li>・HPのリニューアル</li> <li>・オリジナル商品の開発、販売</li> </ul>                                                                                                                                                           |
| 9                 | 必要としている支援はありますか？                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社の強みの掘り起こし、情報発信の場</li> <li>・補助金獲得へのアドバイス、コンサルティング</li> <li>・自社商品の開発、デザイナー・販路開拓の支援</li> <li>・実際の現場作用（実体）を学べる場所</li> <li>・公共施設などへの常設展示</li> </ul>                                                                                    |
| 10                | その支援による成果が浜松市に与える影響はどんなことが考えられますか？ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用促進、納税額増、地域貢献</li> <li>・浜松市から海外への輸出</li> <li>・日本のモノ造りを支え、浜松の知名度アップ</li> </ul>                                                                                                                                                      |

| 提言視察記録・黒木小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                          | 資料 2－1 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | てらやまプレーパークの常設プレーパークの運営に関する調査<br>広島市におけるプレーパーク事業の背景、経緯に関する調査                              |        |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 平成３０年９月２日（日）午後１：００～４：３０<br>平成３０年９月３日（月）午前　１０：００～１１：００                                    |        |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | てらやまプレーパーク<br>NPO 法人子どもネットワーク可部代表　増谷　郁子様<br><br>広島市役所広島市こども未来局こども・家庭支援課、<br>家庭支援係　新見　健太様 |        |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 寺山公園<br><br>広島市役所                                                                        |        |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 黒木　研一　山田　和利                                                                              |        |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                          |        |
| <p>・訪問理由</p> <p>常設プレーパークでの運営、管理、人材育成に関する研究</p> <p>・NPO 法人子どもネットワーク可部代表ヒアリング</p> <p>寺山公園に常設プレーパークを設置して７年になる。運営費は委託管理料として、広島市に請求。そこから最低限の人件費、保険料も支払われている。企業との連携というのは特にはなく、廃材や廃棄される消防ホースの提供がある程度である。</p> <p>プレーリーダーと呼ばれる、管理者の育成面で、見守るべきか、手助けするべきかの判断基準の意思の共通が難しく、問題点であると同った。</p> <p>・広島市こども未来局こども家庭支援課担当者ヒアリング</p> <p>プレーパークを NPO へ委託している側としてのヒアリングを行った。広島市でのプレーパークの成り立ちはある程度管理されている場所で、禁止事項のない自由な遊び場のニーズがあり、テストを経て現在では、てらやまプレーパーク、もとまち自遊ひろばが委託されている。</p> <p>資金難が両プレーパークの問題点ではあるが、委託という契約上プレーパーク内での営利活動をして自主採算での運営は難しい。</p> |                                                                                          |        |

| 調査記録・黒木小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                              | 資料 2 - 2 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|----------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 羽根木常設プレーパークの運営に関する調査<br>井の頭公園のかいぼりに関する調査                     |          |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 平成 3 0 年 1 0 月 6 日（土） 9：0 0 ～ 1 6：3 0                        |          |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 羽根木プレーパーク<br>担当者様<br>西部緑地事務所工事課<br><br>担当者様<br>三鷹市役所<br>担当者様 |          |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 羽根木プレーパーク<br><br>井の頭公園<br><br>西部緑地事務所工事課<br><br>三鷹市役所        |          |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 黒木 研一 山田 和利                                                  |          |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                              |          |
| <div>・訪問理由</div> <div>常設プレーパークでの運営、管理、人材育成に関する研究<br/>かいぼり事業の運営、管理、効果、地域住民との関わりに関する研究</div> <div>・西部緑地事務所工事課の担当者ヒアリング</div> <div>2 年ごとに今年で 3 回目のかいぼりを実施している。運営方法は東京都の予算（数千万円）で費用を捻出し<br/>実際の排水作業等はかなりの大掛かりな作業で専門業者が行い、ゴミ拾い、生態調査など継続的な作業は民<br/>間ボランティアも参加して運営している。担当者も水質改善等確かな効果を実感していた。<br/>平成 3 0 年度都内でさらに 1 0 か所がかいぼりが計画、実施されている。</div> <div>・羽根木プレーパークの担当者ヒアリング</div> <div>歴史は長く 1 9 7 9 年から開設し運営方法は形を変えつつ現在は、区が NPO 法人に事業を委託。場と資金は<br/>区が確保し、運営はプレーワーカーと地域住民でもある世話人たちが担う方式。<br/>未就学生、小学生、中学生、高校生と各世代に向けたイベント、世代の枠を超えて助け合いながら過ごす旅<br/>行など多くのイベントが定期的に行われ、年間事業が製本されしっかりレポートされている。<br/>区、運営 NPO,地域住民のしっかりとした連携が感じられた。</div> |                                                              |          |



| 調査記録・黒木小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                          | 資料２－３ |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 浜松市内の公活利用に関する調査<br>浜松市におけるネーミングライツに関する調査                                                 |       |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 平成３０年１０月２５日（木）午後　１：００～２：００<br>平成３０年１０月２５日（木）午後　３：００～４：００                                 |       |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 浜松市都市整備部公園課<br>井村　正志様　奥井　智之様　中村　浩一様<br><br>浜松市役所財務部アセットマネジメント推進課<br>阿部　隼也様　河合　良樹様　下位　基之様 |       |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 南土木整備事務所<br><br>浜松市役所                                                                    |       |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 黒木　研一　山田　和利　川合　貴久　吉間　章悦                                                                  |       |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                          |       |
| <div>・訪問理由</div> <p>浜松市のかいぼり、公園活用に関する研究とネーミングライツの現状把握、今後の展開に関する研究</p> <div>・浜松市都市整備部公園課の担当者ヒアリング</div> <p>現時点ではかいぼりの予定はなく、水質管理、生息動物の管理も特に行ってはいない。<br/>公園整備については、悪くなった所から修復していく。遊具に関しても、車型、ピアノ型といったものを設置することは可能であるが、安全基準をクリアしたものが原則である。<br/>プレーパークに関する問い合わせはいくつかあり、富塚の自治会が佐鳴湖公園北岸でコンテナパレットを使ったイベントを開催している。設置許可を取れば、公園内でも、経済活動は出来るが、公園使用料がかかる。</p> <div>・浜松市役所財務部アセットマネジメント推進課の担当者ヒアリング</div> <p>浜松市もネーミングライツを取り入れているが、浜北三施設と学芸高校前歩道橋のみに採用されている。施設の耐久性や指定管理者制度の兼ね合いもあり、長期の契約は難しい。提案型では、例えば、清掃会社が、公園のトイレに自社名を付けたいとなったとき、トイレ清掃を指定管理から外すという柔軟な対応が出来る。<br/>しかしながら、認知度や費用面で課題も抱えている。</p> |                                                                                          |       |

| 提言視察記録・柳生小委員会                                                               |                                                  | 資料－３－１ |
|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|--------|
| テーマ                                                                         | 広島県の農業の現状に関する調査<br>ものづくりの街である広島市においての農業の位置づけについて |        |
| 日 時                                                                         | 平成３０年９月３日（火）午後２：００～５：００                          |        |
| 調査先                                                                         | （公財）広島市農林水産振興センター 農業担い手育成課 担い手育成係 松本 広樹様         |        |
| 調査場所                                                                        | 広島市農林水産振興センター 施設内                                |        |
| 記録者                                                                         | 柳生 七重 小山 太郎                                      |        |
| 記録                                                                          |                                                  |        |
| ・訪問理由                                                                       |                                                  |        |
| ものづくりの街浜松と同じような産業が盛んである広島市の農業について、県や市として農業の発展のために、どのような取り組みが行われているのか等のヒアリング |                                                  |        |
| ・ヒアリング内容                                                                    |                                                  |        |
| 【振興センターのある意義】                                                               |                                                  |        |
| ・市民に安心安全で新鮮な野菜を届けること                                                        |                                                  |        |
| ・災害対策のための農地の保全                                                              |                                                  |        |
| ・休耕田畑を生かして農業就労人口を増やす                                                        |                                                  |        |
| ・行政が行っているという信頼の構築                                                           |                                                  |        |
| 【運用形態】                                                                      |                                                  |        |
| ・農業従事希望者を育成するための２年のカリキュラムを継続している                                            |                                                  |        |
| ・３名の生徒に対し講師１人がつく                                                            |                                                  |        |
| ・研修後のアフターフォロー実施（ＪＡと行政のパッケージ）                                                |                                                  |        |
| ・他市の育成スタッフを育成している                                                           |                                                  |        |
| 【ＪＡと行政の共同取り組み】                                                              |                                                  |        |
| ・ＪＡが施設（ハウス）を提供、ほ場の土壌改良等を行っている                                               |                                                  |        |
| ・行政としては、土地の借入れ、農業研修、ＪＡの補助金の交付等を行っている                                        |                                                  |        |
| 広島は 県・市・ＪＡの連携が良い                                                            |                                                  |        |
| 【今後の懸念事項】                                                                   |                                                  |        |
| ・就農者を育てるのにかなり予算が必要                                                          |                                                  |        |
| ・コミュニティを構築して、設備等を共有し法人として活動してほしいがなかなか難しい                                    |                                                  |        |
| ・ブランディングもなかなか難しく、６次化も立ち上がるが持続しない                                            |                                                  |        |
| 【女性の活躍】                                                                     |                                                  |        |
| ・コミュニティが作りやすいため、事業が継続しやすい                                                   |                                                  |        |
| ・今後は様々なコラボに期待したい。                                                           |                                                  |        |
| 【今後の目標】                                                                     |                                                  |        |
| ・農家の独立 そのためなら支援はいとわない                                                       |                                                  |        |

| 調査記録・柳生小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                             | 資料－3－2 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|--------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 浜松の農業の現状と今後の課題について                                          |        |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 平成30年10月3日（水）午前10：00～11：30                                  |        |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 浜松市役所産業部 農林水産課 農業政策グループ長 副主幹 前野様<br>浜松市役所産業部 農林水産課 課長補佐 河野様 |        |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 浜松市役所産業部 農林水産課                                              |        |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 柳生 七重 小山 太郎 藤本 昌紀                                           |        |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                             |        |
| ・訪問理由<br>浜松の農業の現状と今後の課題についてのヒアリング                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                             |        |
| ・ヒアリング内容<br>【浜松市農業振興基本計画について】<br>・次年度策定のパブリックコメントが11月～12月頃予定<br>【県などと共同で行っている事業について】<br>・台湾の国際食品見本市「FOOD TAIPEI 2018」を開催し、好評を得ている<br>・「浜松・静岡フェア in 台湾」を静岡市と連携して開催予定<br>・市×市、市×海外などの連携は、継続性としては難しい面がある。<br>・浜松商工会議所などと共同で「はままつプレミアム」のプロジェクトを立ち上げ、地元食材を活かした商品開発をしている。<br>【休耕地・空き家対策について】<br>・農地バンクの制度はあるものの、条件の良い農地は流通しない<br>・マッチングがむずかしい<br>【農業従事者人口減少に対する取り組み】<br>・施策として、農業に対する担い手の育成と確保に関する内容で取り組んでいる<br>・農業経営塾開催事業においては年6回程度20名程度を募って実務家、経営専門家などの講師から農業経営を学ぶ機会を持っているが実現しないのが現状<br>【販売先の増加確保について】<br>・新潟市との連携をして販路相互拡大を目指すなどの動きをしています<br>【市民農園の状況】<br>・市民農園は、各区内に多数存在しているものの、農地提供をする地主の影響が反映されるのでばらつきが生じてしまう。<br>・数も減少している<br>【観光資源による集客・農作物販売アップの期待について】<br>・村松商店、八百徳さんなどで取組み、英語版を作成したり、ショートムービーなども作成され、今度、期待されている。<br>【その他】<br>・とびあ浜松、浜松市、松商工会議所で浜松市農業労働力推進協議会を立ち上げ、労働力確保に動いている。<br>・主婦や退職者などの多様な人材と空き時間の活用を目指して、活性化を図っている。<br>・中学生などへ「農業の良さ」を伝えていくために、コミュニティスクールの活用など、農業に触れる機会をつくっていくことも課題としている。 |                                                             |        |

| 調査記録・柳生小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                         | 資料－3－3 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 浜松の農業の現状と今後の課題について                      |        |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 平成30年10月5日（金）午前10：30～12：00              |        |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | JAとぴあ浜松 営農生産部営農指導課 課長 佐藤様，係長 栗田様，係長 牧野様 |        |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | JAとぴあ浜松 本店                              |        |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 柳生 七重 小山 太郎 藤本 昌紀                       |        |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                         |        |
| ・訪問理由<br>浜松の農業の現状と今後の課題についてのヒアリング                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                         |        |
| ・ヒアリング内容<br>【活動内容】<br>・労働力を確保するために様々な努力をしている<br>・浜松市と浜松商工会議所と共に農業労働力確保戦略センターを設置している<br>・農産物の6次化を目指している<br>【直面する問題】<br>・営農者の減少が明らかである（高齢化・後継者問題等）<br>・専業農家の減少<br>【対策】<br>・農業就労人口の増加活動に力を入れている 「農業やるに！みのりプロジェクト」<br>・「農業労働力確保推進協議会」を立ち上げ2年目。ターゲットは定年退職者<br>・農業労働力確保戦略センターで農家と労働者のマッチングを行っている<br>【主な活動】<br>・上記に加え、子育て世代へのアピール<br>・アグリ体験事業（小学生が主な対象）<br>・園芸教室（人気の事業）<br>【今後の課題】<br>・とにかく就農者を増やしたい<br>・労働力を確保したい<br>・機械化だけでは対応できない<br>・情報をうまく伝えていかねばならない<br>・他市との連携や情報交換をしていきたい |                                         |        |

|                                                                                                                         |                            |        |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|--------|--|
| 調査記録・柳生小委員会                                                                                                             |                            | 資料－3－4 |  |
| テーマ                                                                                                                     | 浜松の農業の現状と取組みについて           |        |  |
| 日 時                                                                                                                     | 平成30年10月2日（火）午前10：00～12：00 |        |  |
| 調査先                                                                                                                     | プロダクトリング（株） 玉置様            |        |  |
| 調査場所                                                                                                                    | はままつトライアルオフィス              |        |  |
| 記録者                                                                                                                     | 柳生 七重 藤原 真紀子               |        |  |
| 記録                                                                                                                      |                            |        |  |
| ・訪問理由                                                                                                                   |                            |        |  |
| 浜松の農業の現状と取り組んでいることについてのヒアリング                                                                                            |                            |        |  |
| ・ヒアリング内容                                                                                                                |                            |        |  |
| 【活動内容】                                                                                                                  |                            |        |  |
| ・農業を通じて人と人との繋がりを築き、ホンモノの価値とご縁を社会に提供することで、地域社会の発展と豊かさに貢献する。ということを理念に掲げ、食を通して Productor（生産者）さんの想いのつまったもの、そして地域を繋げ、発信している。 |                            |        |  |
| 【現状について】                                                                                                                |                            |        |  |
| ・生産者のメインは夫で妻は手伝う程度、他で働いている場合が多い。                                                                                        |                            |        |  |
| ・妻が野菜ソムリエと一緒に働いている生産者さんもいる。                                                                                             |                            |        |  |
| ・若い人が少ない。                                                                                                               |                            |        |  |
| ・売り手（生産者）は男性だが、買い手（消費者）は女性のため、バランスが難しい。                                                                                 |                            |        |  |
| ・浜松は生産者数1位で農業種類が多いため、かえてブランディングが難しい。                                                                                    |                            |        |  |
| ・生産者のまとめ役がいない。                                                                                                          |                            |        |  |
| ・生産者の中でリーダーを作るのは難しいと思う。市がリーダーとなってまとめて欲しい。                                                                               |                            |        |  |
| 【対策】                                                                                                                    |                            |        |  |
| ・多様性をメリットとして伝える。選択ができるということになる。                                                                                         |                            |        |  |
| ・ターゲットを作る → 子供                                                                                                          |                            |        |  |
| ・お金を生む仕組みを作る → 農業、食のテーマパークの様なイメージ                                                                                       |                            |        |  |
| ・県外から人を呼び寄せる。                                                                                                           |                            |        |  |
| 【インターネット販売等について】                                                                                                        |                            |        |  |
| ・インターネット販売は可能か？ → 可能である。                                                                                                |                            |        |  |
| ・今後取組をする予定である。                                                                                                          |                            |        |  |
| 市からの委託 → 買い手 → 売り手を探す<br>病院等                                                                                            |                            |        |  |
| 病院は地元で採れた野菜を使い食事を提供しているというアピールになる。地産地消                                                                                  |                            |        |  |
| 最近大手が参入して来ている                                                                                                           |                            |        |  |
| 【農業組合に求めること、協力してもらいたいことはありますか】                                                                                          |                            |        |  |
| ・静岡県のことを知ってもらいたい。                                                                                                       |                            |        |  |
| ・全国のネットワークを使い発信して欲しい。                                                                                                   |                            |        |  |
| ・個人では限界があるので積極的に協力してほしい。                                                                                                |                            |        |  |
| 【まとめ】                                                                                                                   |                            |        |  |
| 個々の農家さんは能力もあり良いものを生産しているが、まとまりがない。生産者であり、経営者であることはなかなか難しい為、第三者のまとめ役、協賛社が欲しい。                                            |                            |        |  |
| 浜松の農業の多様性は選択できるというメリットとなる。                                                                                              |                            |        |  |
| 農家さんや地域の誇れるものを周知する仕組みを作っていきたい。                                                                                          |                            |        |  |

| 調査記録・柳生小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                            | 資料-3-5 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|--------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 浜松の農業の現状とやりがいについて          |        |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 平成30年10月11日（木）午後2：00～4：30  |        |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | サラダセルリ美香園 水野様 ・ セルリ農家 西久保様 |        |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 浜松市東区豊西町 ビニールハウス（作業場）      |        |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 柳生 七重 富田 悠                 |        |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                            |        |
| <p>・訪問理由</p> <p>浜松の農業の現状とやりがいについてのヒアリング</p> <p>水野様</p> <p>・ヒアリング内容</p> <p>【農業を仕事にした理由】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・父親がサラリーマンを辞めて苦労してセルリ農家をやっているのをみて、継ぐつもりはなかったが、自分もサラリーマンをやりながら、これでいいのかと思い始め、もったいないから想いを引き継ぎたいと思ったので。</li></ul> <p>【やりがいは？】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・サラリーマンよりもやりがいも自由もあり、ゆとりが持てる。リスクはあるかもしれないがストレスはない。</li><li>・不安は自分の代はないと思っているが、次世代に継がせるためには自分が頑張らないと。</li><li>・年齢制限はない 健康的</li></ul> <p>【100年後に残すには？】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・災害に対策をしながら、設備を更新して、次世代にしっかりした体制を残していきたい</li></ul> <p>【これからやるべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・農業が大変であるというイメージを払いのけるべき</li><li>・常に新しいものを作っていく努力</li><li>・新たな販売ルートは必要</li><li>・コミュニティの場をつくっていききたい（機会がないので）</li></ul> <p>今後、深刻な野菜不足が見えている中で、必死になって農業の魅力を伝えていくべきだと思っている。それにはできる限り協力をするつもり。</p> <p>西久保様</p> <p>・ヒアリング内容</p> <p>【農業を仕事にした理由】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・東京でサラリーマンをしていたが、新規就農者の募集があって応募した。知らない土地浜松で始めたのは静岡の制度の条件が良かったから。タイミングよく西部で募集があった。</li><li>自分と同じような人を受け入れてほしい。</li></ul> <p>【やりがいは？】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・仕事として農業をやってみたかった、本当にやってみて良かった。自分で結果を出せることがやりがいとなる</li><li>・苦労と感じたことはない。</li></ul> <p>【100年後に残すには？】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大きい市場に近い浜松は恵まれた立地条件である、この地を最大限に生かすべき</li><li>・農地があるうちに新規就農者を育てるべき⇒使える農地を残すべき</li></ul> <p>【これからやるべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本一という意識もつ</li><li>・作業をマニュアル化し機械化する</li><li>・経営が成り立たず、辞めていく農家を経営的に成り立つように事前調査をしパッケージ化して斡旋</li><li>・机上でうまくいく、天候に左右されないプロの仕事としてサポートする</li></ul> |                            |        |



| 調査記録・伊藤小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                | 資料 4 - 1 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 日本の事業承継の政策の現状と課題                               |          |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 平成 30 年 8 月 2 4 日（金）、9 月 2 0 日（木）、12 月 17 日(月) |          |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 浜松商工会議所                                        |          |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 浜松商工会議所                                        |          |
| 記録者・参加者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 記録者 伊藤祐尚・参加者 鈴木基信、浅倉直樹、高橋修、山田哲司、伊藤祐尚           |          |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                |          |
| <p>・訪問理由</p> <p>浜松の事業承継の現状を統計的に把握して、対策、方針の考察・検討</p> <p>・トピック</p> <p>・浜松商工会議所は、平成 29 年 4 月から 6 月末の期間で、浜松商工会議所会員及び特定商工業者にダイレクトメールを送付した上で調査を行った。回答数は 4 3 6 9 社であった。その結果を平成 29 年 10 月に「事業承継実態調査に関する報告書」にまとめている。主な調査結果として、経営者が 6 0 歳以上の場合 2 0. 2 %が廃業予定、6 0 歳以上の経営者のうち 6 6. 3 %が後継者未定等の結果が出ている。</p> <p>・浜松商工会議所において 2018 年 11 月 12 日に近畿経済産業局「Next Innovation」プロジェクトリーダーの山野千枝様をお招きしての事業承継のセミナーをして頂く際の参考とするアンケート調査の作成について、同じく事業承継をテーマとする伊藤小委員会においても一緒に質問を考察・提案させて頂き、また提言資料として参考にさせて頂くことの了解をして下さりました。また、提言委員会の新たな試みとして Newing にアンケートを掲載させて頂ければとの提案をさせて頂き 2018 年 11 月号に掲載がなされアンケートを実施させて頂きました。</p> <p>・2018 年 11 月 12 日の山野千枝先生のセミナーの後、鈴木仁副会長、鈴木基信委員長、伊藤副委員長にて直接山野先生のご意見を伺う機会を設けて頂きました。</p> |                                                |          |

| 調査記録・伊藤小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                             | 資料 4 - 2 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 日本の事業承継の政策の現状と課題                                                                                            |          |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 平成 30 年 10 月 11 日（木）14：00～16：00                                                                             |          |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 経済産業省 中小企業庁中小企業政策統括調査官芳野恭司様、経営支援部総規模振興課課長補佐（統括）齊藤智哉様、事業環境部財務課課長補佐（事業承継担当）上野正樹様、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局企画官渡邊宏和様 |          |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 経済産業省中小企業庁                                                                                                  |          |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 伊藤祐尚                                                                                                        |          |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                             |          |
| <p>・訪問理由</p> <p>日本の国の政策である事業承継政策の現状、課題の把握</p> <p>・トピック</p> <p>・切れ目ない事業承継の支援策として後継者が決まっている企業には税制措置による円滑な承継、後継者が決まっていない企業には気づきの機会提供、マッチング支援等により後継者探しの支援、承継後には事業承継補助金制度がある。又、親族外承継時の資金ニーズの対応として経営承継円滑化法改正の説明がなされた。</p> <p>・内閣官房ビックデータチームは、地域経済分析システム（RESAS）（リーサス）を作成。これは、地域創生のデータ利用の「入口」として地域経済に関する官民の様々なデータ（人口、人の流れ、産業構造等）をグラフ等で分かりやすく「見える化」するもので、各地域がデータに基づき自らの強み・弱みや課題を分析し解決策を検討することを後押しする。勘や経験や思い込みではなく、データに基づく政策立案を行う。「RESAS」は各自治体にも交付され、活用を促進している。浜松においても是非活用を求めたい。</p> |                                                                                                             |          |

| 調査記録・伊藤小委員会                                                                                                                                                                      |                                      | 資料4－3 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------|
| テーマ                                                                                                                                                                              | 日本経済界における事業承継の現状と課題                  |       |
| 日 時                                                                                                                                                                              | 平成 30 年 10 月 11 日（木）16 時～17 時        |       |
| 調査先                                                                                                                                                                              | 日本商工会議所中小企業振興部 主任調査役鎌田藤胤様、大内啓佑様、林共香様 |       |
| 調査場所                                                                                                                                                                             | 日本商工会議所                              |       |
| 記録者                                                                                                                                                                              | 伊藤祐尚                                 |       |
| 記録                                                                                                                                                                               |                                      |       |
| ・訪問理由                                                                                                                                                                            |                                      |       |
| 経済三団体の一つである日本商工会議所の事業承継に対する施策及び全国の商工会議所の事業承継への取り組み状況を把握、調査すること                                                                                                                   |                                      |       |
| ・トピック                                                                                                                                                                            |                                      |       |
| ・日本商工会議所の中小企業・小規模事業者の事業承継支援の概要として、①事業承継の気付きを促し、②事業承継税制の抜本拡充等施策を周知し、③経営者からの個別相談窓口と専門家への仲介等を行っている。取り組みとして①事業承継の実態把握(全国アンケート調査)、②事業承継税制・施策の充実に向けた国への意見・要望、③国の新規施策の地方への周知活用対策を行っている。 |                                      |       |
| ・【各地の商工会議所の実例紹介】①事業承継の支援に向けて川崎商工会議所が中核となって川崎市、川崎市産業振興財団、川崎信用金庫と連携し2017年12月に「中小企業者の事業承継支援に関する協定」を締結した。「オール川崎」の事業承継支援を行っている。                                                       |                                      |       |
| ②また、長野県の上田・佐久・小諸の3つの商工会議所は2017年3月「東信ビジネスリレーセンター」を創立して「小規模事業者の事業引継」を支援。経営支援データを連携して相互閲覧を可能としている。                                                                                  |                                      |       |
| ③兵庫県尼崎市は、西日本で初めて尼崎商工会議所、協同組合尼崎工業会、日本政策金融公庫尼崎支店、尼崎信用金庫が2018年4月27日、尼崎市内における事業承継支援に関する連携協定を締結した。                                                                                    |                                      |       |

|                                                                                     |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--|



| 調査記録・伊藤小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                  | 資料 4－4 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|--------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 事業承継に関する浜松市の取り組みの現状・課題           |        |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 平成 30 年 8 月 2 日（火） 4 時 30 分～17 時 |        |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 浜松市役所 産業部産業振興課 産業部次長村上広幸様        |        |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 浜松市役所                            |        |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 伊藤祐尚                             |        |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                  |        |
| <p>・訪問理由</p> <p>喫緊の課題である事業承継について浜松市の取り組みの現状の調査のために訪問をした。</p> <p>・トピック</p> <p>・実際に事業承継における企業のマッチングを行うのは、主に金融機関であり、浜松市自体がマッチング、引継ぎを行う訳ではない。その他税理士、商工会議所の相談員が事業承継の需要の掘り起こしをしているのが現状。また、国が設置した事業引継ぎ支援センターは県に一つしかないため、浜松市ではない。</p> <p>・浜松市としても、事業承継の相談窓口としてはままつ起業家カフェ（浜松商工会議所会館 1 階）を設置、案内し、広報活動も行っている。実際、広報はままつ 2018 年 6 月号に事業承継の広報を行った。</p> <p>しかし、事業承継の相談件数は少なく、伸びなかった。</p> |                                  |        |

| 調査記録・伊藤小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                    | 資料4－5 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|-------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 大学生の後継人材の育成について                    |       |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 平成30年9月18日(火)、10月3日(水)、10月18日(木)   |       |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 静岡大学情報学部 田中宏和教授、学生、院生              |       |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 静岡大学浜松キャンパス                        |       |
| 記録者・参加者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 記録者伊藤祐尚・参加者浅倉直樹、松井小織、兼子謙一、高橋修、伊藤祐尚 |       |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                    |       |
| <p>・訪問理由<br/>大学生の人材育成について大学生の視点で課題、対策を考察するため</p> <p>・トピック</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中小企業の IT 化、中小企業の企業変革、組織の活性化と知識創造をテーマに研究を行っている静岡大学情報学部田中宏和教授、同僚3名の教授、学生、大学院生と意見交換会を行った。そして、以下の意見が挙がった。</li><li>・浜松の大学に進学しても、浜松の企業のことを十分に知らない、知る機会がないから、進路選択として浜松の企業に就職しようと思わない。</li><li>・インターンシップはあるが、表面的・短期的で実学や経営に深く関わることができない。より長期的、深く学びたい。</li><li>・興味のないアルバイトよりも、実際に自分の専門の分野でアルバイトをして学びたい。</li><li>・企業から実際に学びたいが、大学卒業には単位も得る必要がある。なので、実学、経営を学んで、それが大学の単位につながるという。</li><li>・後継ぎや起業の同じ志を持つ大学生同士でもネットワークで情報を得て、学びたい。</li><li>・起業に興味があるがリスクを採りたくない、失敗が怖いから東京の名前の知っている企業に就職する。</li><li>・そもそも大学と産業界には壁がある。大学側も、もっと地元経済界と関わり地域経済のために人材育成を図りたいが、地元企業との関わりも教授等の個人的な人脈だよりでしかない。組織的・継続的に経済界と関わるシステムが必要である。</li><li>・単年度で経営者が大学で授業を行っても、単発で終わる場合もあり、継続的にカリキュラムを持続ができない。</li><li>・大学と社会、教員と産業人、業界同士、大学生と社会人、それぞれに壁がある。</li></ul> |                                    |       |
| <div></div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                    |       |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                 |        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------|
| 調査記録・伊藤小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                 | 資料 4－6 |
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 福岡市における産官学の連携のための協定の調査                                          |        |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 平成 31 年 2 月 14 日（火）16 時から 17 時                                  |        |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 福岡市役所経済観光文化局創業・大学連携課大学連携係長大塚信也様、同課大羽雅人、福岡大学地域連携コーディネーター・助教山田雄三様 |        |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 福岡市役所                                                           |        |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 伊藤祐尚                                                            |        |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                 |        |
| <p>・訪問理由</p> <p>大学生の人材育成に先進的な福岡市において、産学官連携して人材の育成の協定を締結した背景、今後の具体的方針・取り組みについて学ぶ</p> <p>・トピック</p> <p>・福岡大学では、ここ 10 年人材育成を地域と連携して行ってきた。大学の強みは学生を沢山持っていることにあり、学生が卒業した後の進路について大学がキーとなっている。しかし、1 つの大学だけで地元で学生を定着できる段階ではない。今まで、他大学、行政、産業界とのつながりが薄く、分断されているきらいもあった。すなわち、従来のように単独の大学が自前の資源で大学振興や地域の活性化に取り組む段階から、特定の地域圏域内の複数大学と地方自治体、産業界がチームを形成し、互いに資源を共有しながら、地域全体の活性化と大学振興に取り組んでいく新しい段階へと移行してきている。今後ますます複雑化・多様化する社会に対して、もはや単独の組織やセクターだけで対応することは困難であり、地域の複数の組織・セクターが人材やノウハウ等を持ち寄りながら地域の実情に即した柔軟な仕組みをつくっていくことが求められる。</p> <p>・行政の福岡市、大学の九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡歯科大学、福岡大学、経済界の福岡商工会議所、福岡中小企業経営者協会が、当初から参画して 2018 年 9 月に協定を締結し、福岡都市圏の大学・自治体・産業界の垣根を越えた交流の促進等の課題に取り組む。具体的には、</p> <p>課題① 多様な地域からの学生集積（取組）学生募集・PR 事業の共同実施。</p> <p>課題② 福岡の未来を担う人材の育成（取組 1）単位互換制度や正課外教育等を活用した学生教育プログラムの充実。（取組 2）地域活動等に取り組む大学生のネットワークの構築。福岡市及びその周辺地域でまちづくりや起業・創業等に取り組む学生間のネットワーク形成を支援し、個々の大学の垣根を越えて刺激を与え合い、切磋琢磨できる環境づくりを進める。</p> <p>課題③ 若者の地元就職・定着（取組 1）地元就職・定着に資する事業の共同実施（取組 2）地域企業インターンシップ等の共同実施（取組 3）起業・創業人材の育成支援及び環境整備</p> <p>課題④ 多様な人びとの学びと活躍の機会の提供（取組 1）生涯学習・リカレント教育プログラムの充実プラットフォーム参画大学・自治体・産業界等の協議のもと、地域の実情に即し、地域の発展を支える質の高い生涯学習・リカレント教育プログラムの開発・実施を共同で進める。（取組 2）小中高の学校教育支援の推進（プラットフォーム参画大学・自治体・福岡市内の学校等との連携協力のもと、社会や地域のニーズに対応した学校教育支援事業の企画・実施を共同で進める。）課題⑤ 福岡都市圏の大学・自治体・産業界の垣根を越えた交流の促進（取組 1）共同 F D ・ S D や知的・人的交流の推進プラットフォーム及び福岡都市圏の大学・自治体・産業界等との共同による F D ・ S D の実施や人的交流を積極的に推進する（取組 2）地域の発展や課題解決に資する共同事業の推進（福岡都市圏の自治体・企業・公民館・学校教育機関等との連携協力のもと地域の発展や課題解決に資する共同の教育・研究・社会貢献事業の企画・実施を進める。）</p> |                                                                 |        |

| 提言視察記録・伊藤小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                     | 資料4－7 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | ベンチャー型事業承継                                                                                          |       |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 平成30年9月3日（月）15時15分から17時15分                                                                          |       |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 経済産業省近畿経済産業局「Next Innovation」事務局プロジェクトリーダー、大阪イノベーションハブチーフプロデューサー、関西学院大学講師・関西大学講師、(株)千年治商店代表取締役山野千枝様 |       |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 大阪産業創造館・大阪イノベーションハブ                                                                                 |       |
| 記録者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 伊藤祐尚                                                                                                |       |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                     |       |
| <p>・訪問理由</p> <p>経営者の子弟を対象として「ガチンコ後継者ゼミ」を行って実際に事業承継の後継者問題に取り組んでいる山野先生から事業承継のための人材育成を学ぶ</p> <p>・トピック</p> <p>第1 山野様が提唱する「ベンチャー型事業承継」とは、若手後継者が家業の持つ有形無形の経営資源を最大限に活用して、リスクや障壁に果敢に立ち向かいながら、新規事業、業態転換、新市場参入など新たな領域に挑戦することで永続的な経営をめざし社会に新たな価値を生み出すことをいう。</p> <p>第2 後継者問題は事業承継に含まれるはずであるものの、事業承継は、資産の承継、承継手続面、税制に政策の焦点が当てられ、後継者不在の状況に対する政策に乏しい。また、税金投入して創業支援をしても東京に行ってしまう。大阪ですら東京に行ってしまう。他方、跡継ぎの人は家族、社員、仕入れ先等の関係でその地域を動くことができず、その地域で頑張るしかない。その後継ぎの挑戦を応援する。イノベーションはIT（情報技術）スタートアップ企業の専売特許と思われがちだが、成熟産業であってもアイデア次第で革新的な商品・サービスを生みだせる。</p> <p>第3 山野様が講師として関西大学にて行う「ガチンコ後継者ゼミ」について</p> <p>経営者の後継者である子弟を対象として上半期2単位のゼミで全15回のカリキュラムである。山野様が講師を務め、先代から受け継いだ経営資源に自分で探してきた何かを掛け算し新しい価値を社会に生み出す「ベンチャー型事業承継」を実践しているアトツギベンチャー社長を講師として招き経験談を語ってもらう。会社の社長によるケーススタディや、学生と講師が車座になってディスカッションを行う。また、ゼミでは、学生は自らの家の家業の歴史、強みを調査して発表も行う。その発表のための調査の際、学生自身が家業の歴史を経営者の親に尋ねることで親子間のコミュニケーションを図ることができ、経営者である親も後継者の子弟にいい状態で会社を渡すことができるように頑張り良好な相関関係が生まれる。山野様が従前、アントレプレナー教育の教授と知り合いであったため、1コマをもらって後継者教育の講義を行っていた。それがメディアに取り上げられ、関西大学に講座の企画を持ち込み、本ゼミが始まった。なお、関西大学はもともと経営者の子弟の在学が多い大学である。山野様は、ガチンコ後継者ゼミにおいて、「家業が生み出した利益」のおかげで大きくなったこと、親と同じことをするのが事業承継ではないこと、負の資源もあるけどすでに経営資源があるなんてものすごいアドバンテージであること、経営者になるのは相当な覚悟が必要であること、やりたいことを「親の会社の資源を利用して実現するなら？」と考えてみること、親の会社に入るまでは家業に関係なくやりたい仕事をして頑張って力をつけること、決断は突然迫られしかも自分の事情は関係ないタイミングであることで等をゼミで学生に伝えている。なお、関西大学は上記ゼミを2019年度から大阪府下の他大学の学生を受け入れる方針であり、学生が卒業に必要な単位を他大学の講義で取得できる「単位互換制度」を活用する。</p> |                                                                                                     |       |

| 調査記録・伊藤小委員会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                         | 資料4－8 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-------|
| テーマ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 地域における高校生の人材育成                          |       |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 平成30年11月14日（火）16時から17時30分               |       |
| 調査先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 文部科学省初等中等教育局 参事官(高等学校担当)付産業教育振興室長 高見太也様 |       |
| 調査場所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 文部科学省                                   |       |
| 記録者・参加者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 記録者伊藤祐尚・参加者鈴木基信、高橋修、伊藤祐尚                |       |
| 記録                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                         |       |
| <p>・訪問理由</p> <p>地域における高校生の人材育成について国の政策を調査するため</p> <p>・トピック</p> <p>「まち・ひと・しごと創生基本方針2018」（2018年6月15日閣議決定）</p> <p>「高等教育は、地域人材の育成において極めて重要な役割を担うとともに、高等学校段階で地域の産業や文化への理解を深めることは、その後の地元定着やUターン等にも資する。」「このため、<b>高等学校が、地元市町村・企業と連携しながら</b>、高校生に地域課題の解決等を通じた探求的な学びを提供するカリキュラムの構築等を行う取り組みを推進する」とされている</p> <p>・文部科学省は2018年8月1日、各地の公立高校を核に地域を支えていく人材を育成するモデル事業を2019年度から始める方針を決定しました。</p> <p>これは、地元自治体や企業などと緊密に連携した推進体制づくりを促し、地域振興に関する実践的な授業を展開し、進学や就職時の地元離れを食い止め「高校発の地方創生」と位置づけです。通常の教科に加えて特別な授業を実施し、<b>自治体・企業やNPO法人・大学が協力</b>をするものである。</p> <p>・<u>Society 5.0における学びの在り方、求められる人材像について</u></p> <p>共通して求められる力：文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力。</p> <p>新たな社会を牽引する人材：技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材、技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材、様々な分野においてAIやデータの力を最大限活用し展開できる人材等</p> <p>・<u>技術の発達を背景として、Society 5.0における学校</u></p> <p>一斉一律の授業スタイルの限界から抜け出し、読解力等の基盤的学力を確実に習得させつつ、個人の進度や能力、関心に応じた学びの場となることが可能となる。また、同一学年での学習に加えて、学習履歴や学習到達度、学習課題に応じた異年齢・異学年集団での協働学習も広がっていくことができる。さらに、学校の教室での学習のみならず、大学、研究機関、企業、NPO、教育文化スポーツ施設、農山村の豊かな自然環境などの地域の様々な教育資源や社会関係資本を活用して、いつでも、どこでも学ぶことができるようになると予想される。</p> <p>・今後取り組むべき教育政策の方向性について(高等学校時代)：学校だけで教師だけが一方的に教えるような教育活動が転換され、多様な選択肢の中で、自分自身の答えを生徒が自ら見いだすことができるような学習が中心となる場へととなっていかなければならない。生徒一人一人の興味や関心に沿って、学校だけにとどまらず、地域社会、企業、NPO、高等教育機関といった多様な学びの場を活用し、異なる年齢や背景を持つ相手とコミュニケーションしながら「社会に開かれた教育課程」による学びを進めていく。</p> <p>こうした学びを通じて、教科の力はもちろん、異なる考えを持つ人に対して素直な眼差まなざしをもち、Society 5.0において必要とされる資質・能力を、すべての生徒が身に付けることができるようにすることが求められている。</p> |                                         |       |



| 調査記録 |                                    | 資料 5 - 1 |
|------|------------------------------------|----------|
| テーマ  | 浜松市内で「学んでいる」「働いている」皆さまの意識に関するアンケート |          |
| 実施日  | 平成 30 年 10 月～11 月                  |          |
| 調査協力 | 浜松市内社会人 110 名                      |          |
| 調査方式 | 無記名、選択式、コメント記載<br>Google フォームを利用   |          |

**Q1. 該当する業種を回答下さい（複数回答可）。**

**Q2. あなたの「浜松の産業」に対する知識を教えてください。**

- ・浜松は軽自動車が生産の地である  
知っている：50.7% 知らない：49.3%
- ・浜松は日本初の国産ピアノが製作された地である  
知っている：81.8% 知らない：18.2%
- ・浜松は日本のテレビ技術発祥の地である  
知っている：71.8% 知らない：28.2%
- ・浜松は日本初の写真フィルムが生産した地である  
知っている：14.5% 知らない：85.5%
- ・浜松はF1のホイールを製造している地である  
知っている：45.5% 知らない：54.5%
- ・浜松は日本初の鍵盤ハーモニカが製作された地である  
知っている：50.9% 知らない：49.1%
- ・浜松は金平糖の製造機械が生産した地である  
知っている：6.4% 知らない：93.6%
- ・浜松は米の消費量が新潟市より多い  
知っている：8.2% 知らない：91.8%
- ・浜松はみかんの生産量が和歌山市より多い  
知っている：44.5% 知らない：55.5%
- ・浜松は浴衣の取扱量が京都市より多い  
知っている：19.1% 知らない：80.9%

**Q3. あなたの「浜松の農業や公園」に対するイメージを教えてください。**

- ・浜松は農業が盛んだと思いますか  
はい：68% いいえ：32%
- ・農業を仕事としてやってみたいと思いますか  
はい：31% いいえ：69%
- ・農業はカッコいいと思いますか  
はい：68% いいえ：32%

- ・農業は利益が出やすいと思いますか  
はい：31% いいえ：69%
- ・家庭菜園を含め、農作物を自分で育ててみたいですか  
はい：69% いいえ：31%
- ・地元の農産物と他地域の農産物、どちらを選んでいきますか  
地元産：45% 値段による：54%
- ・浜松でネーミングライツが導入されたことはご存知ですか  
はい：14% いいえ：86%
- ・プレーパークという施設をご存知ですか  
はい：9% いいえ：91%
- ・公園での体験型ワークショップに参加したことがありますか  
はい：10% いいえ：90%
- ・公園の池に何が住んでいるか知りたいですか  
はい：50% いいえ：50%

**Q5. あなたの「浜松に関連する様々な意見」を教えてください。**

**①浜松はどんなイメージの街ですか**

- ・工業、製造業の街
- ・音楽の街
- ・産業の街
- ・適度に田舎
- ・ものづくりの街
- ・住みやすい

**②「ものづくりのまち浜松」と言われていますが実感はありますか。**

**【ある】**

- ・製造業に勤めている人が多いから
- ・世界シェアが高い企業が多いから
- ・自身がものづくりの会社で働いているから
- ・浜松で生まれた企業や製品が多いから
- ・他県からの単身者が多いから

【ない】

- ・ものづくりではなく、ただの工業都市
- ・実感はないがその土壌はあると思う
- ・作っているものを知らないから
- ・海外への移管が増え薄れてきている印象
- ・そうだったかもしれないが下降線だと思う

③浜松で就職したいですか。

はい：62% いいえ：18% 他：20%

④「浜松について学ぶ」ことについて、より多くカリキュラムに加えるべきだと思いますか。よろしければ理由も教えてください。

【思う】

- ・浜松を好きになってもらい、定住してもらうため
- ・自分の街、他の街 それぞれの魅力を理解した上で自分がどうしたいか考えるべき
- ・自然発生的に知ることはないから
- ・自分の住む町の魅力はしっかりと理解してほしいから
- ・地元を知らない人があまりにも多いため

【思わない】

- ・学校は学力をしっかりと学ばせれば良い
- ・浜松ばかりでは偏見になるから
- ・他の都市に出てから浜松の良さに気づくので
- ・自分が現状必要としていないから
- ・他に学ぶべきことが多いから

⑤「就業体験やインターンシップ」の他、浜松の企業が授業をするとしたらどのような授業をしてもらいたいですか。なぜそう思いますか。

- ・浜松で働く人との座談会（「未来授業」のイメージ）
- ・ものづくり企業へ訪問型の課外体験授業
- ・地域のものづくりの継承と地元愛の為
- ・「働くことは当たり前」という意識を植え付ける授業。
- ・世界に向けて販売している企業など、分かりやすく誇りを持てる事を紹介

⑥「浜松の産業やものづくりを学べる場所」があったとしたら、どのような企業や展示があると行きたくなりますか。

【企業】

- ・農水産業
- ・ベンチャー企業、光産業
- ・オンリーワンやナンバーワン技術をもつ中小企業

- ・伝統工芸
- ・下請け企業

【展示】

- ・体験できて、触れて、実感できる展示
- ・未来を創造するような展示
- ・最先端の流行や技術
- ・浜松の魅力がわかるもの、自慢できるもの
- ・各企業展示が常時一堂に会する展示施設

⑦「浜松の素晴らしさを継続的に学ばせる」ためには、どのような方法がかんがえられますか。

- ・スタンプラリー、マイスター制度（浜松で守りたい産業・商品は、浜松市がマイスターに仕事あっせんする）
- ・地元の魅力を伝えることのできるツアーなどを継続し実施する。都市圏からのターゲットと、地元の未就職者に体験をしてもらう
- ・ものづくりを体験できる機会を多くする。
- ・「まちゼミ」みたいに講師から気軽に知識や情報を学べる制度を市民レベルや企業を巻き込んでやること
- ・子供のうちから浜松の技術に触れさせる

⑧「浜松の名産品」と聞いて、何が思い浮かびますか

- ・うなぎパイ
- ・うなぎ
- ・ピアノ
- ・みかん
- ・楽器

| 調査記録 |                                    | 資料 5-2 |
|------|------------------------------------|--------|
| テーマ  | 浜松市内で「学んでいる」「働いている」皆さまの意識に関するアンケート |        |
| 実施日  | 平成30年10月～11月                       |        |
| 調査協力 | 浜松市内高校生100名、専門学校生50名               |        |
| 調査方式 | 無記名、選択式、コメント記載<br>アンケート用紙を配布       |        |

**Q1. 該当する業種を回答下さい（複数回答可）。**

**Q2. あなたの「浜松の産業」に対する知識を教えてください。**

- ・浜松は軽自動車が生産の地である  
知っている：46.0% 知らない：54.0%
- ・浜松は日本初の国産ピアノが製作された地である  
知っている：81.3% 知らない：18.7%
- ・浜松は日本のテレビ技術発祥の地である  
知っている：67.3% 知らない：32.7%
- ・浜松は日本初の写真フィルムが生産した地である  
知っている：6.7% 知らない：93.3%
- ・浜松はF1のホイールを製造している地である  
知っている：16.0% 知らない：84.0%
- ・浜松は日本初の鍵盤ハーモニカが製作された地である  
知っている：69.3% 知らない：30.7%
- ・浜松は金平糖の製造機械が生産した地である  
知っている：4.7% 知らない：95.3%
- ・浜松は米の消費量が新潟市より多い  
知っている：8.0% 知らない：92.0%
- ・浜松はみかんの生産量が和歌山市より多い  
知っている：46.0% 知らない：54.0%
- ・浜松は浴衣の取扱量が京都市より多い  
知っている：5.3% 知らない：94.7%

**Q3. あなたの「浜松の農業や公園」に対するイメージを教えてください。**

- ・浜松は農業が盛んだと思いますか  
はい：36% いいえ：64%
- ・農業を仕事としてやってみたいと思いますか  
はい：13% いいえ：87%
- ・農業はカッコいいと思いますか  
はい：47% いいえ：53%
- ・農業は利益が出やすいと思いますか

はい：18% いいえ：82%

- ・家庭菜園を含め、農作物を自分で育ててみたいですか

はい：47% いいえ：53%

- ・地元の農産物と他地域の農産物、どちらを選んでいきますか

地元産：57% 他地域：43%

- ・浜松でネーミングライツが導入されたことはご存知ですか

はい：2% いいえ：98%

- ・プレーパークという施設をご存知ですか

はい：3% いいえ：97%

- ・公園での体験型ワークショップに参加したことがありますか

はい：9% いいえ：91%

- ・公園の池に何が住んでいるか知りたいですか

はい：29% いいえ：71%

**Q4. あなたが就職する際の「志望動機」について重視するものを教えてください。（複数回答可）**

- ・勤務先が都会 4.8%
- ・通勤時間が短い 23.2%
- ・給料が多い 65.8%
- ・勤務時間・休暇の条件 81.3%
- ・有名企業 8.5%
- ・希望業種・職種 60.9%
- ・学校で学んだ内容を生かせる 13.4%
- ・商品・サービスが好き 13.4%
- ・海外展開をしている 6.1%
- ・世界的技術がある 6.1%
- ・伝統技術をもっている 3.7%
- ・最先端技術に挑戦している 3.7%
- ・家族や知人が勧める 2.4%
- ・家業・親の経営する会社 3.7%
- ・浜松の企業 8.5%

Q5. あなたの「浜松に関連する様々な意見」を教えてください。

①浜松はどんなイメージの街ですか。

- ・音楽の街
- ・小さな都会
- ・都会でも田舎でもない
- ・田舎
- ・ピアノ

②「ものづくりのまち浜松」と言われていますが実感はありますか。

【ある】

- ・自動車製造や楽器生産の大手企業があるから
- ・工場が多いから
- ・他の都市よりは工業が栄えていると思う
- ・浜松で生まれた企業や製品の話を耳にするので
- ・授業で調べたから、習ったから

【ない】

- ・全く実感がない
- ・興味がない
- ・浜松が特別だとは思えない
- ・農業の方が盛んだと思う
- ・昔はそうだったかもしれないと思う

③浜松で就職したいですか。

はい：32% いいえ：32% どちらともいえない：36%

④「浜松について学ぶ」ことについて、より多くカリキュラムに加えるべきだと思いますか。よろしければ理由も教えてください。

【思う】

- ・自分の住む町について知ることは大切だから
- ・浜松「ものづくりのまち」と言われていることを知らなかったから
- ・知らないことが多いから
- ・印象深い産業があり、もっと知りたいと思ったから
- ・浜松色を色濃く残すため

【思わない】

- ・今の教育でじゅうぶん
- ・浜松に興味がない人もいる
- ・狭い浜松でなく大きな世界を知るべき
- ・多くの人が浜松を出ていくから

- ・パンフレット、冊子でじゅうぶん

⑤. 就業体験やインターンシップ」の他、浜松の企業が授業をするとしたらどのような授業をしてもらいたいですか。

- ・浜松の良さを伝えてもらう授業
- ・客には見えない裏側の様子
- ・もっとその企業の人の生活に深く関わることや、何時に起きるか、何円もらっているか。
- ・実際にものを作っているところを見る
- ・仕事を体験させてもらう
- ・浜松ならではの工夫をしているところを教えて欲しい
- ・企業の宣伝ではなく、職業の特徴や面白さなど実際に入社しないと分からないことを教えて欲しい。
- ・実践的なもの
- ・浜松で働くことのいいところなどを教えてもらいたい。
- ・今、稼ぐためにどんな力が大切か。
- ・工場・企業見学
- ・体験型授業
- ・機械の技術
- ・企業の選び方が分からないからどうやって選んだか教えてもらいたい
- ・地元企業を知りたい
- ・コース別体験
- ・浜松の魅力を話してもらいたい
- ・仕事内容、社内の状況
- ・国際関係
- ・そこで働いている人の意見、考えを聞きたい
- ・自動車等のものづくり系の授業
- ・体験談
- ・企業の商品を使ってみる
- ・働く上で必要なこと講座
- ・仕事を実際に体験する
- ・仕事内容を実演してもらって学ぶ授業
- ・浜松で働く利点、浜松に工場を置いている利点
- ・企業の歴史、技術の紹介
- ・楽器ができるまで
- ・浜松市の問題点
- ・他地域に比べた浜松の良さや労働条件などを教えてもらえる授業
- ・浜松で仕事をする魅力

- ・会社の規則や給料、仕事時間
- ・歴史
- ・伝統工芸
- ・その企業の仕事について詳しく教えてもらう
- ・どのような企業があるのか紹介してほしい
- ・ものづくりの楽しさ、浜松でものづくりをする人の生の意見をきいてみたい
- ・体験型や働いている人の本音が聞けるようなもの、将来の選択に役立つから
- ・その企業で働いている人が高校卒業からどうやってその職に就いたか聞きたい
- ・複数の企業で企業同士のつながりを教える
- ・それまでの企業の軌跡を話す授業
- ・ピアノはどうやって作っているか
- ・浜松でしかできない就業体験がしたい。浜松だけというのが貴重な感じがするし印象づけられると思うから。
- ・音楽な盛んな町であるから楽器について学びたい、楽器の魅力を伝えてもらう授業
- ・PVや実物を使った面白いもの
- ・自分に合った職業の見つけ方。まだ自分のなりたい職業が明確でないから
- ・見るだけでなく、実際にやってみたいと思う。
- ・会社を立ち上げて、どのように売り込んだか
- ・浜松で働くことの良さや盛んな産業を紹介すること
- ・浜松の企業がどう世間に影響を与えているか分かる授業
- ・ものづくりやサービスの良さを教えてもらいたい

⑥「浜松の産業やものづくりを学べる場所」があったとしたら、どのような企業や展示があると行きたくなりますか。

【企業】

- ・有名企業
- ・近年成功した企業
- ・海外を相手にする企業
- ・世界最先端、近未来技術を扱う企業
- ・浜松の主要産業（自動車、楽器 等）

【展示】

- ・実際に体験できる展示
- ・特産品
- ・発明品や特許品
- ・普段見れないもの
- ・ゲーム形式

⑦「浜松の素晴らしさを継続的に学ばせる」ためには、どのような方法がかんがえられますか。

- ・学校の授業に取り入れる
- ・定期的なイベント&スタンプラリー
- ・浜松所縁の人の公演会、企業の講義
- ・映画やアニメの制作、音楽に触れる
- ・アプリの活用

⑧「浜松の名産品」と聞いて、何が思い浮かびますか。

- ・うなぎパイ
- ・うなぎ
- ・みかん
- ・ピアノ
- ・お茶

⑨「公園」でどのような遊びがしたいですか？子供がいる方はどのような遊びをさせたいですか。

- ・遊具（長い滑り台、ブランコ、トランポリン、アスレチック、うんてい、鉄棒）
- ・昔ながらの遊び（鬼ごっこ、かくれんぼ、かんけり、けいどろ）
- ・球技（ドッジボール、バスケット、サッカー、テニス）
- ・現代的な遊び（セグウェイ、ポケモン Go）
- ・普段できない人数規模での遊び

⑩. 就親や親族が事業をしていたり会社を経営している場合、継ぎたいですか、継ぎたくないですか。宜しければ理由も教えて下さい。

【継ぎたくない】

（理由）

- ・自分のやりたいことがあるから
- ・親の敷いたレールに沿っているようでいやだから
- ・本当の意味で自分が経営をできなさそうだから
- ・責任を負うのも比べられるのも嫌だから
- ・自分の好きな職業に就きたいから

- ・特にその仕事に興味がないから
- ・経営することは難しく知識がないから継ぎたくない
- ・仕事まで家族と同じはいやだから
- ・親の仕事にそこまで関心を持っていないので、ふさわしい人に継いでもらいたい
- ・親が大変そうだから
- ・親に頼りすぎるのは印象が悪いと思うから
- ・自分の興味のある仕事に就きたいから
- ・親に口出しをされず自由に仕事をしたいと思うから
- ・自分で自分の将来を決めたいから
- ・自分の幼い頃を知っている人がいてやりにくいから

#### 【継ぎたい】

(理由)

- ・積み上げてきたものを壊したくないから
- ・親が頑張って続けてきたものだから
- ・親が大切にしてきたものなので継ぎたいと思う
- ・その仕事が好きであれば継ぎたい
- ・親が継ぐことを臨んでいるのなら継ぎたいです
- ・今までの前の人たちの努力を無駄にしたくないから
- ・安心だから
- ・親たちが作ってきたものを途切れさせたくないから
- ・親が代々受け継いできた大切な会社だから
- ・積み上げてきたものは壊したくない
- ・新しい就職先を探す必要がないから
- ・自分で経営するため責任感がつくから

#### 【どちらともいえない】

(理由)

- ・仕事の種類による
- ・そのときになってみないとわからない



| 調査記録 |                                         | 資料 5 - 3 |
|------|-----------------------------------------|----------|
| テーマ  | 提言書作成におけるアンケート                          |          |
| 実施日  | 平成 30 年 10 月～11 月                       |          |
| 調査協力 | 商工会議所青年部所属企業                            |          |
| 調査方式 | 無記名、選択式、コメント記載<br>NEW i n g 送付の上 FAX 返信 |          |

### Q1. 業種

- ①製造業 26% ② 建設業 13% ③卸売業 17%  
④小売業 5% ⑤サービス業 26% ⑥その他 13%

### Q2. 創業年

- 創業～20 年 33% 21～40 年 23%  
41 年～60 年 25% 61 年～ 19%

### Q3. 御社は創業から現在何代目ですか？

- 1 代目 41% 2 代目 36.5%  
3 代目 9% 4 代目 13.5%

### Q4. 特許、実用新案権、意匠、商標権のいずれかを登録されていますか？

- 【いる】9% 【いない】91%

上記以外の特殊技術や技能、ブランドがありますか？

- 【ある】41% 【ない】49%

### Q5. 事業拡大、新規展開や商品開発のために連携・コラボレーションしたい業種（自社とは異なる業種）はどのような業種ですか。

- ①製造業 18% ②建設業 13% ③卸売業 13%  
④小売業 25% ⑤サービス業 23% ⑥その他 8%

### Q6. 事業間連携、コラボレーションにおいて課題、障壁があるとしたら何ですか。

- ・コミュニケーション不足
- ・ネットワークが少ない
- ・異業種の情報不足
- ・コンセプト・価値観の共有

### Q7. 現時点において事業承継の準備状況について当てはまるものを選択して下さい。

- ① 十分準備できている 5%  
② ある程度できている 38%  
③ 必要性があると思うがしていない。 38%  
④ 準備の必要性がないと思うのでしていない 14%  
⑤ 廃業予定のためしていない 0%  
⑥ その他 5%

### Q8. 事業承継の準備として取り組んでいる事項について当てはまるものをすべて選択して下さい

- ① 後継者の育成・教育 20%  
② 事業承継計画の作成 0%  
③ 財務状況の改善 16%  
④ 役員、従業員の理解を得ること 11%  
⑤ 取引先、金融機関との関係維持 18%  
⑥ 相続税・贈与税対策 9%  
⑦ 自社株の集約 13%

他回答なし

### Q9. 後継者育成・教育について悩みや課題がありますか。（複数回答可）

- ① 後継者自体がいない 6%  
② 育成、教育の時間がない 16%  
③ 相談先がない 10%  
④ 資金がない 13%  
⑤ 育成、教育方法、プログラムがない 26%  
⑥ 特になし 16% ⑦その他 6% 他回答なし

### Q10. 浜松の産業の農業に参入することを検討したことがありますか。ある場合にはその理由を教えてください。

- 【ある】32% 【ない】68%

【ある】と答えた方の理由

- ・事業として将来性があるか試算したい
- ・まだまだ機械化が進んでいないから
- ・現在自社農園にて試験中
- ・興味本位
- ・安定収入確保

Q11. これから農業へ企業がすることはありますか。

ある場合には具体的にはどのようなことがありますか。

【ある】72%      【ない】18%    他回答なし

【ある】と答えた方の理由

- ・法人化、ブランディング、プロモーション
- ・機械化、省力化、労務管理
- ・販売や紹介、商品コラボ
- ・先端技術の導入、法人化
- ・できることはあると思うが、何をしたいかわからない

Q12. 浜松市でネーミングライツが導入されたことを知っていますか？

【知っている】32%      【知らない】68%

Q13. ネーミングライツ導入は検討に値しますか？

(①知っていると回答された方のみ)

【値する】32%      【値しない】68%

Q14. Q13で①値すると検討された事業所の皆様、ネーミングライツに期待するものはなんですか？

- ・自社ネームバリューの拡大、社会貢献    他未回答

Q15. 御社の情報を発信する場、媒体はありますか。

ホームページ、SNS、ブログ、メルマガ、イベント出店、hamazo、マッチングフェア、DM、業界情報誌等

Q16. より成果を得るために必要とする支援はありますか。

- ・共同的なサイトの充実をはかる為の援助及びネットワーク形成

- ・地域との情報交換の場を作る。発信の場を明確化

(全般的、専門的)

- ・他業種とのマッチング
- ・商工会議所が登録者に毎日企業を紹介する SNS 発信
- ・メディアとの交流
- ・浜松市の情報発信協力

## 提言委員会例会



4月、5月例会では、『浜松とはどんな都市なのか』を再検討しました。



月々の例会では各小委員会に分かれたグループミーティングを行い非常に活発な議論が交わされました。

## 小委員会

各小委員会ごとにテーマについて熱く議論を交わし提言を作り上げました。

【中村俊介小委員会】

【黒木研一小委員会】



【柳生七重小委員会】



【伊藤祐尚小委員会】





## 提言視察研修



浜松との共通点と相違点の両方を視察するために広島と大阪に向かいました。



広島 YEG の皆様に広島の経済や YEG としての取り組みを教えてくださいました。



浜松と広島の農業の取り組みの違いを学ぶことができました。



広島県立広島産業会館にてメイドイン広島の企業と商品の PR の仕方を伺いました。



てらやまプレーパークにて運営方法と子供たちの様子について話を伺いました。



大阪では山野千枝先生に事業承継の為の人材育成についてお話を伺いました。





MOBIO【ものづくりビジネスセンター大阪】にて企業間連携への取り組みについてお話を伺いました。



台風21号の大阪上陸が決定的になり泣く泣く予定をキャンセルし帰浜松となりましたが、提言書作成の非常に重要な学びとなりました。

## 追加調査



企業の強みと情報受発信のヒアリング。



東京都西部緑地事務所にてかいぼり運営管理についてのヒアリング。



高校生の人材育成に関してのヒアリング。



静岡大学にて大学生の後継人材育成についてのヒアリング。



## 提言発表会



## あとがき

浜松商工会議所青年部では、設立当初より33年間、欠かすことなく時代に合わせた形で浜松の未来を考え提言活動を行ってきました。本年度は、行政のみならず、広く想いを伝えるために、提言先を制限しない形で調査研究できるように、政策委員会の名称を提言委員会と変更し活動してまいりました。

そして今ここに、しっかりと伝統を引き継ぎ、ありったけの想いを込めた、平成最後の提言書が完成しました。

昨今、人口減少に端を発し、ロボット化やAI、IoTなどの進歩により、15年後には今ある仕事の49%が無くなるとされています。そんな時代の大きなうねりの中、今年度スローガン「実りある明日へ！繋げよう浜松 YEG」を受けて、今一度基本に立ち返り、浜松商工会議所の本懐である地域経済の活力向上と、地域振興に資する基盤である「企業」に着目し、テーマを「Maker 都市浜松 100年後に繋げる ヒト・モノ・伝統・etc.」と決めました。

Maker=浜松の企業や生産者と捉え、今ある誇り、未来の子供たち、自然の恵、浜松の企業を次代へ繋ぐために100年続くための施策を、より具体的に考え、実践・実現できることを念頭に入れ、提言書にまとめました。提言書の内容は浜松商工会議所青年部のみの活動では実現できることが限られてしまいます。

しかし、浜松地域の多くの方と想いを共にし、互いに考え、手を取り合うことができれば、100年後により良い浜松を繋いでいくことが可能だと考えます。是非この提言書を、より多くの方の手に取っていただき、ご一読いただければ幸いです。

最後となりますが、より素敵な浜松の実現のために一年間、浜松の未来に真剣に向き合ってきたメンバーと出会い時間を共にできたこと、そして提言書作成にあたり、想いを共有していただき、調査や研究にあたり、多大なご協力をいただいた全ての関係者の皆様に、この場をお借りして、厚く深く感謝を申し上げます。

誠にありがとうございました。そして100年後に向けて、これからもよろしくお願い致します。

浜松商工会議所青年部  
提言委員会担当副会長 **鈴木 仁**



## 初代提言委員会メンバー



提言委員会担当副会長

鈴木 仁



提言委員会委員長

鈴木 基信

### 提言1 繋×【誇】～100年後に繋げる Made in 浜松～

浜松 BP コネクト構想 繋げるために、伝えていく「B to B・B to C」+「B to P」

担当副委員長 中村 俊介

メンバー 石岡靖雅、内山貴仁、江塚元康、岡島直樹、加藤智成  
加藤博三、鎌田安啓、小林範夫、鈴木健正、殿村直之

### 提言2 繋×【育】～100年後に繋げる 公園が育む郷土愛～

浜松 Park 構想 公園を人と企業を繋ぎ郷土愛を生み出す場へ

担当副委員長 黒木 研一

メンバー 影山剛史、川合貴久、谷 友則、寺田 悠、鳥飼晶子  
長谷川行信、水谷拓郎、山田和利、吉間章悦

### 提言3 繋×【実】～100年後に繋げる 『農』maker 都市浜松～

浜松「リノベジ」デザイン 恵まれたこの地で農業を繋ぐ

担当副委員長 柳生 七重

メンバー 渥美昇亮、井口裕司、大城剛、小山太郎、富田悠、中村吉宏  
中山拡紀、長谷川角弥、藤本昌紀、藤原真紀子、山下祐司

### 提言4 繋×【継】～100年後に繋げる 「浜松中小企業プレミアムサポート」～

産学官で連携・共創して浜松全体で中小企業の現在・未来を繋ぐサポート

担当副委員長 伊藤 祐尚

メンバー 浅倉直樹、兼子健一、高橋修、疋田通丈、松井小織  
眞鍋直也、村松貴通、山田哲司、渡辺文司

事務局担当 楠野泰弘



<事務局>

浜松商工会議所会員共済課

〒432-8501 浜松市中区東伊場二丁目7番1号

TEL：053-452-1113 FAX：053-452-6685

青年部 Email：[yeg@hamamamatsu-cci.or.jp](mailto:yeg@hamamamatsu-cci.or.jp)

青年部 H P：<http://www.hyeg.jp/>